参考資料2

兵庫県ケアラーの実態に係る福祉機関
調査中間報告（資料編）

（ケアラーの実態に係る福祉機関調査中間報告）

〇地域包括支援センター、介護支援専門員等

〇障害者（児）相談支援事業所

〇民生委員・児童委員

（ヤングケアラーの実態に係る福祉機関調査中間報告）

〇要保護児童対策地域協議会

〇民生委員・児童委員、こども食堂、地域包括支援センター 介護支援専門員等、障害者（児）相談支援事業所）

兵庫県ケアラーの実態に係る
福祉機関調査
（地域包括支援ｾﾝﾀｰ・介護支援専門員）

調査の目的・内容及び分析方法

調査目的及び主な調査内容

【調査目的】
・ケアの状況、ケアラーへの影響、支援ニーズ等を把握し、支援方策の策定に役立てる。
【主な調査項目】
・ケアラー自身について　・ケアの状況について　・ケアの影響について
・ケアに関する相談について　・必要な支援について　など
【調査区域】
・兵庫県全域
【調査対象】
・地域包括支援センター、介護支援専門員を利用している介護者（ケアラー）
【回答者数】
・３０９人

分析方法

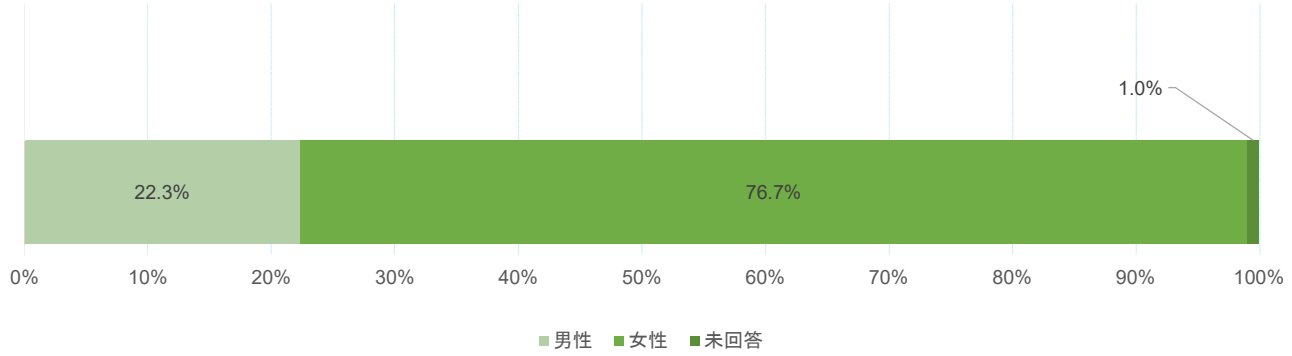
・調査票各設問の単純集計を行い、調査結果に関する詳細な分析を行った。
・設問の内、ケアラーがケアする被介護者に関する事項に関する設問を集計する際は、被介護者（３６９人）毎に集計を行った。

１．ケアラーの属性

１－１　ケアラーの性別

ケアラー本人（N=309）の性別の構成割合をみると、「男性」22.3%、「女性」76.7%であった。

図表1-1　ケアラーの性別の割合

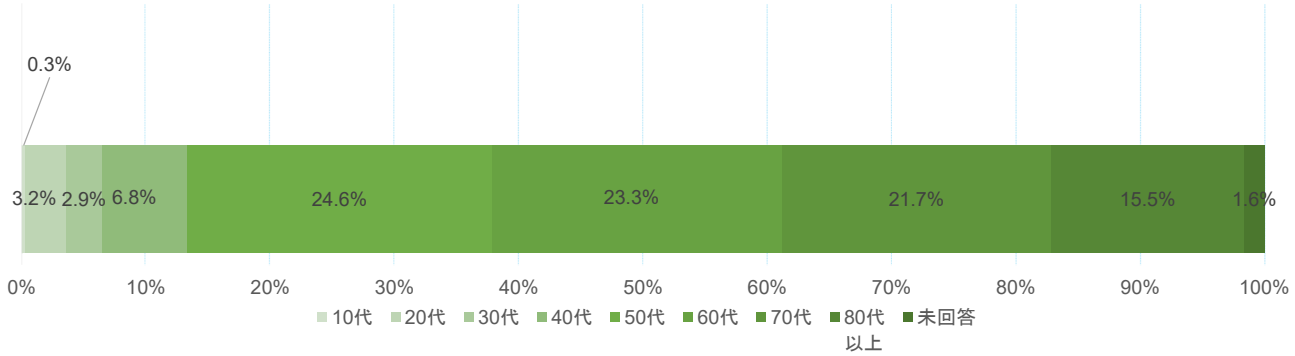


	男性	女性	未回答
ケアラー総数（N=309）	69	237	3
割合（%）	22.3%	76.7%	1.0%

１－２　ケアラーの年齢

ケアラー本人（N=309）の年齢の構成割合をみると、「50代」（N=76）が24.6%で最も高く、次いで、「60代」（N=72）が23.3%、「70代」（N=67）が21.7%の順であった。（平均：64.1歳）

図表1-2　ケアラーの年齢の割合

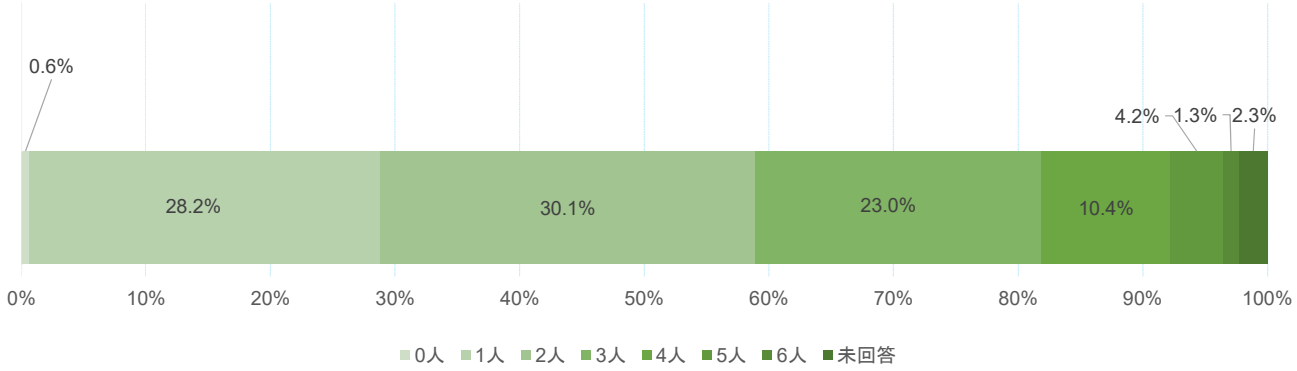


	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	未回答
ケアラー総数（N=309）	1	10	9	21	76	72	67	48	5
割合（%）	0.3%	3.2%	2.9%	6.8%	24.6%	23.3%	21.7%	15.5%	1.6%

１－３　ケアラーの同居家族

ケアラー本人（N=309）の同居人数（自身を含む）の構成割合をみると、「2人」（N=93）が30.1%で最も高く、次いで、「1人」（N=87）が28.2%、「3人」（N=71）が23.0%の順であった。

図表1-3　ケアラーの同居家族の割合

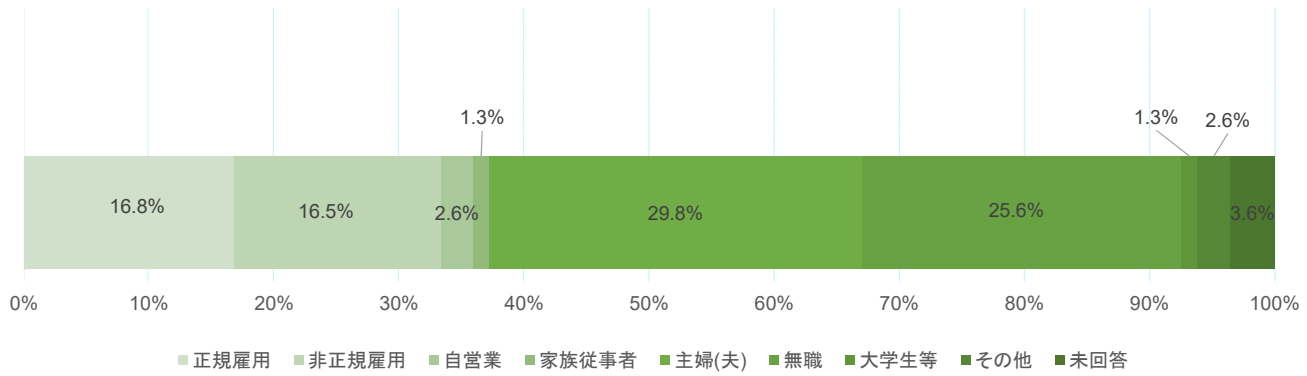


	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	未回答
ケアラー総数（N=309）	2	87	93	71	32	13	4	7
割合（%）	0.6%	28.2%	30.1%	23.0%	10.4%	4.2%	1.3%	2.3%

１－４　ケアラーの就労状況等

ケアラー本人（N=309）の就労状況等の構成割合をみると、「主婦（夫）」（N=92）が29.8%で最も高く、次いで、「無職」（N=79）が25.6%、「正規雇用」（N=52）が16.8%の順であった。

図表1-4　ケアラーの就労状況等の割合



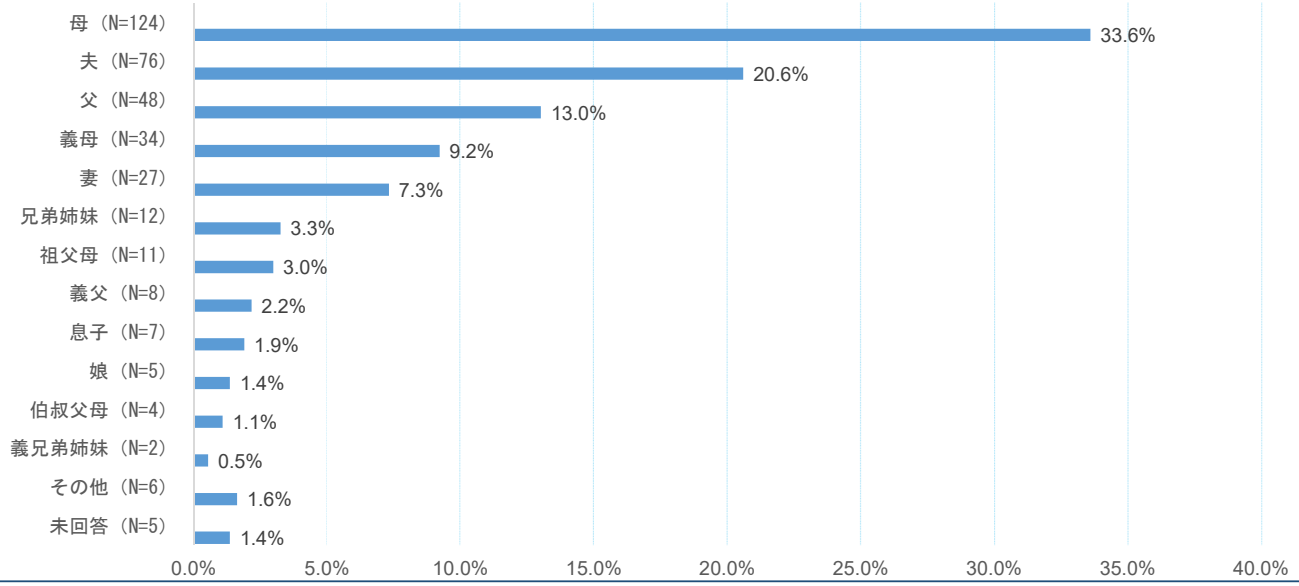
	正規雇用	非正規雇用	自営業	家族従事者	主婦（夫）	無職	大学生等	その他	未回答
ケアラー総数（N=309）	52	51	8	4	92	79	4	8	11
割合（%）	16.8%	16.5%	2.6%	1.3%	29.8%	25.6%	1.3%	2.6%	3.6%

２．被介護者の属性

２－１　被介護者の属性

被介護者（N=369）のケアラーとの続柄の構成割合をみると、「母」（N=124）が33.6%で最も高く、次いで、「夫」（N=76）が20.6%、「父」（N=48）が13.0%の順であった。

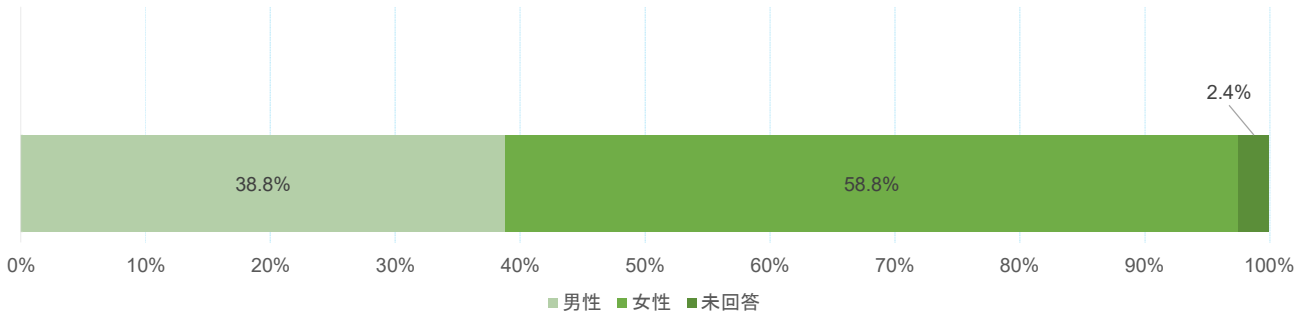
図表2-1　被介護者の属性（複数回答）



２－２　被介護者の性別

被介護者（N=369）の性別の構成割合をみると、「男性」38.8%、「女性」58.8%であった。

図表2-2　被介護者の性別の割合

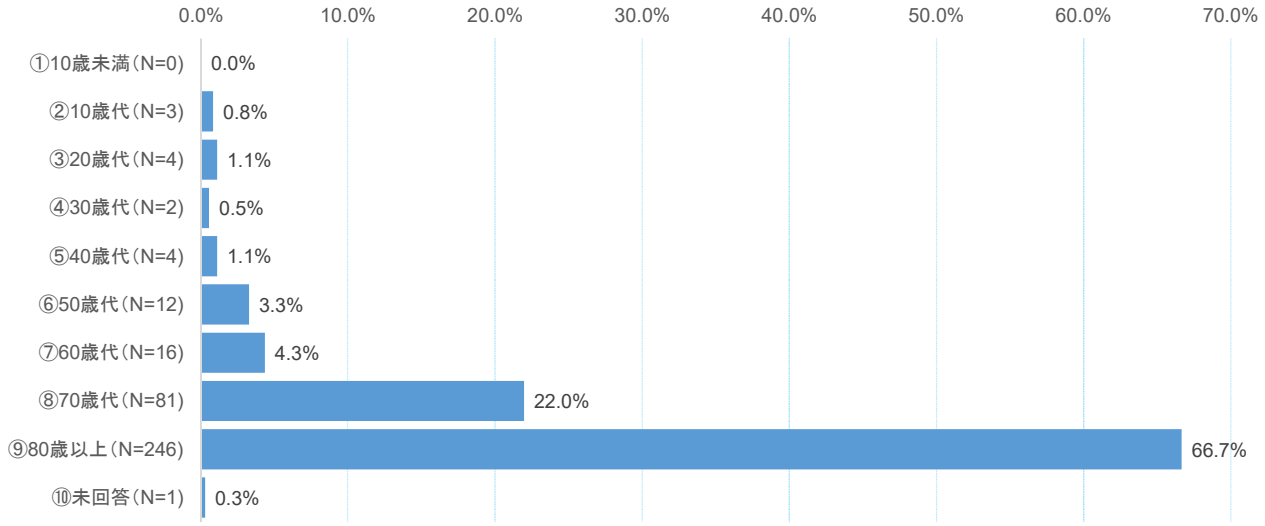


	男性	女性	未回答
被介護者数（N＝369）	143	217	9
割合（%）	38.8%	58.8%	2.4%

２－３　被介護者の年齢

被介護者（N=369）の年齢の構成割合をみると、「80歳以上」（N=246）が66.7%で最も高く、次いで、「70代」（N=81）が22.0%、「60代」（N=16）が4.3%の順であった。

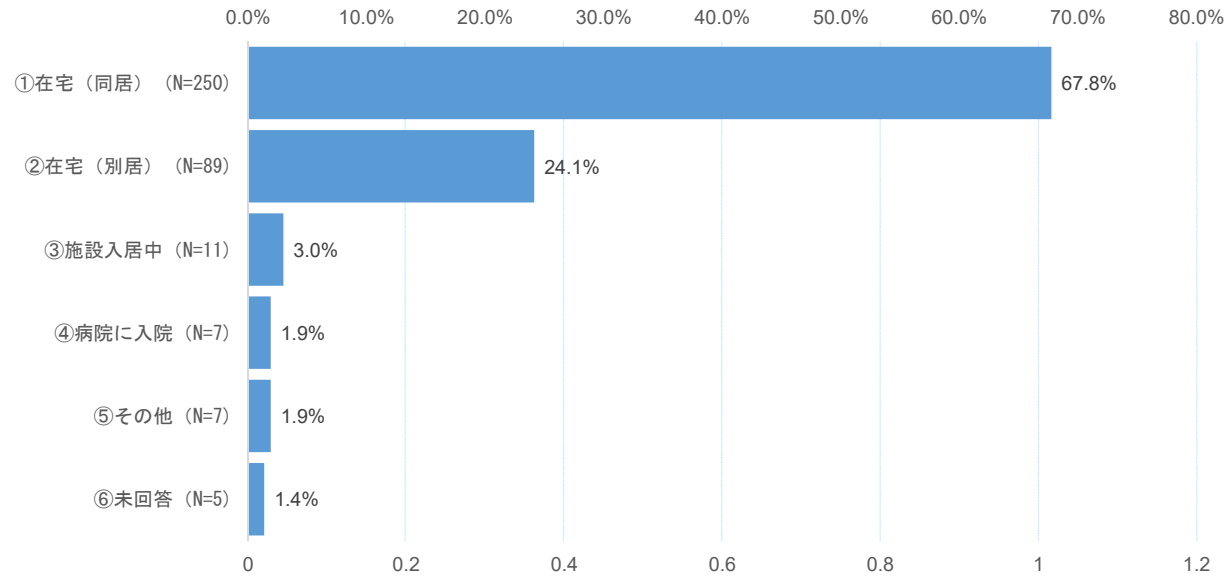
図表2-3　被介護者の年齢の割合



２－４　被介護者の生活場所

被介護者（N=369）の生活場所の構成割合をみると、「在宅（同居）」（N=250）が67.8%で最も高く、次いで、「在宅（別居）」（N=89）が24.1% の順であった。

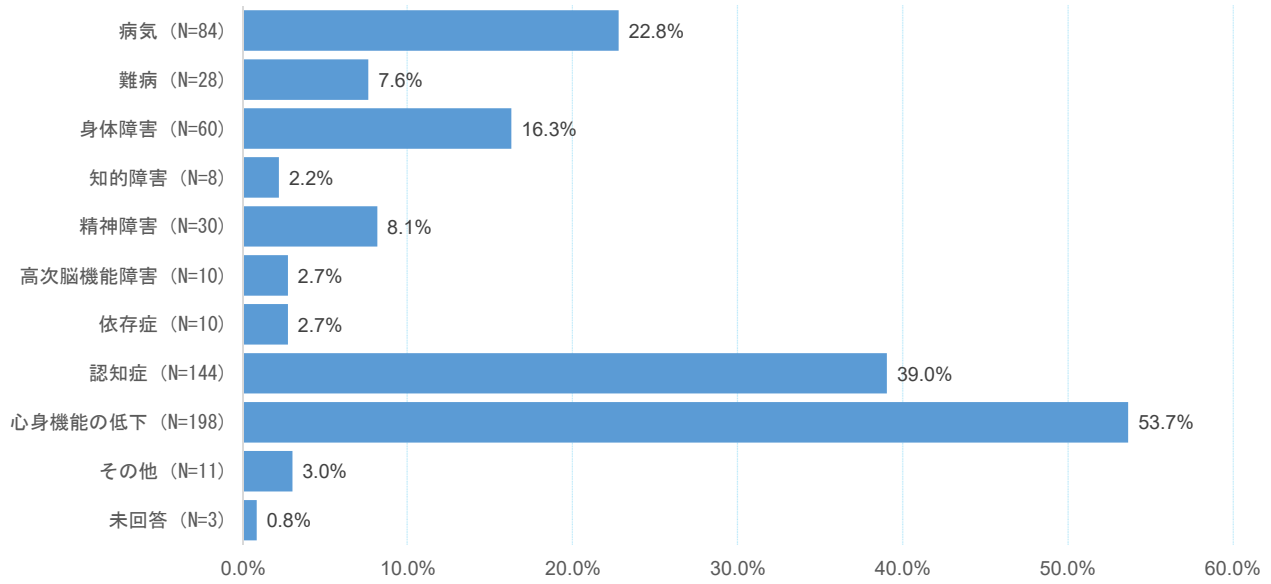
図表2-4　被介護者の生活場所の割合



２－５　被介護者の状況

被介護者の状況（N=369）をみると、「心身機能の低下」（N=198）が53.7%で最も高く、次いで、「認知症」（N=144）が39.0%、「病気」（N=84）が22.8%の順であった。

図表2-5　被介護者の状況（複数回答）

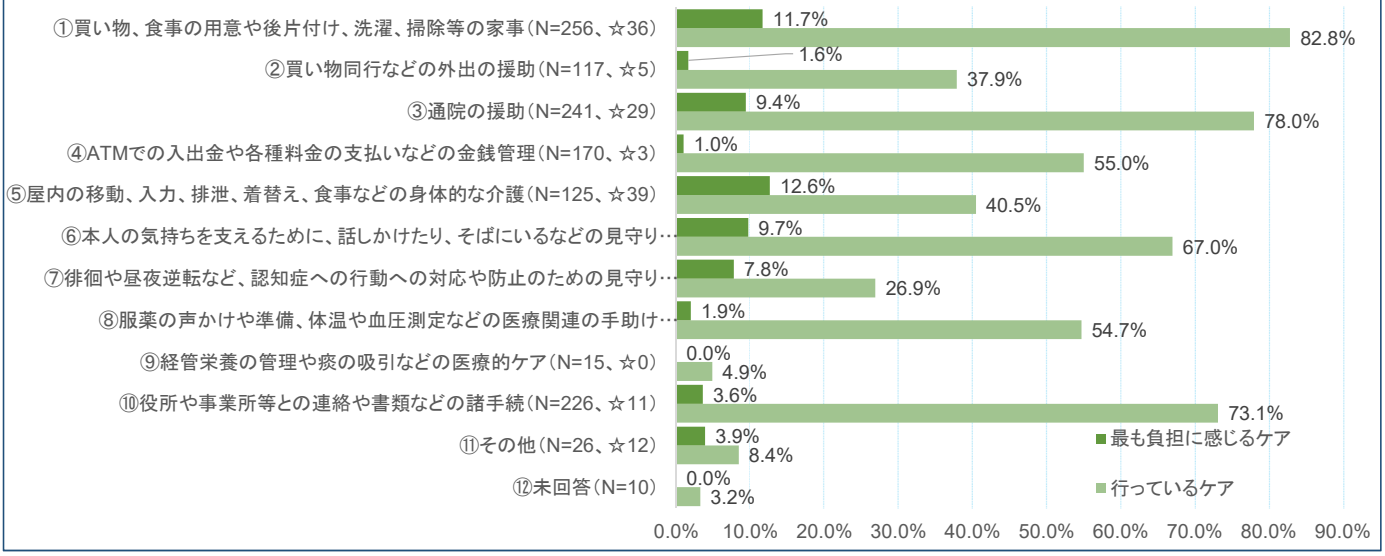


３．ケアの状況

３－１　ケアの内容

ケアラーの行っているケアの内容（N=309）をみると、「食事、洗濯、掃除等の家事」（N=256）が82.8%で最も高く、次いで、「通院の援助」（N=241）が78.0%、「役所等との連絡・諸手続」（N=226）が73.1%の順であった。そのうち、最も負担を感じるケア内容は、「身体的な介護」（N=39）が12.6%で最も高く、次いで、「食事、洗濯、掃除等の家事」（N=36）が11.7%の順であった。

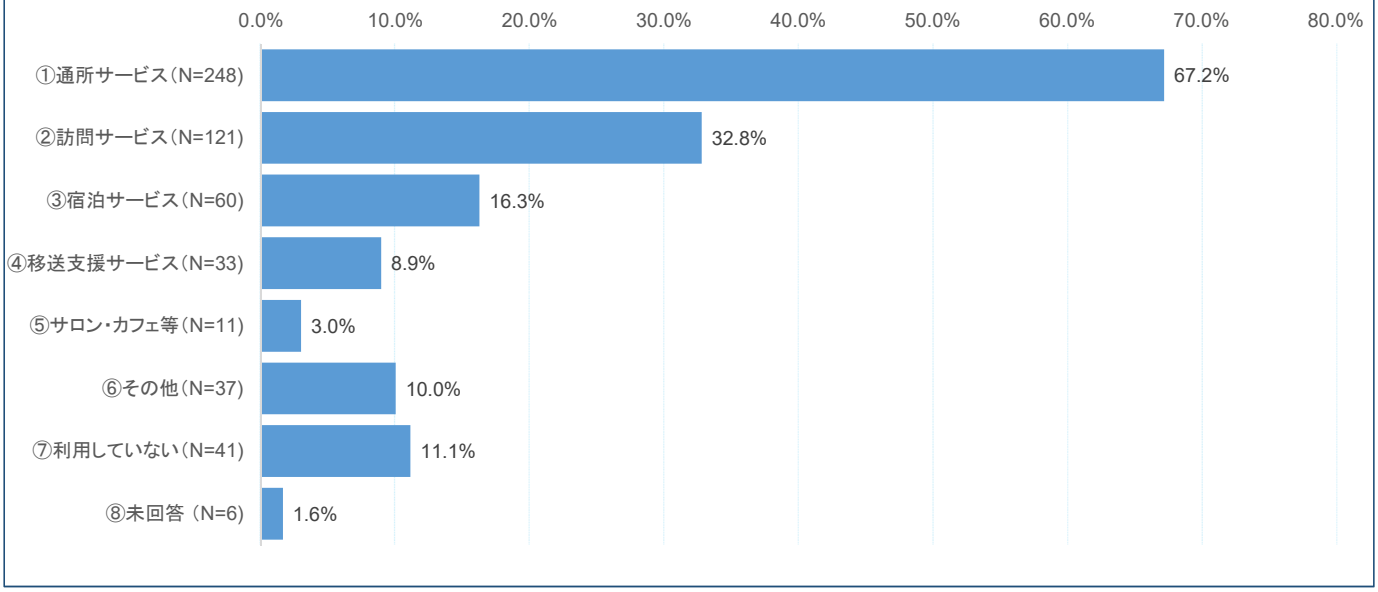
図表3-1　ケアラーにおけるケアの内容（複数回答）



３－２　利用している（していた）サービス

利用している（していた）サービス（N=369）をみると、「通所サービス」（N=248）が67.2%で最も高く、次いで、「訪問サービス」（N=121）が32.8%　、「宿泊サービス」（N=60）が16.3% の順であった。

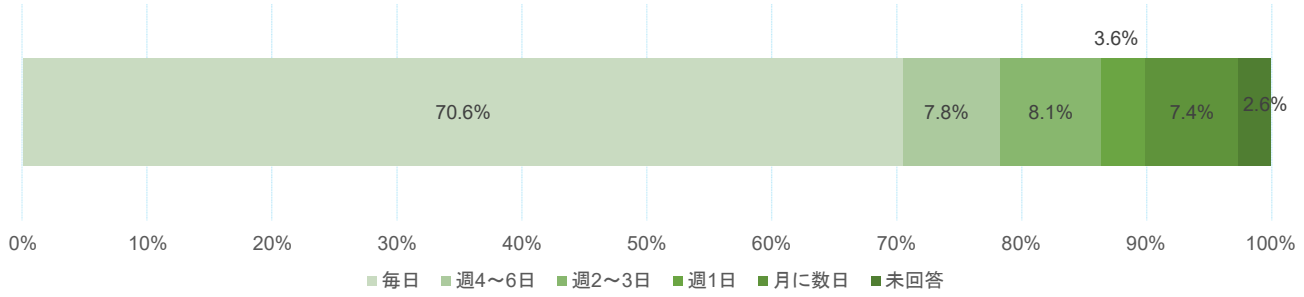
図表3-2　利用している（していた）サービス（複数回答）



３－３　ケアラーのケアの頻度

ケアラー（N=309）のケアの頻度をみると、「毎日」（N=218）が70.6%で最も高く、次いで、「週2～3日」（N=25）が8.1%、「週4～6日」（N=24）が7.8%の順であった。

図表3-3　ケアの頻度の割合

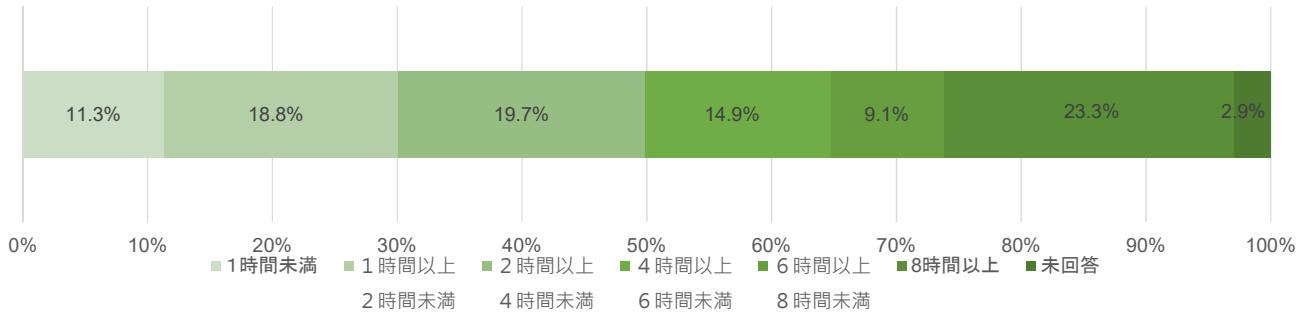


	毎日	週4～6日	週2～3日	週1日	月に数日	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N＝309）	218	24	25	11	23	8
割合（%）	70.6%	7.8%	8.1%	3.6%	7.4%	2.6%

３－４　ケアにかける時間

ケアにかける時間（N=309）の構成割合をみると、「8時間以上」（N=72）が23.3%で最も高く、次いで、「2時間以上4時間未満」（N=46）が19.7% 、「1時間以上2時間未満」（N=58）が18.8%の順であった。

図表3-4　ケアにかける時間の割合

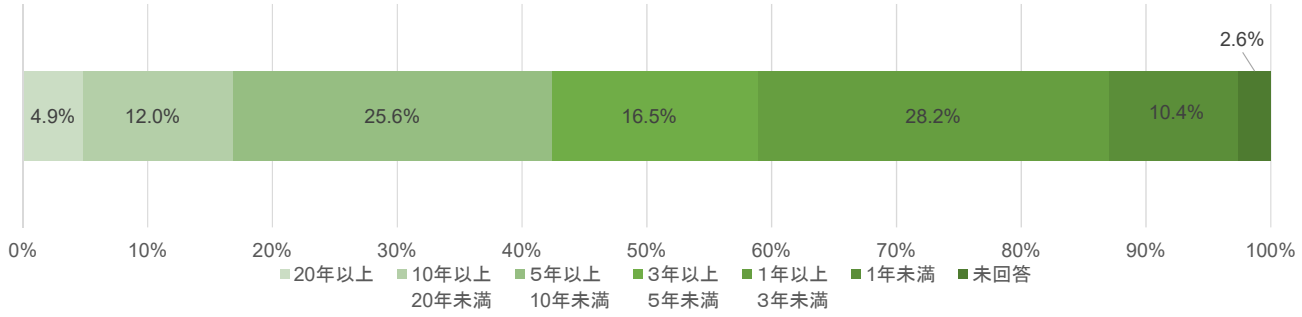


	1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N=309）	35	58	61	46	28	72	9
割合（%）	11.3%	18.8%	19.7%	14.9%	9.1%	23.3%	2.9%

３－５　ケアの期間

ケアの期間（N=309）の構成割合をみると、「1年以上3年未満」（N=87）が28.2%で最も高く、次いで、「5年以上10年未満」（N=79）が25.6%、「3年以上5年未満」（N=51）が16.5%の順であった。

図表3-5　ケアの期間の割合



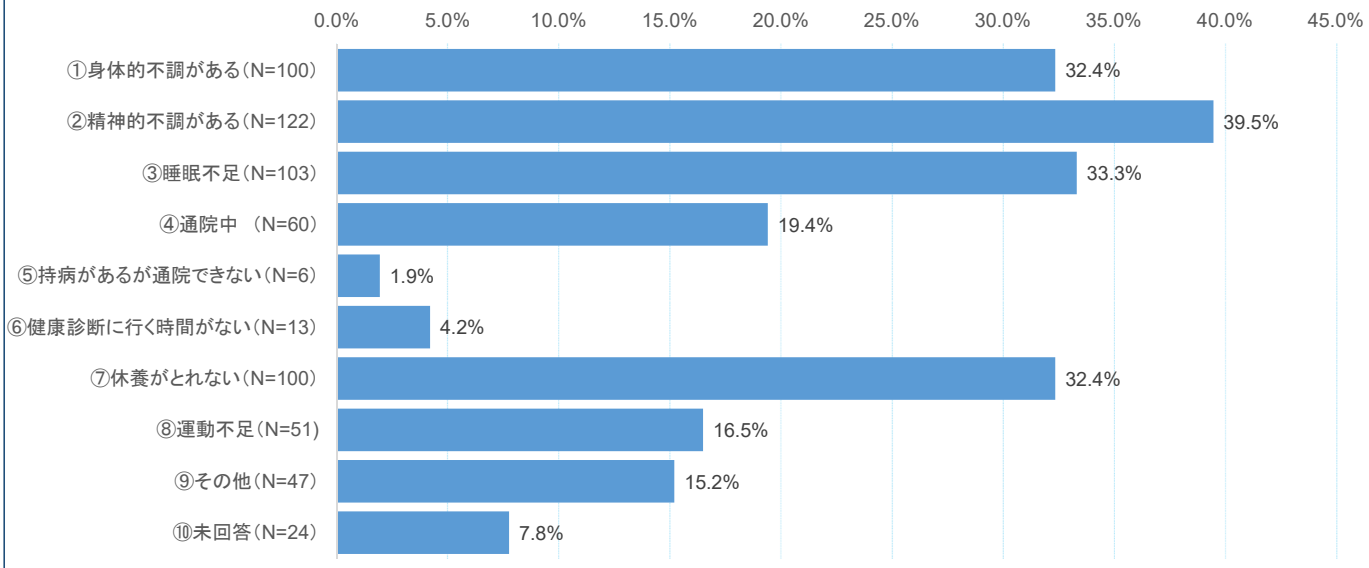
	20年以上	10年以上 20年未満	５年以上 10年未満	３年以上 ５年未満	１年以上 ３年未満	1年未満	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N=309）	15	37	79	51	87	32	8
割合（%）	4.9%	12.0%	25.6%	16.5%	28.2%	10.4%	2.6%

４．ケアの影響

４－１　ケアラー本人の健康状態

ケアラー本人の健康状態（N=309）をみると、「精神的不調」（N=122）が39.5%で最も高く、次いで、「睡眠不足」（N=103）が33.3%　、「身体的不調」「休養がとれない」（N=100）が32.4% の順であった。

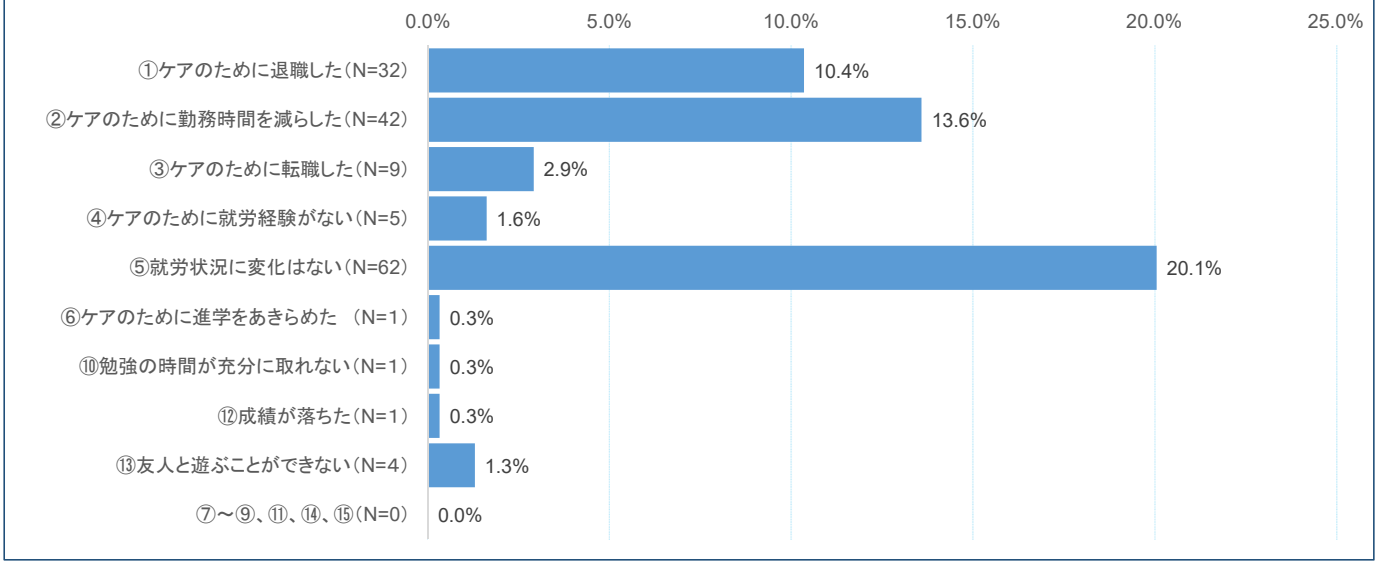
図表4-1　ケアラー本人の健康状態（複数回答）



４－２－１　ケアによる就労・就学への影響（就労・就学）

ケアによる就労・就学への影響（就労・就学）（N=309）をみると、「就労状況に変化はない」（N=62）が20.1%で最も高く、次いで、「ケアのために勤務時間を減らした」（N=42）が13.6%　、「ケアのため退職した」（N=32）が10.4% の順であった。

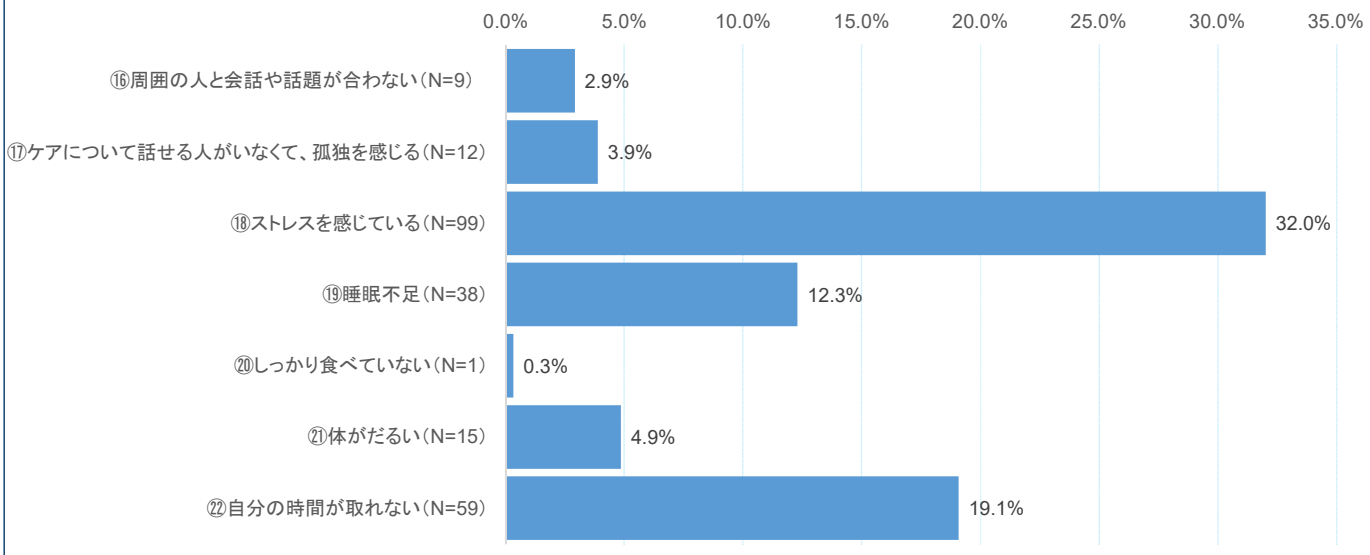
図表4-2-1　ケアによる就労・就学状況の変化の割合（複数回答）



４－２－２　ケアによる就労・就学への影響（その他）

ケアによる就労・就学への影響（その他項目）（N=309）をみると、「ストレスを感じている」（N=99）が32.0%で最も高く、次いで、「自分の時間が取れない」（N=59）が19.1%　、「睡眠不足」（N=38）が12.3% の順であった。

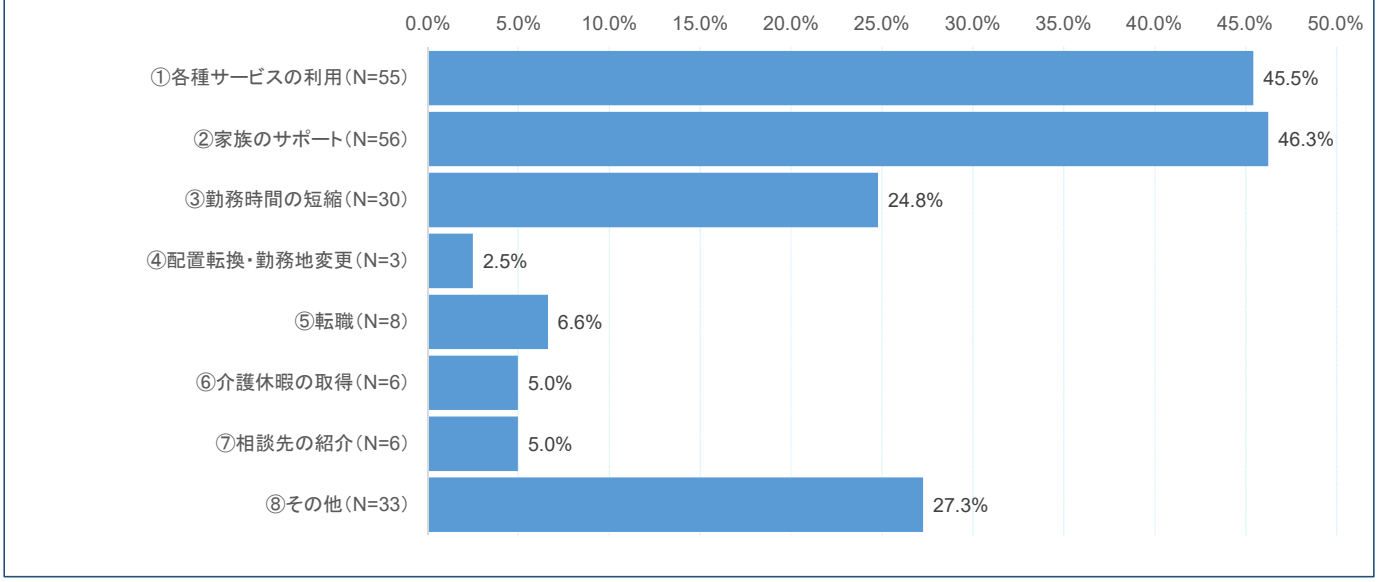
図表4-2-2　ケアによる就労・就学への影響の割合（複数回答）



４－３　就労を続けられている理由

就労を続けられている理由（N=121）をみると、「家族のサポート」（N=56）が46.3%で最も高く、次いで、「各種サービスの利用」（N=55）が45.5%　、「その他（有期休暇、職場の理解、自営業など）」（N=33）が27.3%の順であった。

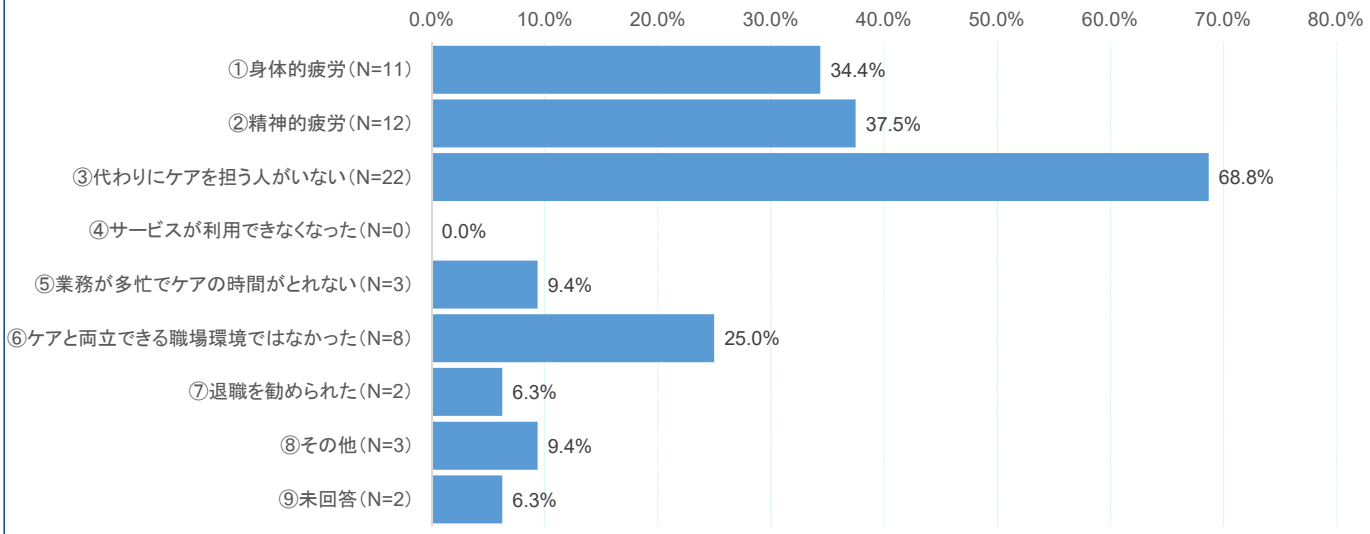
図表4-3　就労を続けられている理由（複数回答）



４－４　ケアのために退職・退学した理由

ケアのために退職・退学した理由（N=32）をみると、「代わりにケアを担う人がいない」（N=22）が68.6%で最も高く、次いで、「精神的疲労」（N=12）が37.5%　、「身体的疲労」（N=11）が34.4%の順であった。

図表4-4　ケアのために退職・退学した理由（複数回答）

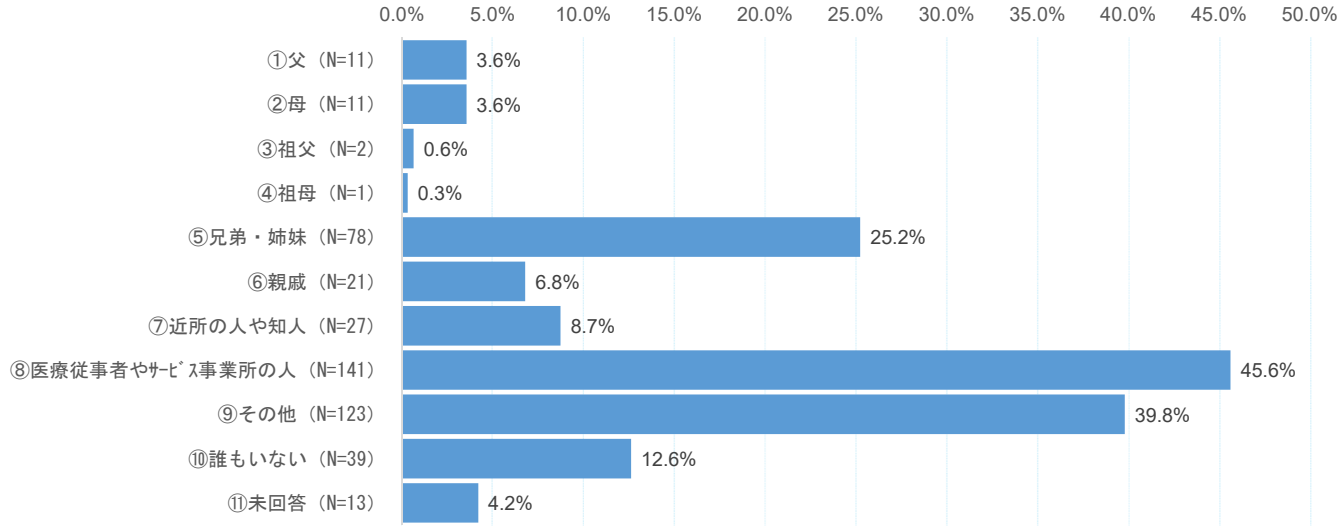


５．ケアに関する相談

５－１　ケアに協力してくれる人

ケアに協力してくれる人（N=309）をみると、「医療従事者やサービス事業所の人」（N=141）が45.6%で最も高く、次いで、「その他（夫、妻、息子など）」（N=123）が39.8%、「兄弟姉妹」（N=78）が25.2%の順であった。

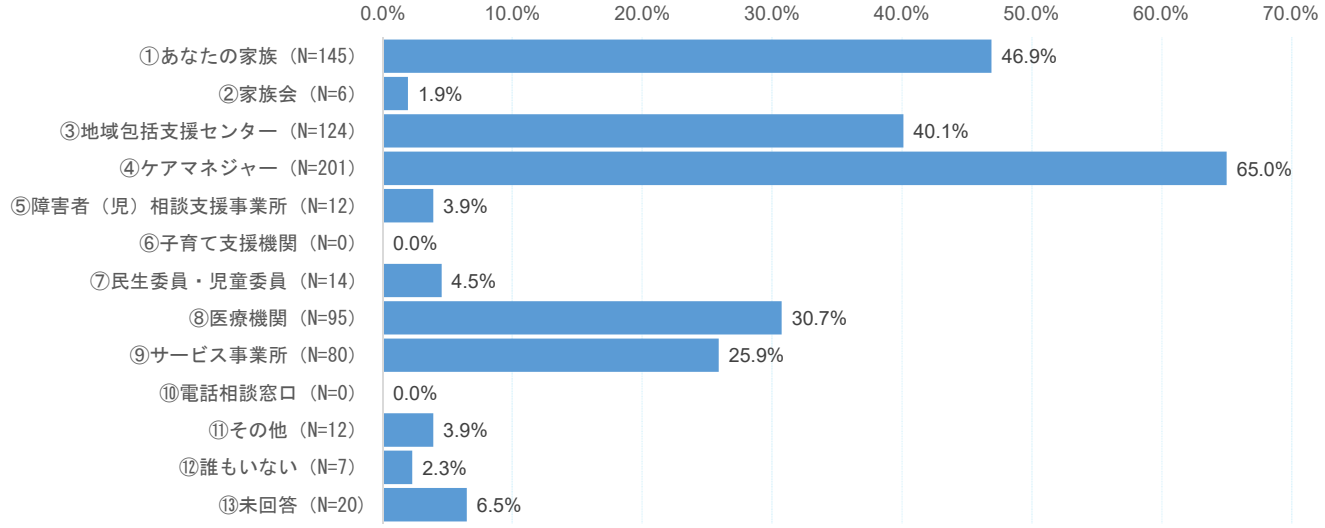
図表5-1　ケアに協力してくれる人（複数回答）



５－２　相談している窓口・機関

信頼して相談している窓口・機関（N=309）をみると、「ケアマネジャー」（N=201）が65.0%で最も高く、次いで、「家族」（N=145）が46.9%、「地域包括支援センター」（N=124）が40.1%の順であった。

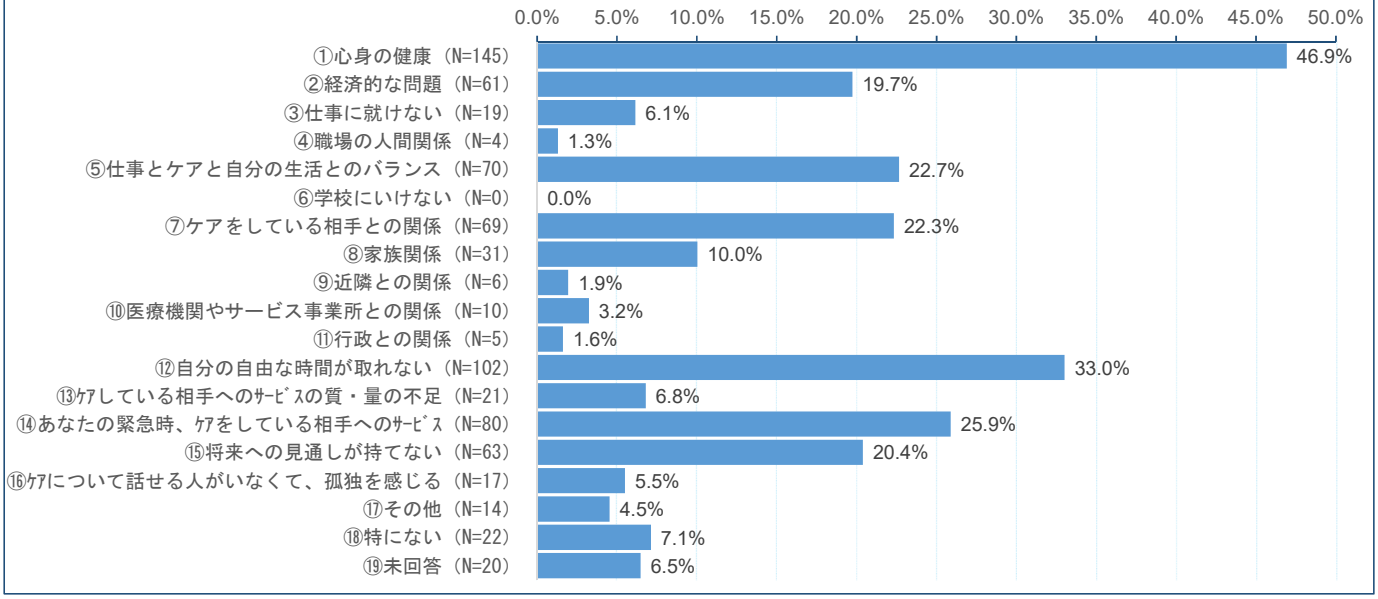
図表5-2　相談している窓口・機関（複数回答）



５－３　ケアラーの悩み

ケアラー本人の悩み（N=309）をみると、「心身の健康」（N=145）が46.9%で最も高く、次いで、「自分の自由な時間が取れない」（N=145）が46.9%、「緊急時のケアをしている相手へのサービス」（N=80）が25.9%の順であった。

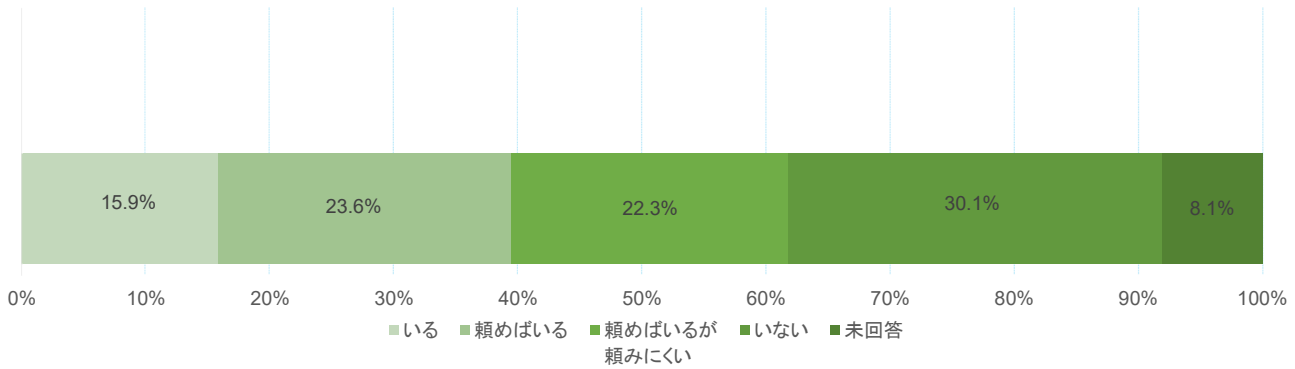
図表5-3　ケアラーの悩み（複数回答）



５－４　代わりにケアを担ってくれる人の有無

代わりにケアを担ってくれる人の有無（N=309）の構成割合をみると、「いない」（N=93）が30.1%で最も高く、次いで、「頼めばいる」（N=73）が23.6%、「頼めばいるが頼みにくい」（N=69）が22.3%の順であった。

図表5-4　代わりにケアを担ってくれる人の有無の割合



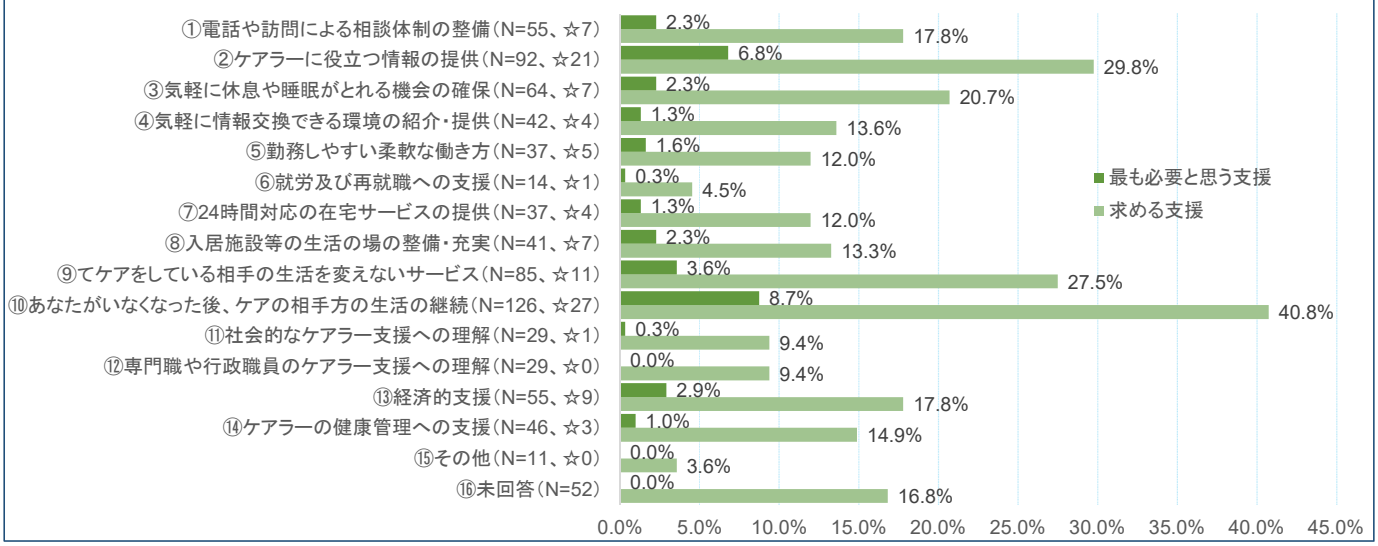
	いる	頼めばいる	頼めばいるが頼みにくい	いない	未回答
ケアラー総数（N=309）	49	73	69	93	25
割合（%）	15.9%	23.6%	22.3%	30.1%	8.1%

６．求める支援

６－１　必要と考える支援

必要と考える支援（N=309）をみると、「ケアの相手方の生活の継続」（N=126）が40.8%で最も高く、次いで、「役立つ情報の提供」（N=44）が29.8% の順であった。そのうち、最も必要と思われる支援も、「ケアの相手方の生活の継続」（N=27）が8.7%で最も高く、次いで、「役立つ情報の提供」（N=21）が6.8%の順であった。

図6-1　必要と考える支援の割合

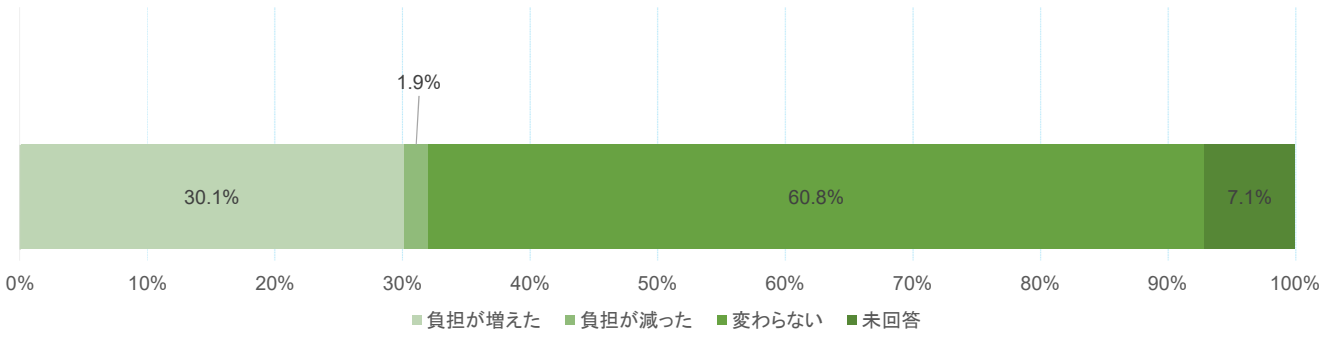


７．その他

７－１　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策前後でのケアの状況

新型コロナウイルス感染症対策前後でのケアの状況（N=309）の割合を見ると「負担が増えた」（N=93）30.1%、「負担が減った」（N=6）1.9%、「変わらない」（N=188）60.8%であった。

図表7-1　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策の前後での
ケアの状況の変化の割合



	負担が増えた	負担が減った	変わらない	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N=309）	93	6	188	22
割合（%）	30.1%	1.9%	60.8%	7.1%

７－２　行政、関係機関等への要望

・「24時間対応の在宅サービスの提供」の充実を望んでいる。

・　ケアラー緊急時のショートステイの対応をスムーズにできる様にお願いしたい。

・　平日中（8:30-17:30）しか連絡がとれない機関が多く、仕事から抜けて電話をかけている。夜間、休日に　連絡が取れる、もしくはメールでのやり取りなど、仕事に支障が出ない工夫を望む。（ケアラーが職場で肩身が狭くなる理由になる）

・　自分に何かあった時の不意の事故の時などが一番気にかかる。

・　ケアラーの人にも息抜きできるようなサービス環境などもっとできれば助かります。

・　特養は増やしてほしいです。年金が少ない人にとっては、金額が多少抑えられる施設が必要。子供(介護　者)にも自分たちの生活があるわけですから。もっと現場、現実を知ってほしいです。

・周囲の理解（職場内）。ケアラー自身も周囲に伝えることも大切。

・ケアラー支援の視点からみた在宅介護について行政や関係機関が連携してほしい

・ケアラーに対する精神面や経済面のフォロー

・ケアラー自身が孤独や孤立を感じることがないよう役立つ情報や日頃からのサポートがあるとありがたい。

７－２　行政、関係機関等への要望

・ケアをしている相手の実情を知っている人で不安や愚痴を話せる人が身近にいない。お世話になっている関係者に共感していただけるとホッとすることがある。
行政や関係期間の方々には、本人はもとよりケアラーの心に寄り添って言葉がけ等をしていただければ気持ちが楽になる人が多いと思う。

・民生委員、児童委員も含め、どんな些細なことでも話しやすい窓口で受け止めてほしい。

・友人でも知人でも親戚でもなく、思いきって心を話せる行政や関係機関がもっとあれば助かる。

・なかなか相談に乗ってほしいと思っても、内容によってどこに行っていいかわからないし、行政の方の対応も親切ではあるが、親身にはなってもらえない。

・こどもや若者ケアラーを第一に考えてほしい。一番に支援してあげてほしい。

・毎日が精一杯で考えられません。

・ケアラーという呼称をやめてもらいたい。失礼です。英語を正しく学び日本語を正しく使ってもらいたい。親を世話することが義務とするが、子供のいない個人はどうなるのか？何故社会主義、共産主義的な思想で行政を行うのかとても迷惑な話である。

７－３　新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと

・　認知症の為、コロナが理解できず、感染予防対策ができない。

・　外出を控える事でケアをしている相手と一緒にいる時間が増え精神的に疲れる

・　支援する側も過敏になっている。仕方がないが高齢のケアラーには精神的な負担が大きい

・　入院時等面会が制限されるため状況が把握しにくい。また、急な退院により調整出来ていない事がある。

・　コロナがあるので、高齢の両親のところへ長居できないので気を遣います。

・　私の他にケアしてくれる家族が遠距離のため帰省もしにくくなった

・　今のままではいけないとは思っていますがつい感染の事を考えてしまって一歩が踏み出せないでいる。

・　私(ケアラー)が感染し療養生活に入りましたが、ケアの相手も感染してしまい誰にも預けることができなかったので療養しながら看病をすることになりました。お互い一番症状がきつい時は心身ともに非常につらかったです。

兵庫県ケアラーの実態に係る
福祉機関調査
（障害者相談支援事業所）

調査の目的・内容及び分析方法

調査目的及び主な調査内容

【調査目的】
・ケアの状況、ケアラーへの影響、支援ニーズ等を把握し、支援方策の策定に役立てる。
【主な調査項目】
・ケアラー自身について　・ケアの状況について　・ケアの影響について
・ケアに関する相談について　・必要な支援について　など
【調査区域】
・兵庫県全域
【調査対象】
・障害者相談支援事業所を利用している介護者（ケアラー）
【回答者数】
・９２人

分析方法

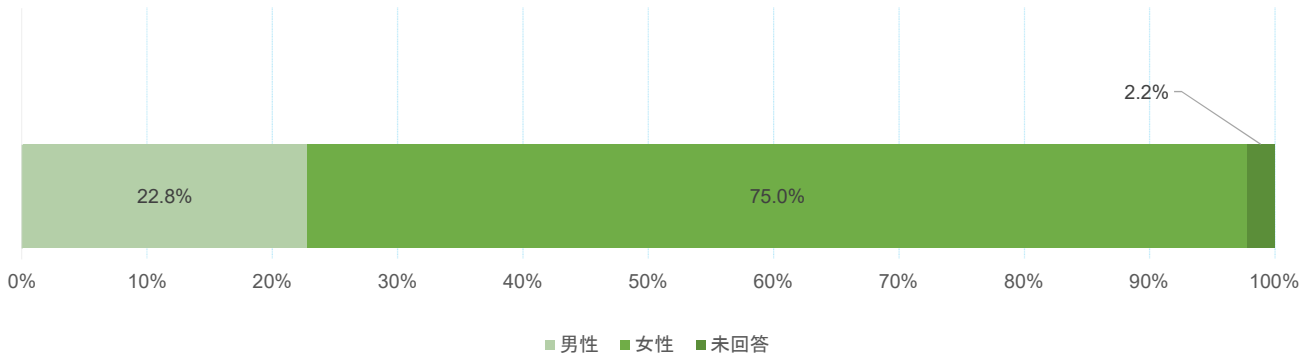
・調査票各設問の単純集計を行い、調査結果に関する詳細な分析を行った。
・設問の内、ケアラーがケアする被介護者に関する事項に関する設問を集計する際は、被介護者（１１３人）毎に集計を行った。

１．ケアラーの属性

１－１　ケアラーの性別

ケアラー本人（N=92）の性別の構成割合をみると、「男性」22.8%、「女性」75.0%であった。

図表1-1　ケアラーの性別の割合

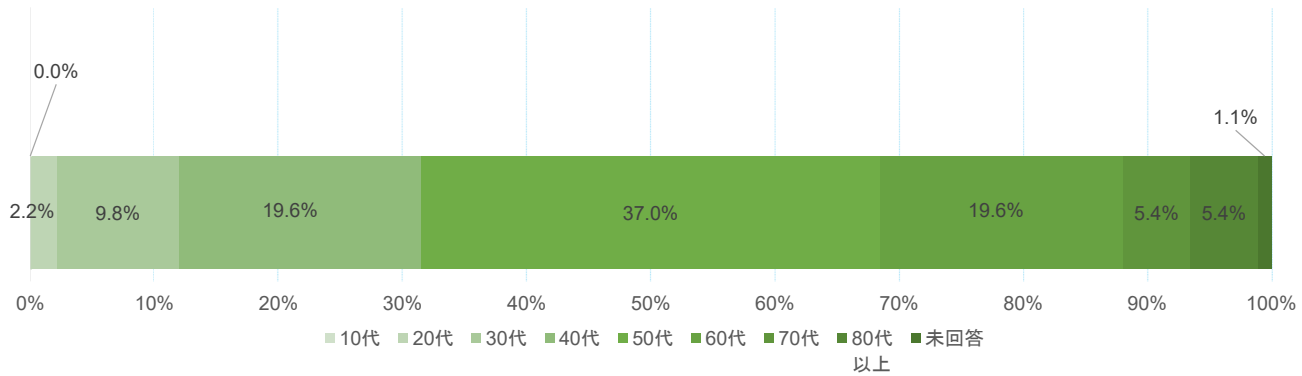


	男性	女性	未回答
ケアラー総数（N=92）	21	69	2
割合（%）	22.8%	75.0%	2.2%

１－２　ケアラーの年齢

ケアラー本人（N=92）の年齢の構成割合をみると、「50代」（N=34）が37.0%で最も高く、次いで、「60代」（N=18）が19.6%、「40代」（N=18）が19.6%の順であった。（平均：55.1歳）

図表1-2　ケアラーの年齢の割合

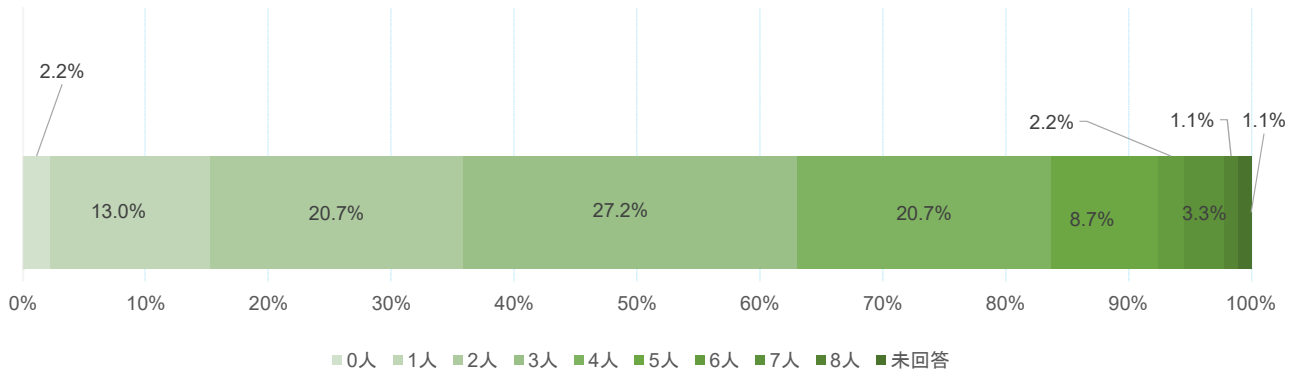


	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	未回答
ケアラー総数（N=92）	0	2	9	18	34	18	5	5	1
割合（%）	0.0%	2.2%	9.8%	19.6%	37.0%	19.6%	5.4%	5.4%	1.1%

１－３　ケアラーの同居家族

ケアラー本人（N=92）の同居人数の構成割合をみると、「3人」（N=25）が27.2%で最も高く、次いで、「2人」（N=19）が20.7%、「4人」（N=19）が20.7%の順であった。

図表1-3　ケアラーの同居家族の割合

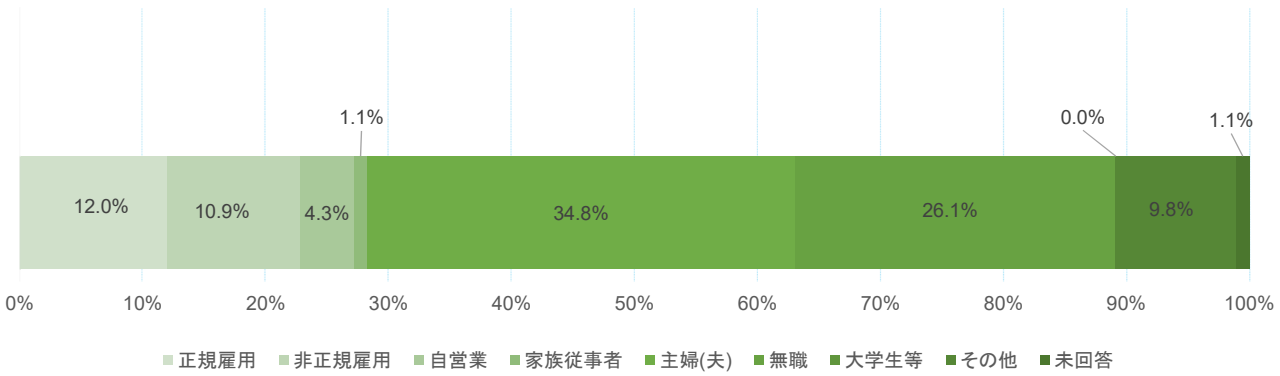


	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	未回答
ケアラー総数（N=92）	2	12	19	25	19	8	2	3	1	1
割合（%）	2.2%	13.0%	20.7%	27.2%	20.7%	8.7%	2.2%	3.3%	1.1%	1.1%

１－４　ケアラーの就労状況等

ケアラー本人（N=92）の就労状況等の構成割合をみると、「主婦（夫）」（N=32）が34.8%で最も高く、次いで、「無職」（N=24）が26.1%、「正規雇用」（N=11）が12.0%の順であった。

図表1-4　ケアラーの就労状況等の割合



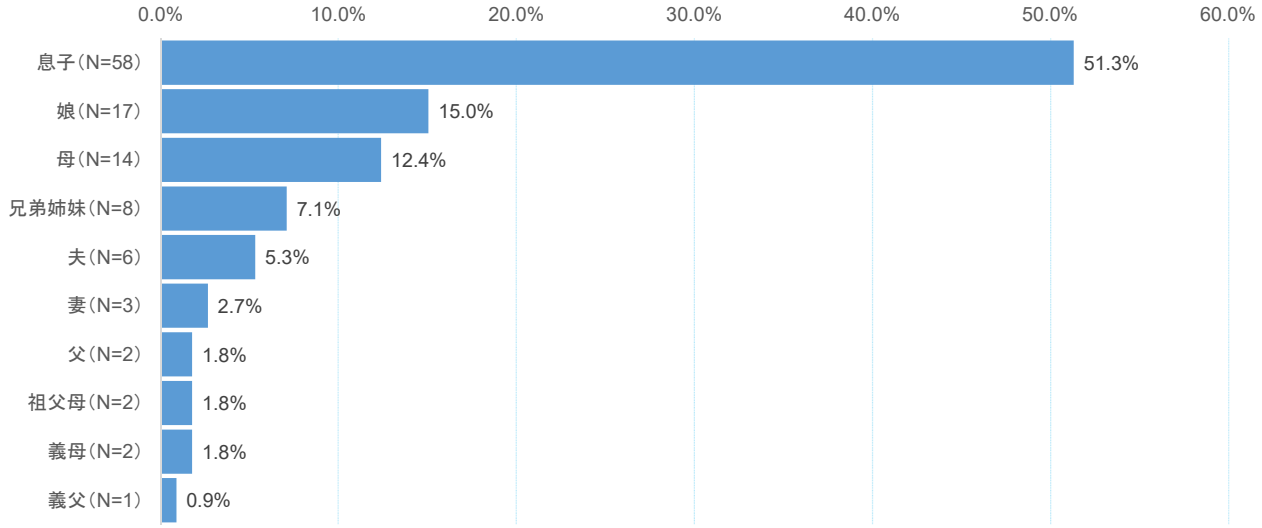
	正規雇用	非正規雇用	自営業	家族従事者	主婦（夫）	無職	大学生等	その他	未回答
ケアラー総数（N=92）	11	10	4	1	32	24	0	9	1
割合（%）	12.0%	10.9%	4.3%	1.1%	34.8%	26.1%	0.0%	9.8%	1.1%

２．被介護者の属性

２－１　被介護者の属性

被介護者（N=113）のケアラーとの続柄の構成割合をみると、「息子」（N=58）が51.3%で最も高く、次いで、「娘」（N=17）が15.0%、「母」（N=14）が12.4%の順であった。

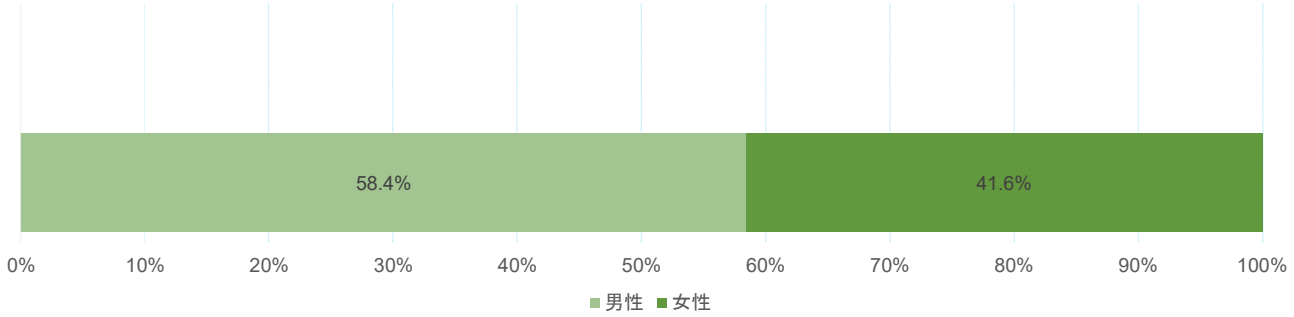
図表2-1　被介護者の属性（複数回答）



２－２　被介護者の性別

被介護者（N=113）の性別の構成割合をみると、「男性」58.4%、「女性」41.6%であった。

図表2-2　被介護者の性別の割合

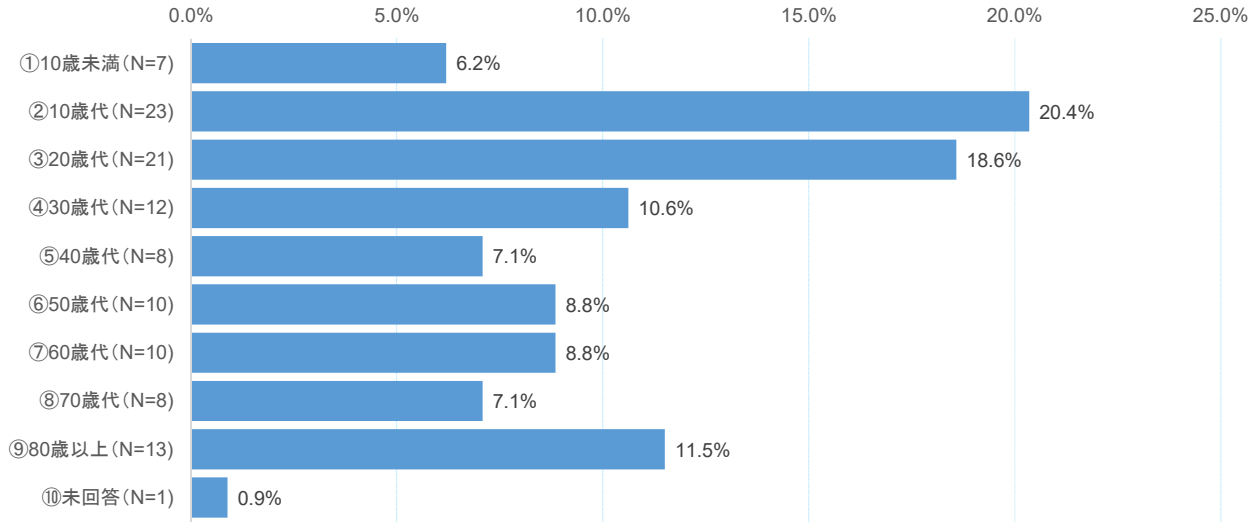


	男性	女性
被介護者数（N＝113）	66	47
割合（%）	58.4%	41.6%

２－３　被介護者の年齢

被介護者（N=113）の年齢の構成割合をみると、「10代」（N=23）が20.4%で最も高く、次いで、「20代」（N=21）が18.6%、「80歳以上」（N=13）が11.5%の順であった。

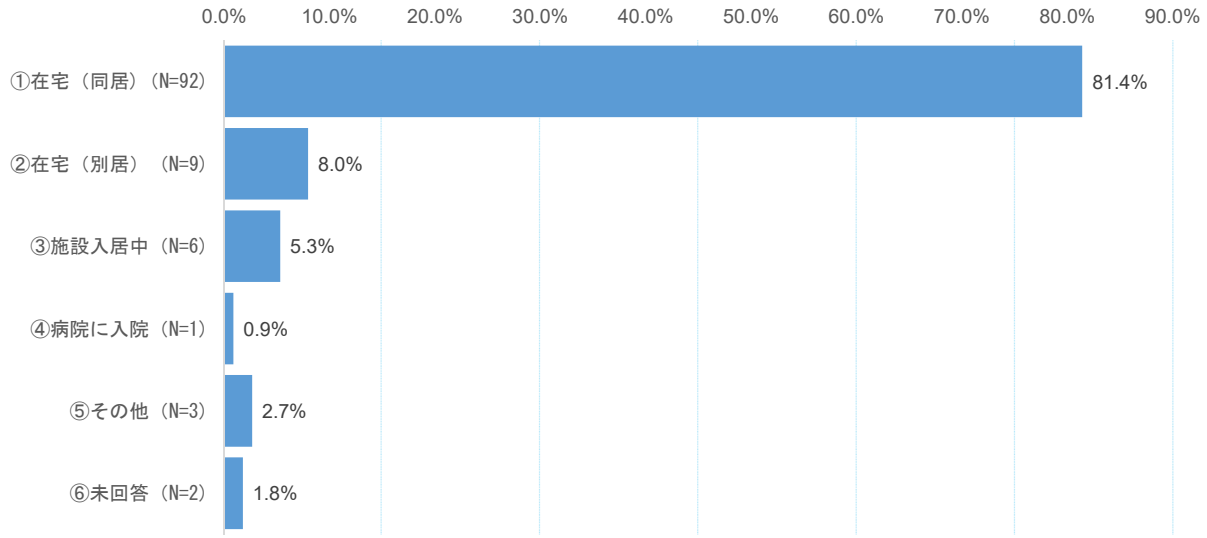
図表2-3　被介護者の年齢の割合



２－４　被介護者の生活場所

被介護者（N=113）の生活場所の構成割合をみると、「在宅（同居）」（N=92）が81.4%で最も高く、次いで、「在宅（別居）」（N=9）が8.0% 、「施設入居中」（N=6）が5.3%の順であった。

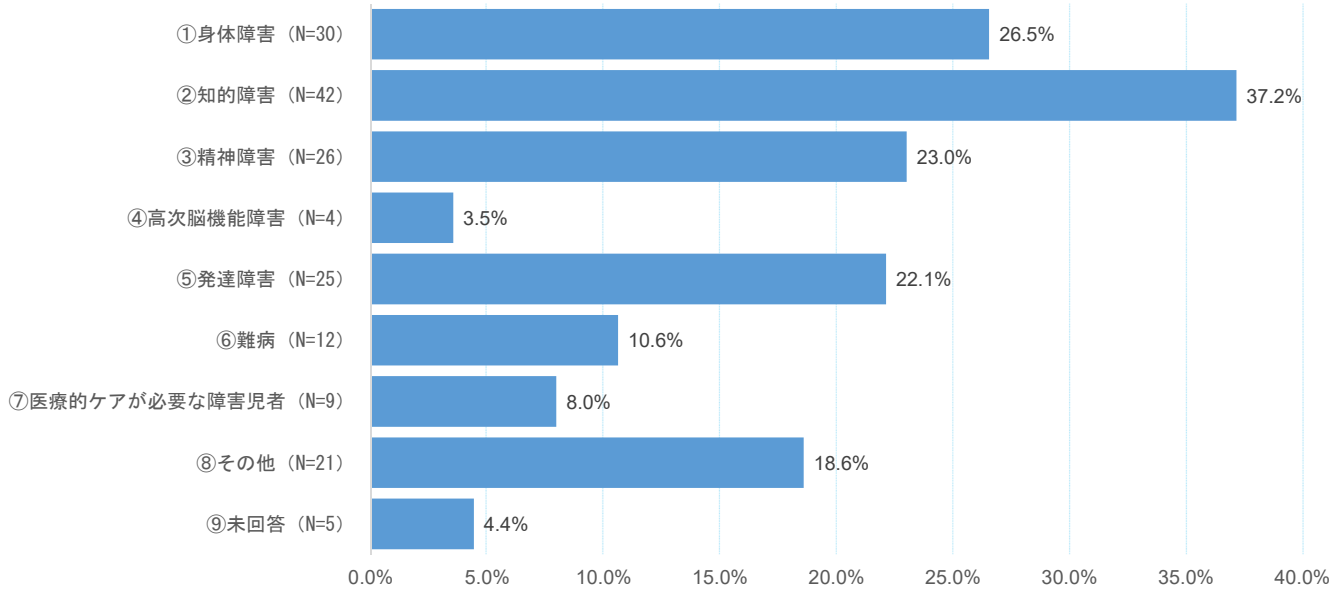
図表2-4　被介護者の生活場所の割合



２－５　被介護者の状況

被介護者の状況（N=113）をみると、「知的障害」（N=42）が37.2%で最も高く、次いで、「身体障害」（N=30）が26.5%、「精神障害」（N=26）が23.0%の順であった。

図表2-5　被介護者の状況（複数回答）

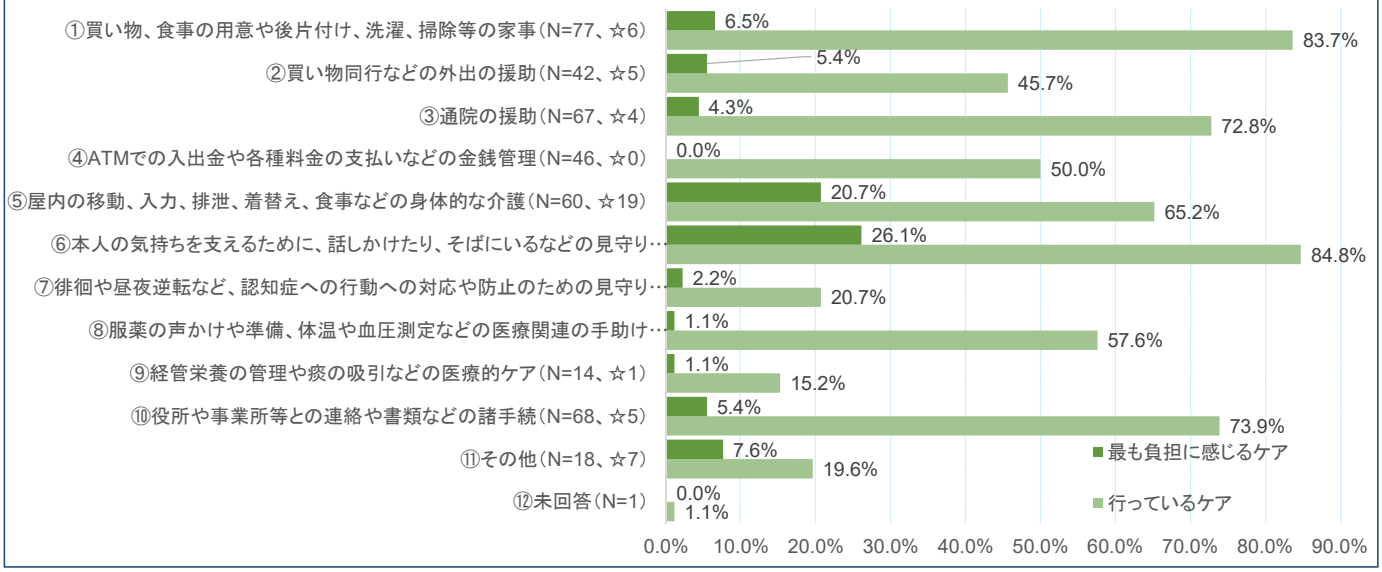


３．ケアの状況

３－１　ケアの内容

ケアラーの行っているケアの内容（N=93）をみると、「本人の気持ちを支えるための見守り」（N=78）が84.8%で最も高く、次いで、「食事、洗濯、掃除等の家事」（N=77）が83.7%、「役所等との連絡・諸手続」（N=68）が73.9%の順であった。そのうち、最も負担を感じるケア内容は、「本人の気持ちを支えるための見守り」（N=24）が26.1%で最も高く、次いで、「身体的な介護」（N=19）が20.7%の順であった。

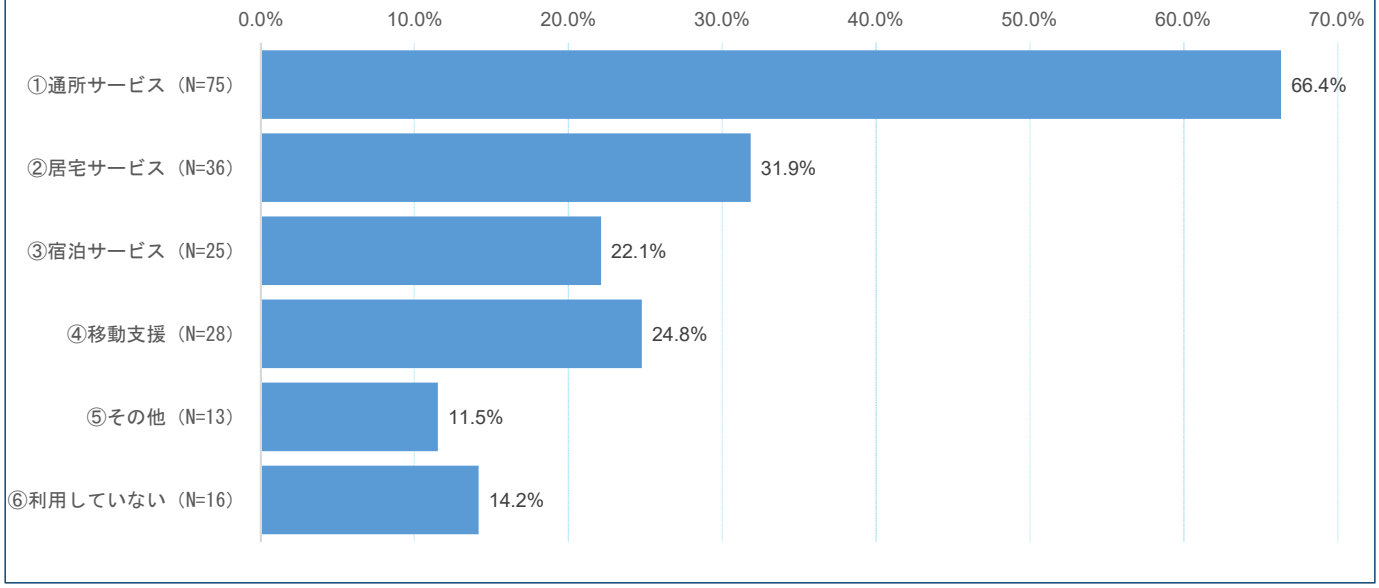
図表3-1　ケアラーにおけるケアの内容（複数回答）



３－２　利用している（していた）サービス

利用している（していた）サービス（N=113）をみると、「通所サービス」（N=75）が66.4%で最も高く、次いで、「居宅サービス」（N=36）が31.9%　、「移動支援」（N=28）が24.8% の順であった。

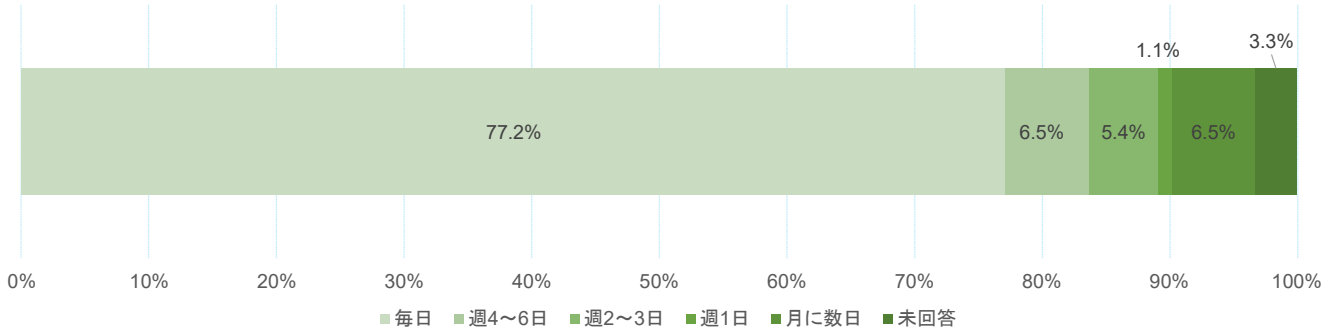
図表3-2　利用している（していた）サービス（複数回答）



３－３　ケアラーのケアの頻度

ケアラー（N=92）のケアの頻度をみると、「毎日」（N=71）が77.2%で最も高く、次いで、「週4～6日」（N=6）が6.5%、「月に数日」（N=6）が6.5%の順であった。

図表3-3　ケアの頻度の割合

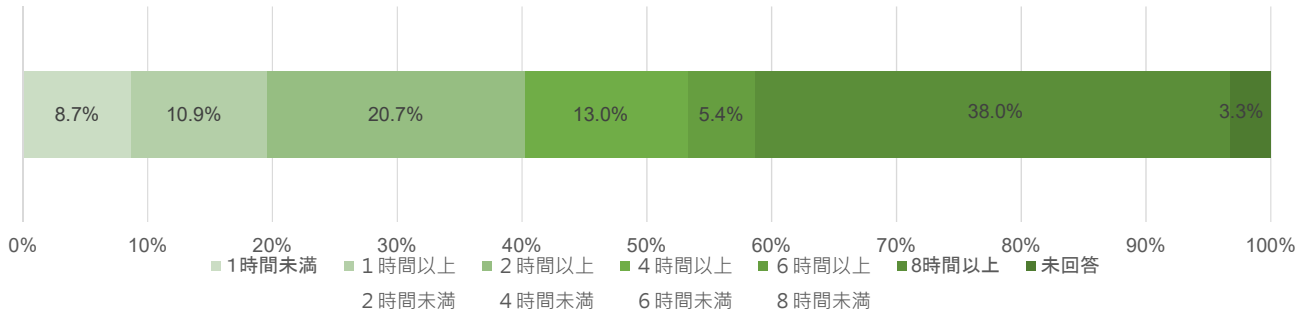


	毎日	週4～6日	週2～3日	週1日	月に数日	未回答
ｹｱﾗｰ総数（Ｎ＝92）	71	6	5	1	6	3
割合（%）	77.2%	6.5%	5.4%	1.1%	6.5%	3.3%

３－４　ケアにかける時間

ケアにかける時間（N=92）の構成割合をみると、「8時間以上」（N=35）が38.0%で最も高く、次いで、「2時間以上4時間未満」（N=19）が20.7% 、「4時間以上6時間未満」（N=12）が13.0%の順であった。

図表3-4　ケアにかける時間の割合

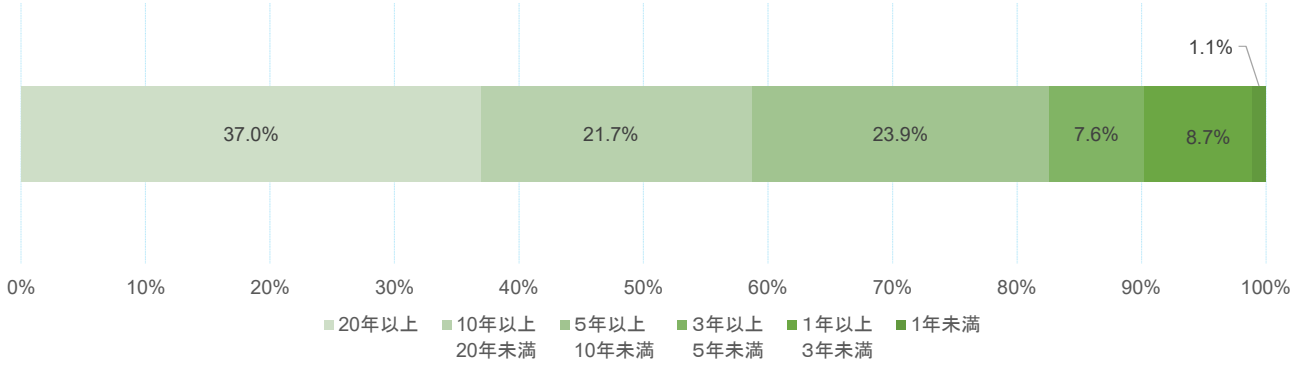


	1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N=92）	8	10	19	12	5	35	3
割合（%）	8.7%	10.9%	20.7%	13.0%	5.4%	38.0%	3.3%

３－５　ケアの期間

ケアの期間（N=92）の構成割合をみると、「20年以上」（N=34）が37.0%で最も高く、次いで、「5年以上10年未満」（N=22）が23.9%、「10年以上20年未満」（N=20）が21.7%の順であった。

図表3-5　ケアの期間の割合



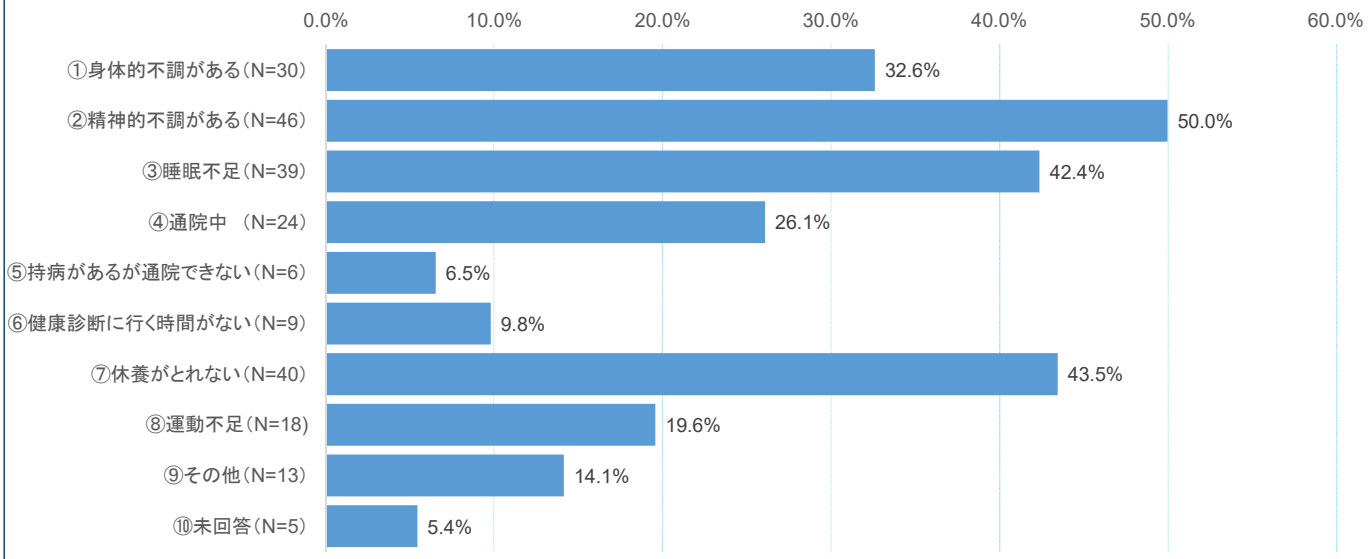
	20年以上	10年以上 20年未満	５年以上 10年未満	３年以上 ５年未満	１年以上 ３年未満	1年未満
ｹｱﾗｰ総数（N=92）	34	20	22	7	8	1
割合（%）	37.0%	21.7%	23.9%	7.6%	8.7%	1.1%

４．ケアの影響

４－１　ケアラー本人の健康状態

ケアラー本人の健康状態（N=92）をみると、「精神的不調」（N=46）が50.0%で最も高く、次いで、「休養がとれない」（N=40）が43.5%　、「睡眠不足」（N=39）が42.4% の順であった。

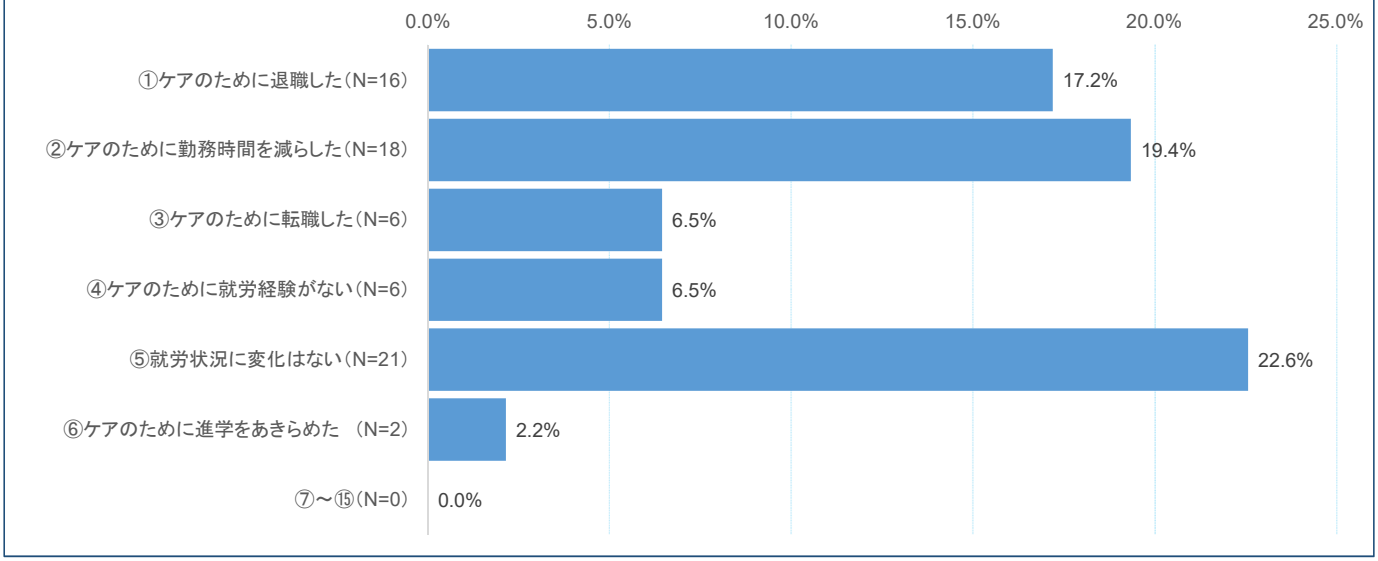
図表4-1　ケアラー本人の健康状態（複数回答）



４－２－１　ケアによる就労・就学への影響（就労・就学）

ケアによる就労・就学への影響（就労・就学）（N=93）をみると、「就労状況に変化はない」（N=21）が22.6%で最も高く、次いで、「ケアのために勤務時間を減らした」（N=18）が19.4%　、「ケアのため退職した」（N=16）が17.2% の順であった。

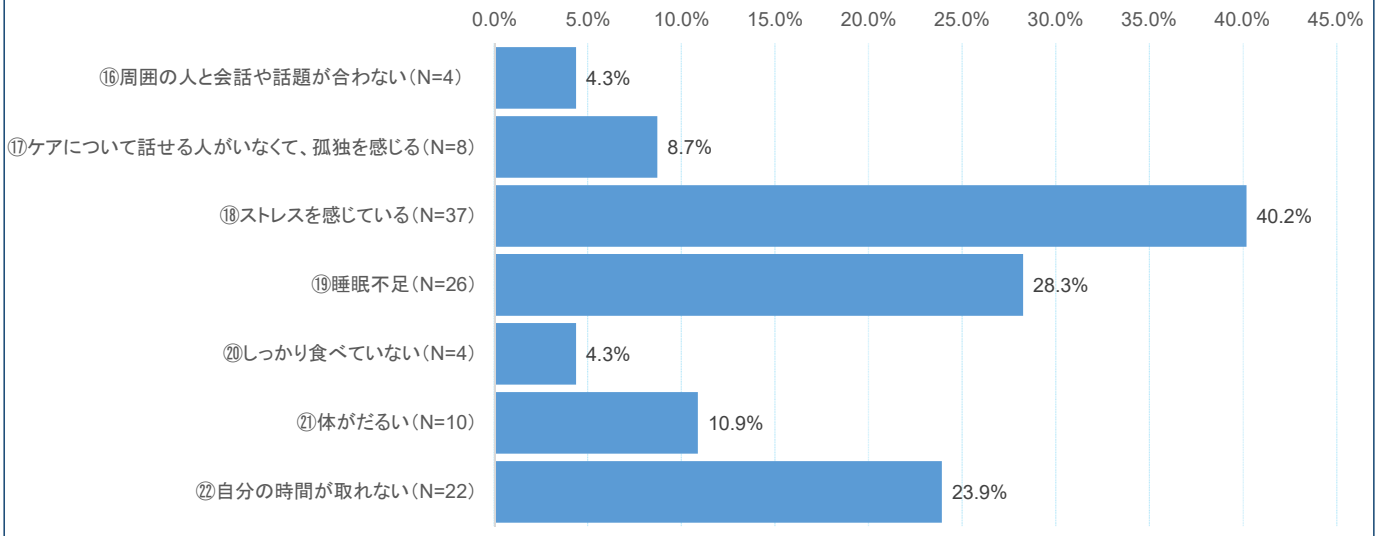
図表4-2-1　ケアによる就労・就学状況の変化の割合（複数回答）



４－２－２　ケアによる就労・就学への影響（その他）

ケアによる就労・就学への影響（その他項目）（N=92）をみると、「ｽﾄﾚｽを感じている」（N=37）が40.2%で最も高く、次いで「睡眠不足」（N=26）が28.3%、「自分の時間が取れない」（N=22）が23.9% の順であった。

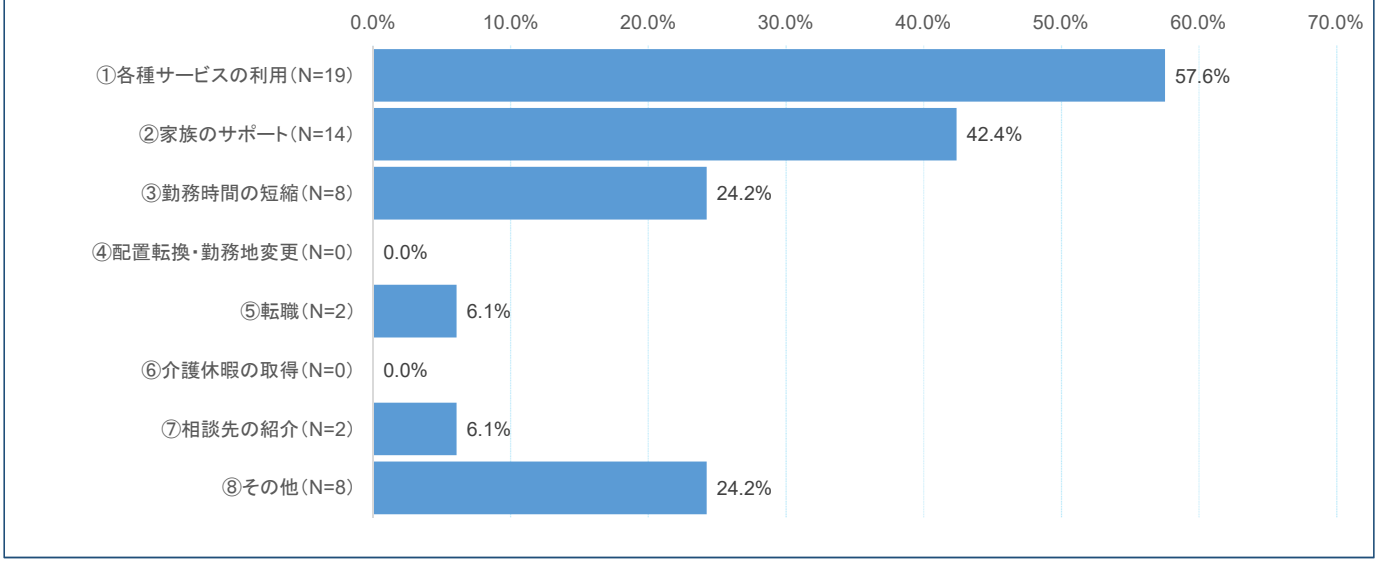
図表4-2-2　ケアによる就労・就学への影響の割合（複数回答）



４－３　就労を続けられている理由

就労を続けられている理由（N=33）をみると、「各種サービスの利用」（N=19）が57.6%で最も高く、次いで、「家族のサポート」（N=14）が42.4%　、「勤務時間の短縮」「その他（職場の理解、在宅ﾜｰｸなど）」がそれぞれ（N=8）が24.2% の順であった。

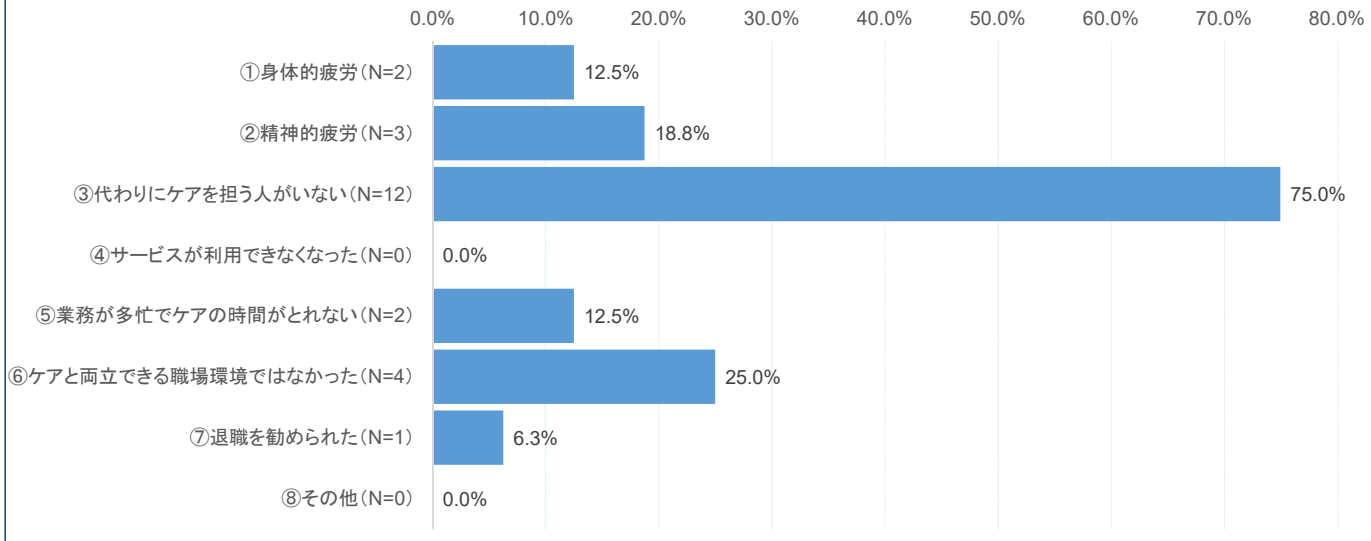
図表4-3　就労を続けられている理由（複数回答）



４－４　ケアのために退職・退学した理由

ケアのために退職・退学した理由（N=16）をみると、「代わりにケアを担う人がいない」（N=12）が75.0%で最も高く、次いで、「ケアとの両立」（N=4）が25.0%、「精神的疲労」（N=3）が18.8%の順であった。

図表4-4　ケアのために退職・退学した理由（複数回答）

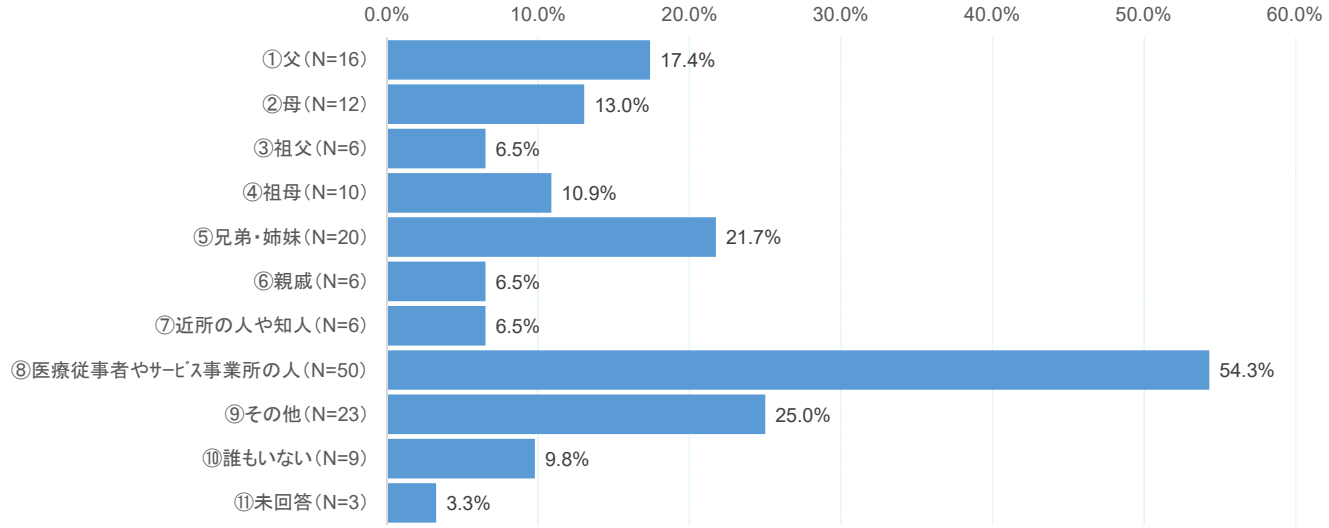


５．ケアに関する相談

５－１　ケアに協力してくれる人

ケアに協力してくれる人（N=92）をみると、「医療従事者やサービス事業所の人」（N=50）が54.3%で最も高く、次いで、「その他（夫、妻、息子など）」（N=23）が25.0%、「兄弟姉妹」（N=20）が21.7%の順であった。

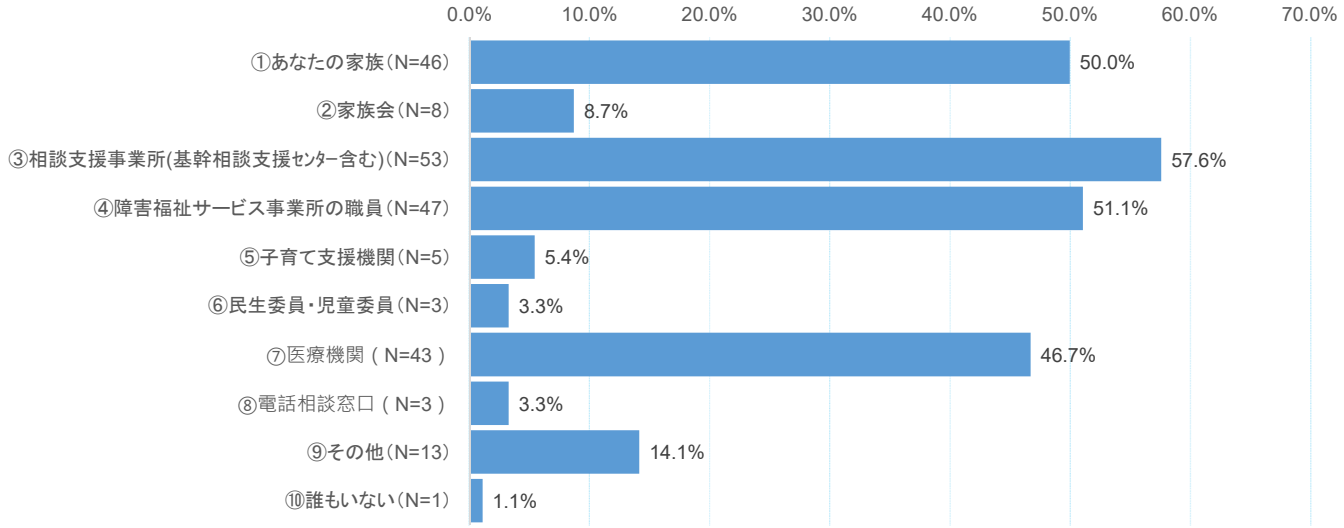
図表5-1　ケアに協力してくれる人（複数回答）



５－２　相談している窓口・機関

信頼して相談している窓口・機関（N=92）をみると、「相談支援事業所」（N=53）が57.6%で最も高く、次いで、「障害福祉ｻｰﾋﾞｽ事業所の職員」（N=47）が51.1%、「家族」（N=46）が50.0%の順であった。

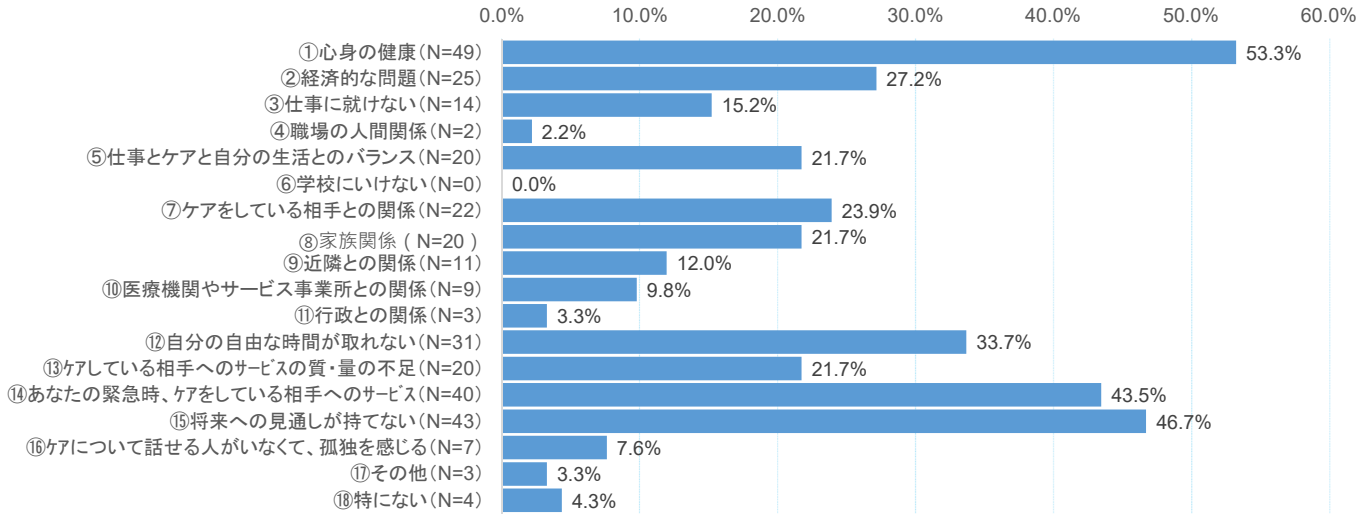
図表5-2　相談している窓口・機関（複数回答）



５－３　ケアラーの悩み

ケアラー本人の悩み（N=309）をみると、「心身の健康」（N=49）が53.3%で最も高く、次いで、「将来への見通し」（N=43）が46.7%、「緊急時のケアをしている相手へのサービス」（N=40）が43.5%の順であった。

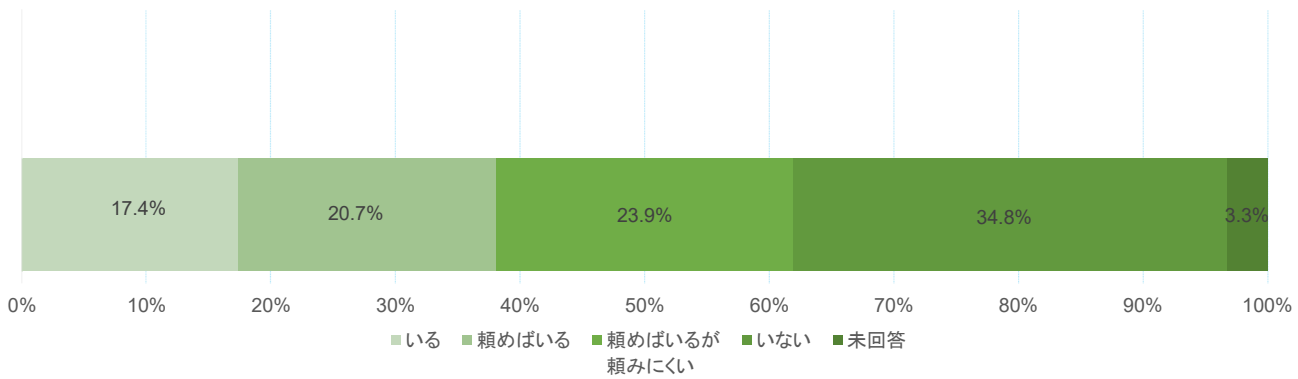
図表5-3　ケアラーの悩み（複数回答）



５－４　代わりにケアを担ってくれる人の有無

代わりにケアを担ってくれる人の有無（N=92）の構成割合をみると、「いない」（N=32）が34.8%で最も高く、次いで、「頼めばいるが頼みにくい」（N=22）が23.9%、「頼めばいる」（N=19）が20.7%の順であった。

図表5-4　代わりにケアを担ってくれる人の有無の割合



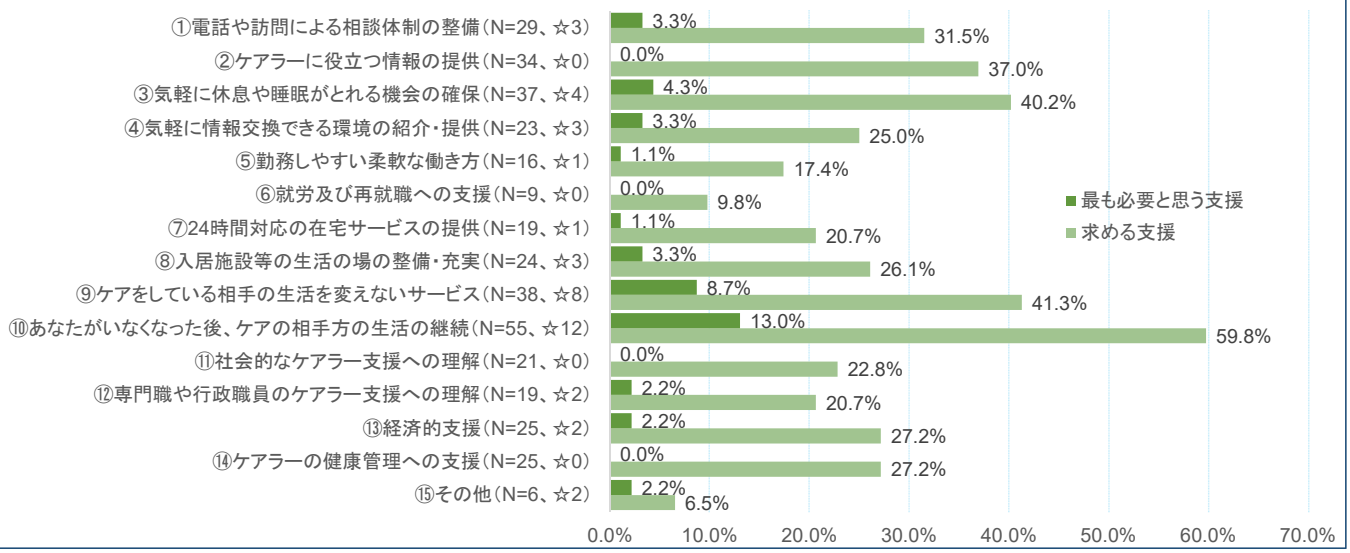
	いる	頼めばいる	頼めばいるが頼みにくい	いない	未回答
ケアラー総数（N=92）	16	19	22	32	3
割合（%）	17.4%	20.7%	23.9%	34.8%	3.3%

６．求める支援

６－１　必要と考える支援

必要と考える支援（N=92）をみると、「ｹｱの相手方の生活の継続」（N=55）が59.8%で最も高く、次いで、「生活を変えないｻｰﾋﾞｽ」（N=38）が41.3% の順であった。そのうち、最も必要と思われる支援も、「ｹｱの相手方の生活の継続」（N=12）が13.0%で最も高く、次いで、「生活を変えないｻｰﾋﾞｽ」（N=8）が8.7%の順であった。

図6-1　必要と考える支援の割合

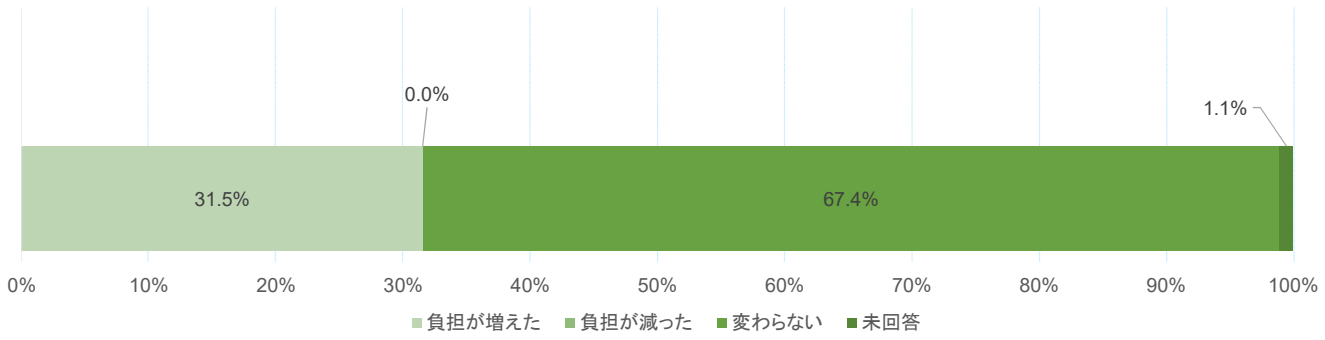


７．その他

７－１　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策前後でのケアの状況

新型コロナウイルス感染症対策前後でのケアの状況（N=92）の割合を見ると「負担が増えた」（N=29）31.5%、「負担が減った」（N=0）、「変わらない」（N=62）67.4%であった。

図表7-1　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策の前後での
ケアの状況の変化の割合



	負担が増えた	負担が減った	変わらない	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N=92）	29	0	62	1
割合（%）	31.5%	0.0%	67.4%	1.1%

７－２　行政、関係機関等への要望

・心身共に疲れ切っているので、安心して本人が生活できる施設やグループホームを探してほしい。

・本人や自分のことを含め状況に応じて基準以上のサービス（短期入所）を利用できるように対応してもらえている。今のところ本人も満足している。これからも状況に応じて対応してもらえてたら助かる。

・将来の入所通所施設が少ないので増やしてほしい。社会資源少ない。

・日本では、障害者高齢者の世話は家族（特に家庭の母（妻））がするものという意識が根強く、家庭内ですら母がいるなら他の家族は手出ししない風潮もあるので、そうではなく、家族地域など周囲の人すべてで見守る、手伝うのが当たり前の風潮を作ってほしい。その上で福祉サービスとしてどこまでうけおってもらえるのかはっきり提示してほしい。家族としては「こんなことまで依頼するのは図々しいかも」と思ってあきらめていることもおおいのではないか。また緊急時は土日夜間を選ばないので「１１０」のようにいつでもSOSを出せるようにしてほしい。

・緊急時に利用できるサービスがあればいいなと思う。

・自分が病気をしたりいなくなった後のことが心配です。できれば入所じゃなくグループホーム（今のデイに通えるようなところ）に入れてあげたい。

・まずはさらにケアラーの実態等を広く世間の一般の方々認知してほしい。一人のケアだけでなく複数のケアをしている人（ケアラー）もかなり多いと思う。

・誰にも相談できないとしんどいので、話を聞いてもらっているのはありがたい。本人が人に助けてほしいという気持ちがなく、もっと本人が周囲に相談できるとよい。

７－３　新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと

・外出・外食でリズムをつくっていたが、それができなくなりリズムがくずれ、不規則な生活となり、昼夜逆転も含めて、いつ活動するのかわからず24時間の待機・見守りが必要になった。

・自閉症なのでいつもと違う雰囲気や習慣化した行動ができないことにいらいらしがちで、それにつきあうケアラーも疲れている。家から出られない、いつも行くショッピングモールがあいていないなど、本人のストレスがたまっているのはわかるが、どうしてもあげられない無気力になってきているのが心配です。

・コロナ下でも、通所サービスを継続していただいているのはありがたい。

・新型コロナウイルスの影響で、入院することが困難になった。いざという時の入院が難しいので家庭でがんばるしかない。

・県をまたいで、移動することにより感染のリスクが上がり同居家族や同居家族の職場の人たちや私個人でかかわる大勢の人たちへの影響が大きい。PCRキットなどを利用して対応している。

・ヘルパーが来にくくなったこと。支給決定してもらっているが、ヘルパー不足のため利用時間が大幅に減った。（重度訪問介護）

兵庫県ケアラーの実態に係る
福祉機関調査
（民生委員・児童委員）

調査の目的・内容及び分析方法

調査目的及び主な調査内容

【調査目的】
・ケアの状況、ケアラーへの影響、支援ニーズ等を把握し、支援方策の策定に役立てる。
【主な調査項目】
・ケアラー自身について　・ケアの状況について　・ケアの影響について
・ケアに関する相談について　・必要な支援について　など
【調査区域】
・兵庫県全域（神戸市除く）
【調査対象】
・民生委員・児童委員【7月31日時点】
【回答者数】
・１，３４４人

分析方法

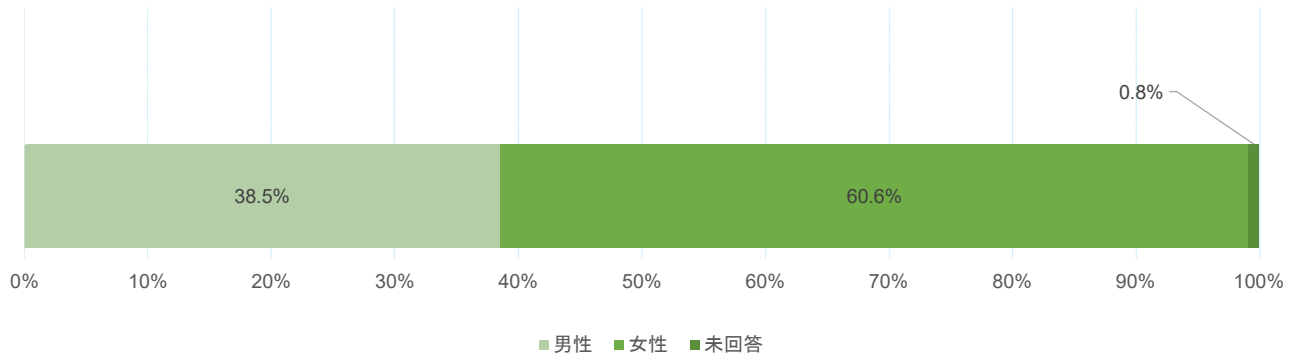
・調査票各設問の単純集計を行い、調査結果に関する詳細な分析を行った。
・設問の内、ケアラーがケアする被介護者に関する事項に関する設問を集計する際は、被介護者（1,412人）毎に集計を行った。

１．ケアラーの属性

１－１　ケアラーの性別

ケアラー本人（N=1,344）の性別の構成割合をみると、「男性」38.5%、「女性」60.6%であった。

図表1-1　ケアラーの性別の割合

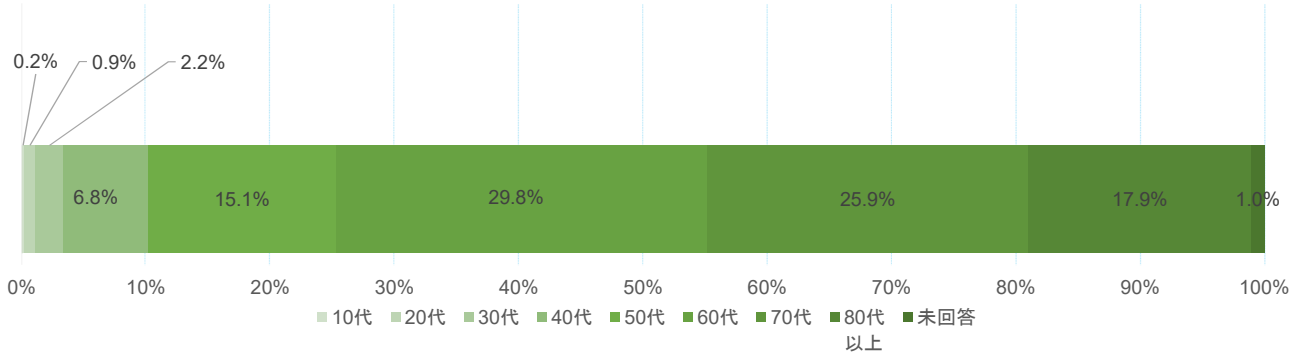


	男性	女性	未回答
ケアラー総数（N=1,344）	518	815	11
割合（%）	38.5%	60.6%	0.8%

１－２　ケアラーの年齢

ケアラー本人（N=1,344）の年齢の構成割合をみると、「60代」（N=401）が29.8%で最も高く、次いで、「70代」（N=348）が25.9%、「80代以上」（N=241）が17.9%の順であった。（平均：67.2歳）

図表1-2　ケアラーの年齢の割合

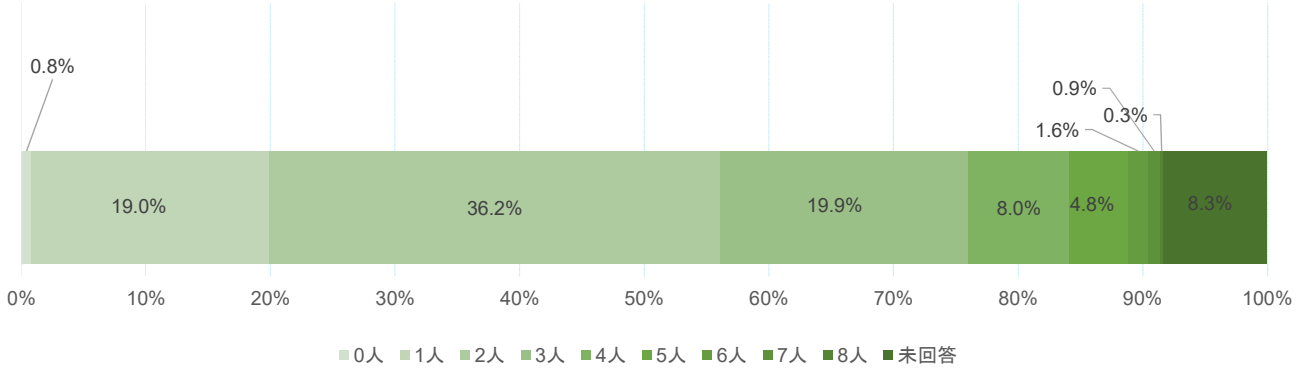


	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	未回答
ケアラー総数（N=1,344）	3	12	30	92	203	401	348	241	14
割合（%）	0.2%	0.9%	2.2%	6.8%	15.1%	29.8%	25.9%	17.9%	1.0%

１－３　ケアラーの同居家族

ケアラー本人（N=1,344）の同居人数の構成割合をみると「2人」（N=487）が36.2%で最も高く、次いで、「3人」（N=268）が19.9%、「1人」（N=256）が19.0%の順であった。

図表1-3　ケアラーの同居家族の割合

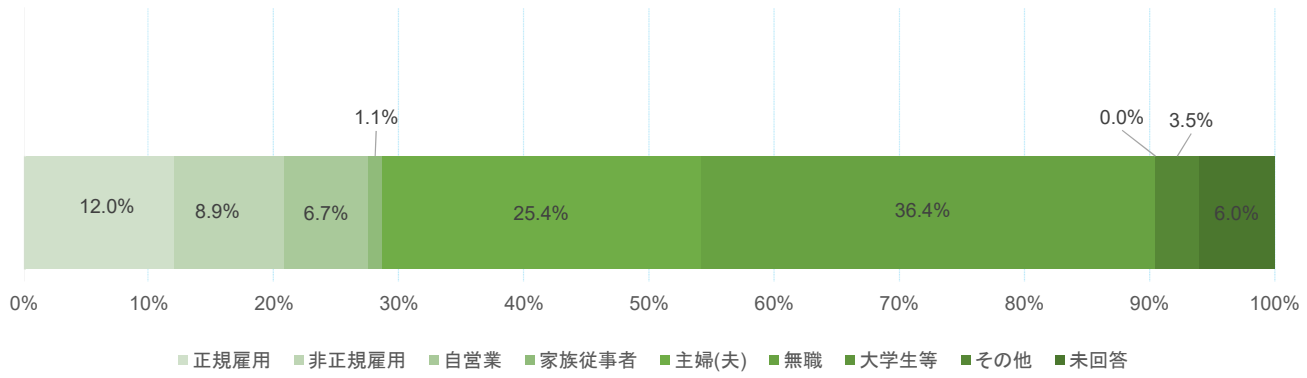


	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	未回答
ケアラー総数（N=1,344）	11	256	487	268	108	64	22	12	4	112
割合（%）	0.8%	19.0%	36.2%	19.9%	8.0%	4.8%	1.6%	0.9%	0.3%	8.3%

１－４　ケアラーの就労状況等

ケアラー本人（N=1,344）の就労状況等の構成割合をみると、「無職」（N=489）が36.4%で最も高く、次いで、「主婦(夫)」（N=342）が25.4%、「正規雇用」（N=161）が12.0%の順であった。

図表1-4　ケアラーの就労状況等の割合



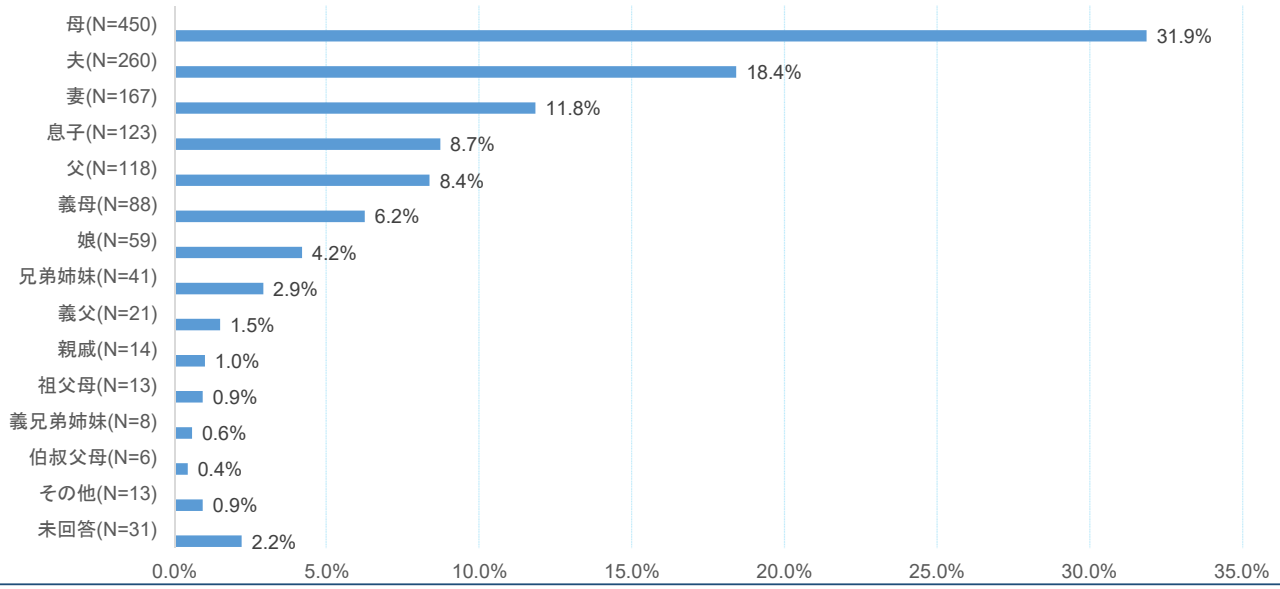
	正規雇用	非正規雇用	自営業	家族従事者	主婦（夫）	無職	大学生等	その他	未回答
ケアラー総数（N=1,344）	161	119	90	15	342	489	0	47	81
割合（%）	12.0%	8.9%	6.7%	1.1%	25.4%	36.4%	0.0%	3.5%	6.0%

２．被介護者の属性

２－１　被介護者の属性

被介護者（N=1,412）のケアラーとの続柄の構成割合をみると、「母」（N=450）が31.9%で最も高く、次いで、「夫」（N=260）が18.4%、「妻」（N=167）が11.8%の順であった。

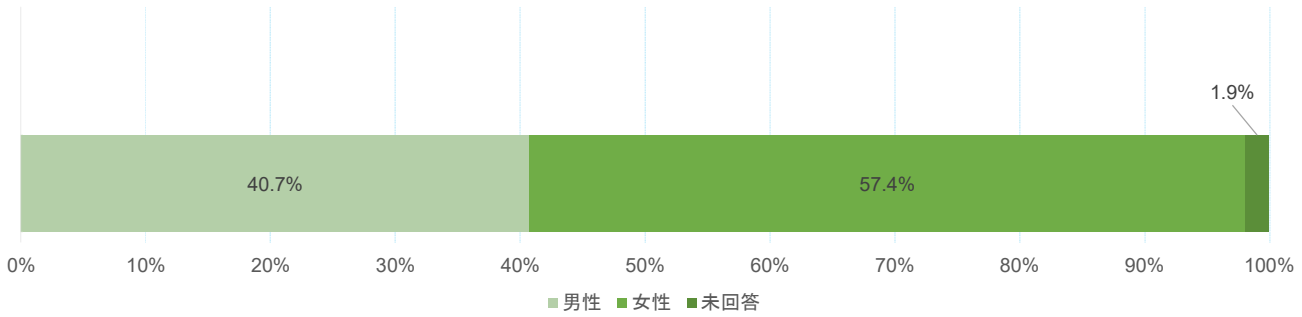
図表2-1　被介護者の属性（複数回答）



２－２　被介護者の性別

被介護者（N=1,412）の性別の構成割合をみると、「男性」40.7%、「女性」57.4%であった。

図表2-2　被介護者の性別の割合

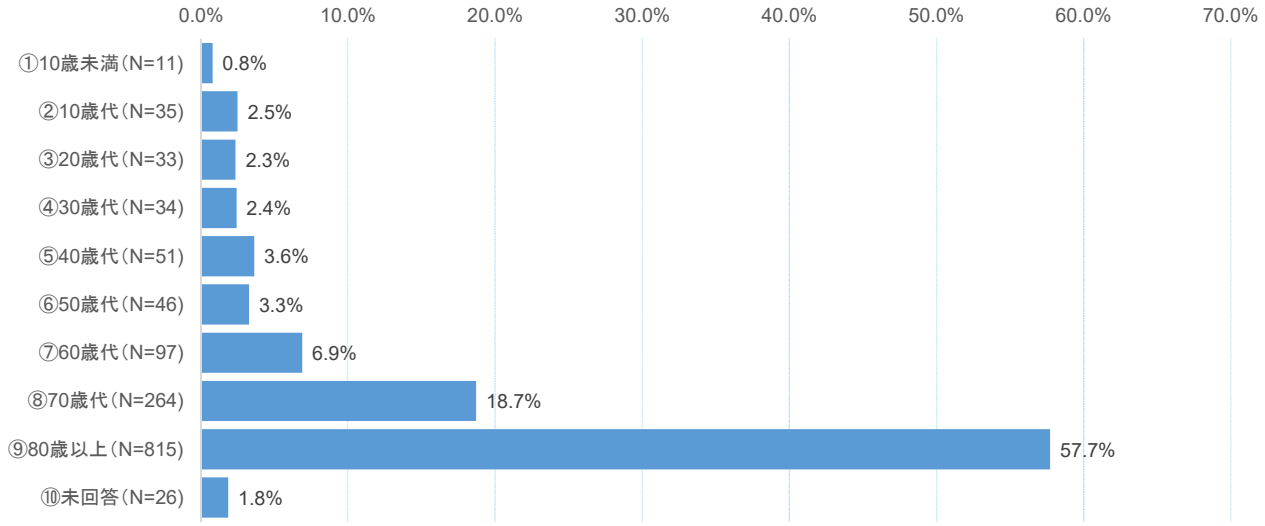


	男性	女性	未回答
被介護者数（N＝1,412）	575	810	27
割合（%）	40.7%	57.4%	1.9%

２－３　被介護者の年齢

被介護者（N=1,412）の年齢の構成割合をみると、「80歳以上」（N=815）が57.7%で最も高く、次いで、「70代」（N=264）が18.7%、「60代」（N=97）が6.9%の順であった。

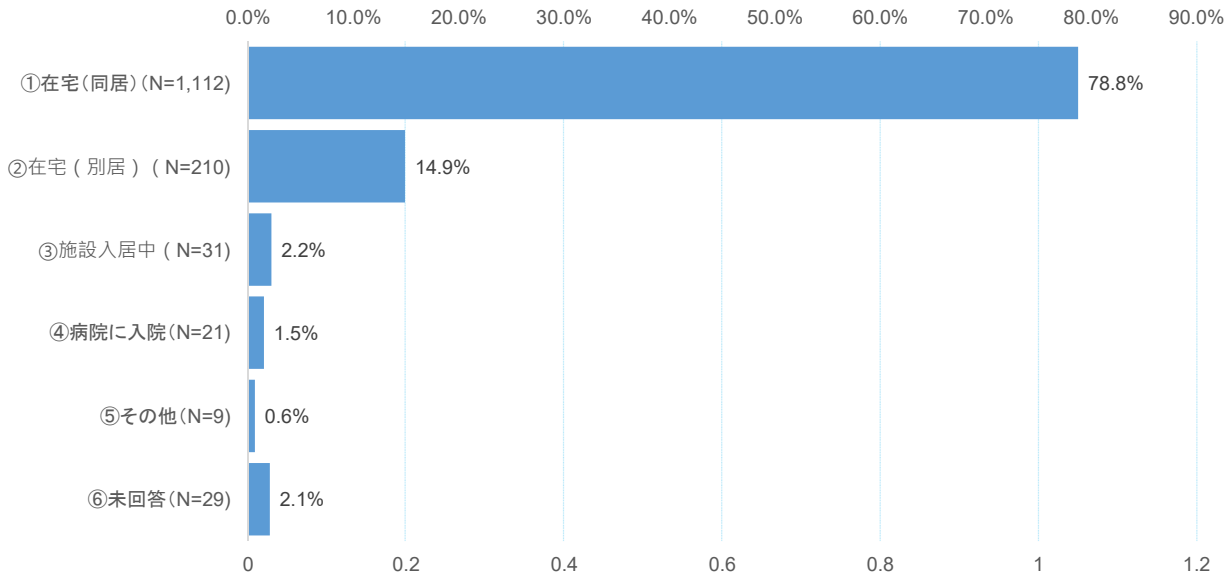
図表2-3　被介護者の年齢の割合



２－４　被介護者の生活場所

被介護者（N=1,412）の生活場所の構成割合をみると、「在宅（同居）」（N=1,112）が78.8%で最も高く、次いで、「在宅（別居）」（N=210）が14.9% の順であった。

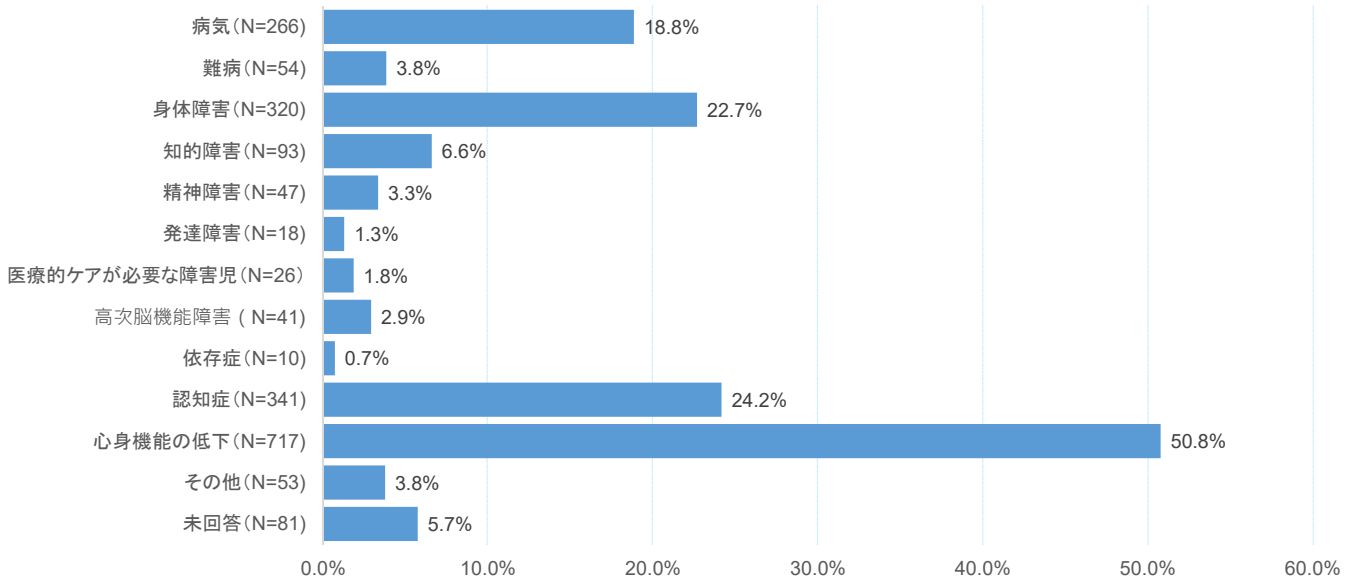
図表2-4　被介護者の生活場所の割合



２－５　被介護者の状況

被介護者の状況（N=1,412）をみると、「心身機能の低下」（N=717）が50.8%で最も高く、次いで、「認知症」（N=341）が24.2%、「身体障害」（N=320）が22.7%の順であった。

図表2-5　被介護者の状況（複数回答）

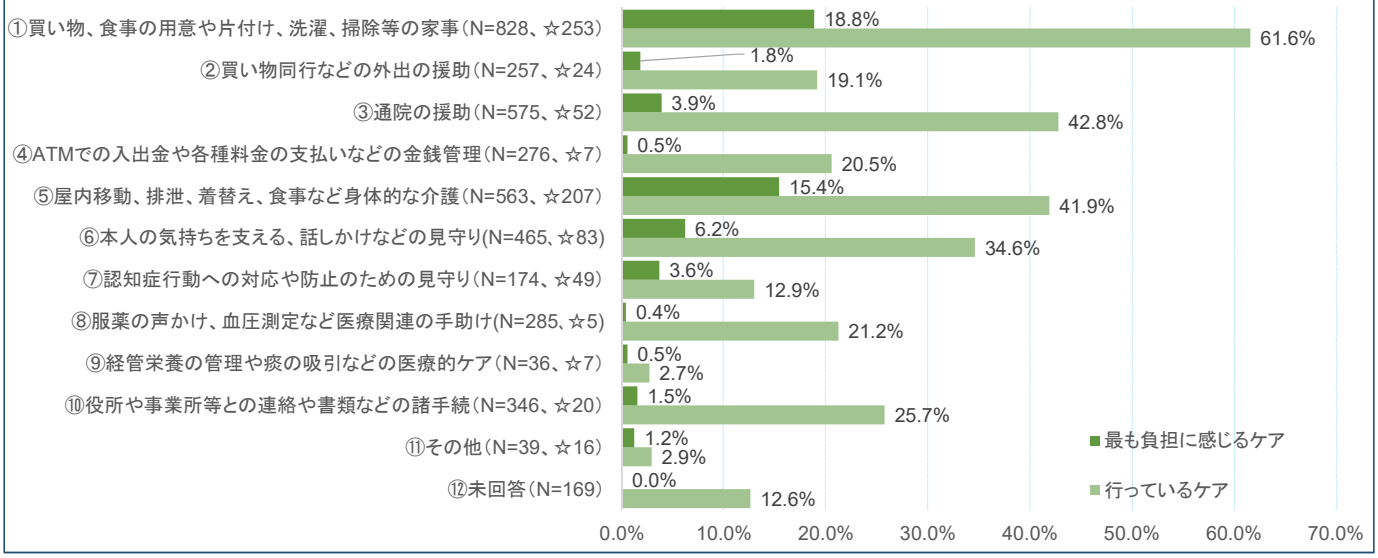


３．ケアの状況

３－１　ケアの内容

ケアラーの行っているケアの内容（N=1,344）をみると、「食事、洗濯、掃除等の家事」（N=828）が61.6%で最も高く、次いで、「通院の援助」（N=575）が42.8%、「身体的な介護」（N=563）が41.9%の順であった。そのうち、最も負担を感じるケア内容は、「食事、洗濯、掃除等の家事」（N=253）が18.8%で最も高く、次いで、「身体的な介護」（N=207）が15.4%の順であった。

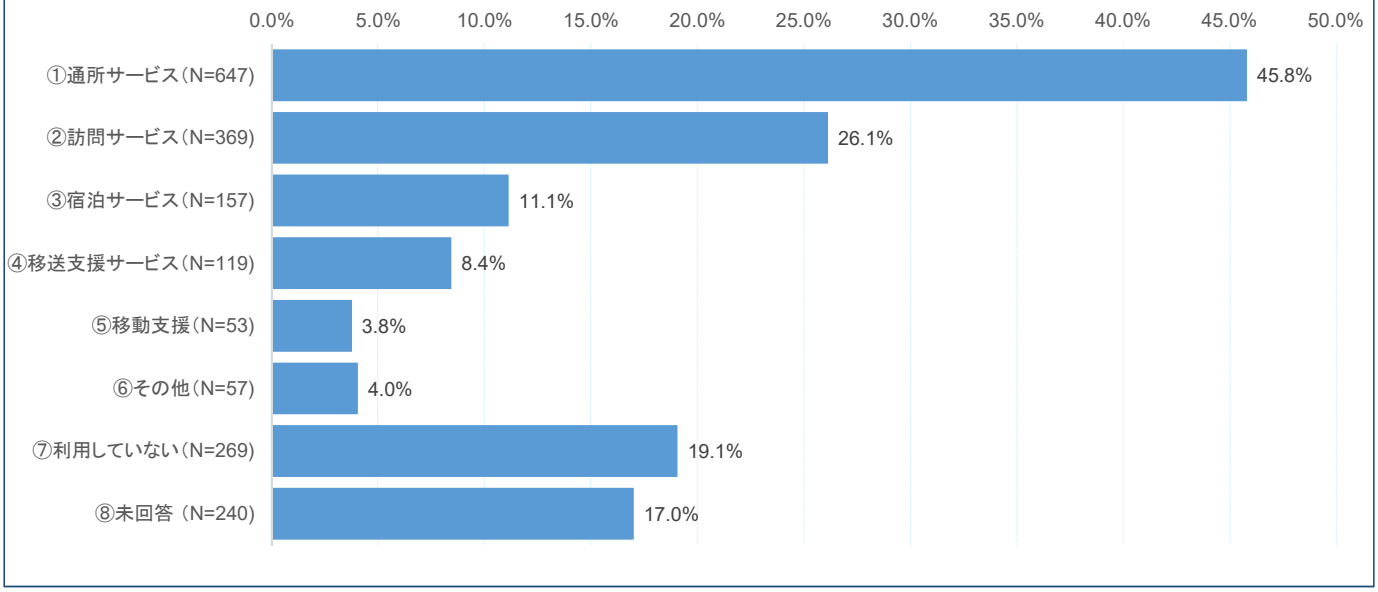
図表3-1　ケアラーにおけるケアの内容（複数回答）



３－２　利用している（していた）サービス

利用している（していた）サービス（N=1,412）をみると、「通所サービス」（N=647）が45.8%で最も高く、次いで、「訪問サービス」（N=369）が26.1%　、「利用していない」（N=269）が19.1% の順であった。

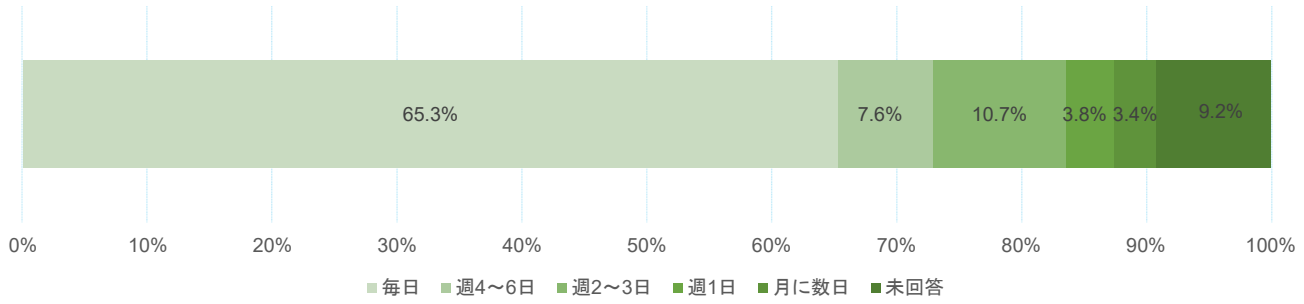
図表3-2　利用している（していた）サービス（複数回答）



３－３　ケアラーのケアの頻度

ケアラー（N=1,344）のケアの頻度をみると、「毎日」（N=878）が65.3%で最も高く、次いで、「週2～3日」（N=144）が10.7%、「週4～6日」（N=102）が7.6%の順であった。

図表3-3　ケアの頻度の割合

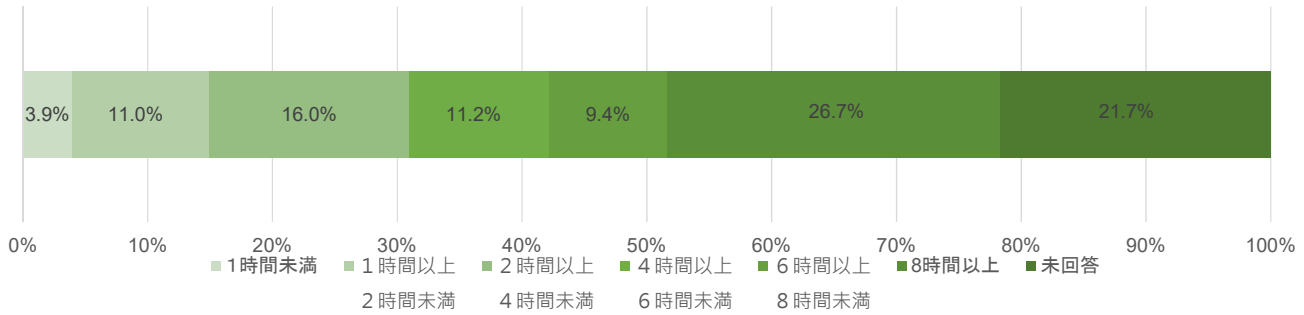


	毎日	週4～6日	週2～3日	週1日	月に数日	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N＝1,344）	878	102	144	51	46	123
割合（%）	65.3%	7.6%	10.7%	3.8%	3.4%	9.2%

３－４　ケアにかける時間

ケアにかける時間（N=1,344）の構成割合をみると、「8時間以上」（N=359）が26.7%で最も高く、次いで、「2時間以上4時間未満」（N=215）が16.0% 、「4時間以上6時間未満」（N=151）が11.2%の順であった。

図表3-4　ケアにかける時間の割合

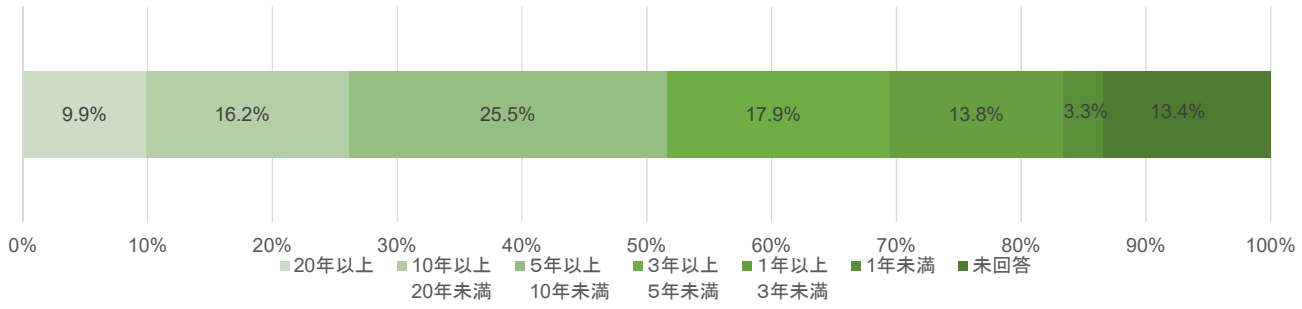


	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N=1,344）	53	148	215	151	127	359	291
割合（%）	3.9%	11.0%	16.0%	11.2%	9.4%	26.7%	21.7%

３－５　ケアの期間

ケアの期間（N=1,344）の構成割合をみると、「5年以上10年未満」（N=343）が25.5%で最も高く、次いで、「3年以上5年未満」（N=240）が17.9%、「10年以上20年未満」（N=218）が16.2%の順であった。

図表3-5　ケアの期間の割合



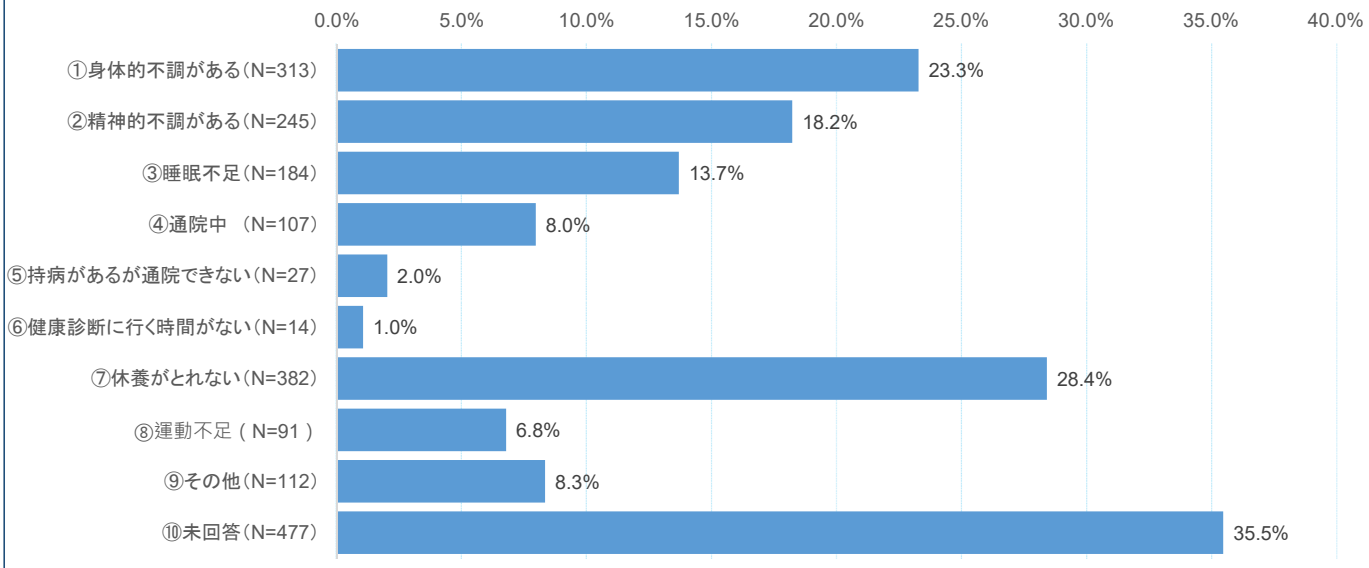
	20年以上	10年以上 20年未満	５年以上 10年未満	３年以上 ５年未満	１年以上 ３年未満	1年未満	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N=1,344）	133	218	343	240	186	44	180
割合（%）	9.9%	16.2%	25.5%	17.9%	13.8%	3.3%	13.4%

４．ケアの影響

４－１　ケアラー本人の健康状態

ケアラー本人の健康状態（N=1,344）をみると、「休養がとれない」（N=382）が28.4%で最も高く、次いで、「身体的不調」（N=313）が23.3%　、「精神的不調」（N=245）が18.2% の順であった。

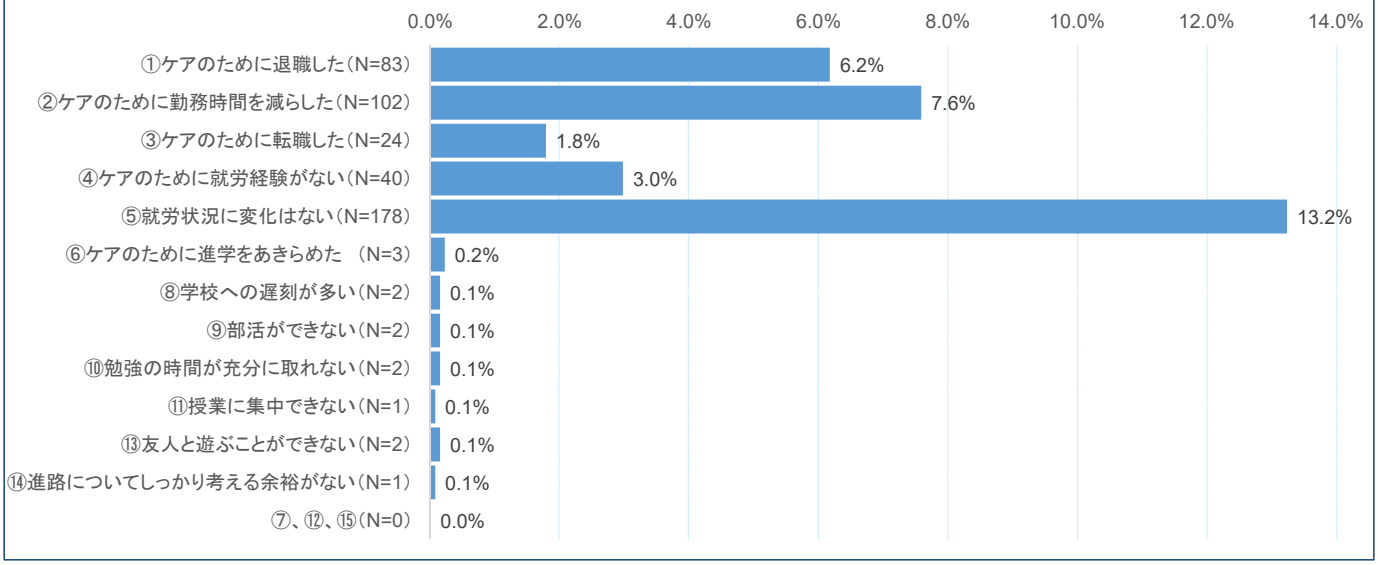
図表4-1　ケアラー本人の健康状態（複数回答）



４－２－１　ケアによる就労・就学への影響（就労・就学）

ケアによる就労・就学への影響（就労・就学）（N=1,344）をみると、「就労状況に変化はない」（N=178）が13.2%で最も高く、次いで、「ケアのために勤務時間を減らした」（N=102）が7.6%　、「ケアのため退職した」（N=83）が6.2% の順であった。

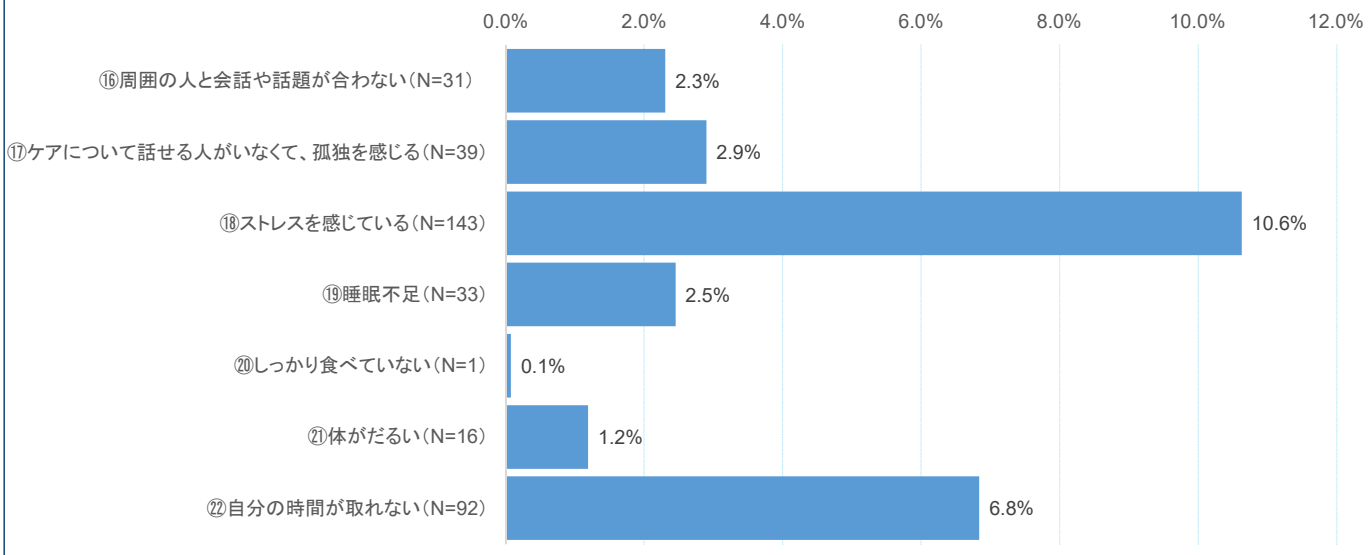
図表4-2-1　ケアによる就労・就学状況の変化の割合（複数回答）



４－２－２　ケアによる就労・就学への影響（その他）

ケアによる就労・就学への影響（その他項目）（N=1,344）をみると、「ストレスを感じている」（N=143）が10.6%で最も高く、次いで、「自分の時間が取れない」（N=92）が6.8%　、「孤独を感じる」（N=39）が2.9% の順であった。

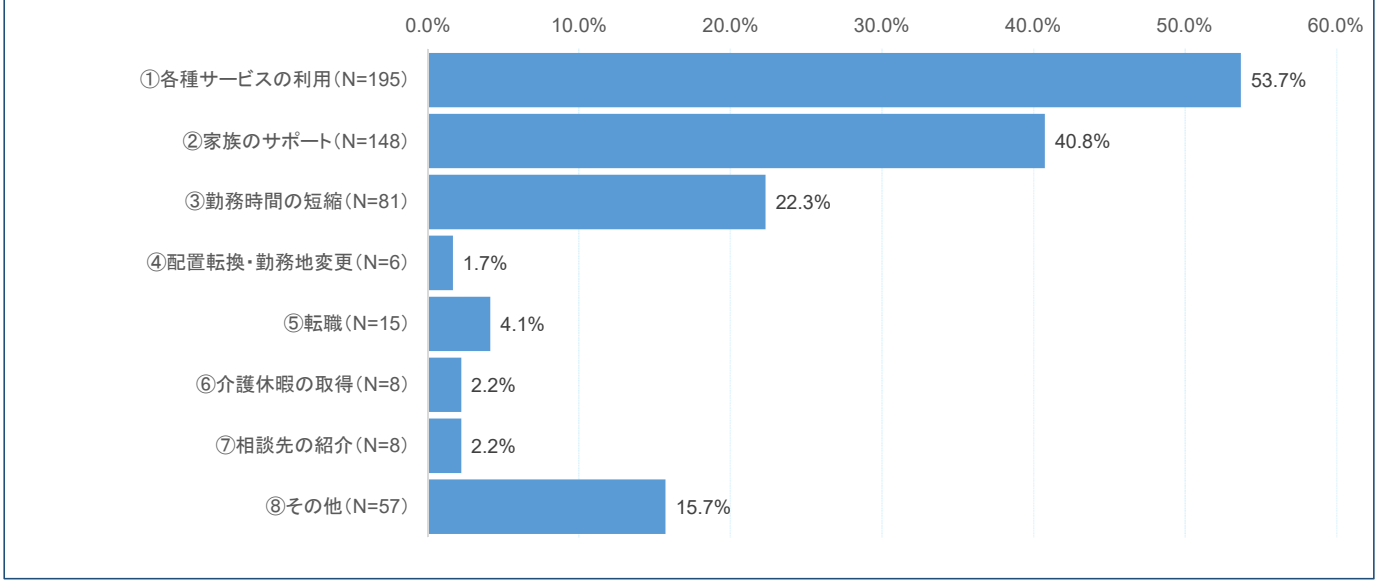
図表4-2-2　ケアによる就労・就学への影響の割合（複数回答）



４－３　就労を続けられている理由

就労を続けられている理由（N=363）をみると、「各種サービスの利用」（N=195）が53.7%で最も高く、次いで、「家族のサポート」（N=148）が40.8%　、「勤務時間の短縮」（N=81）が22.3% の順であった。

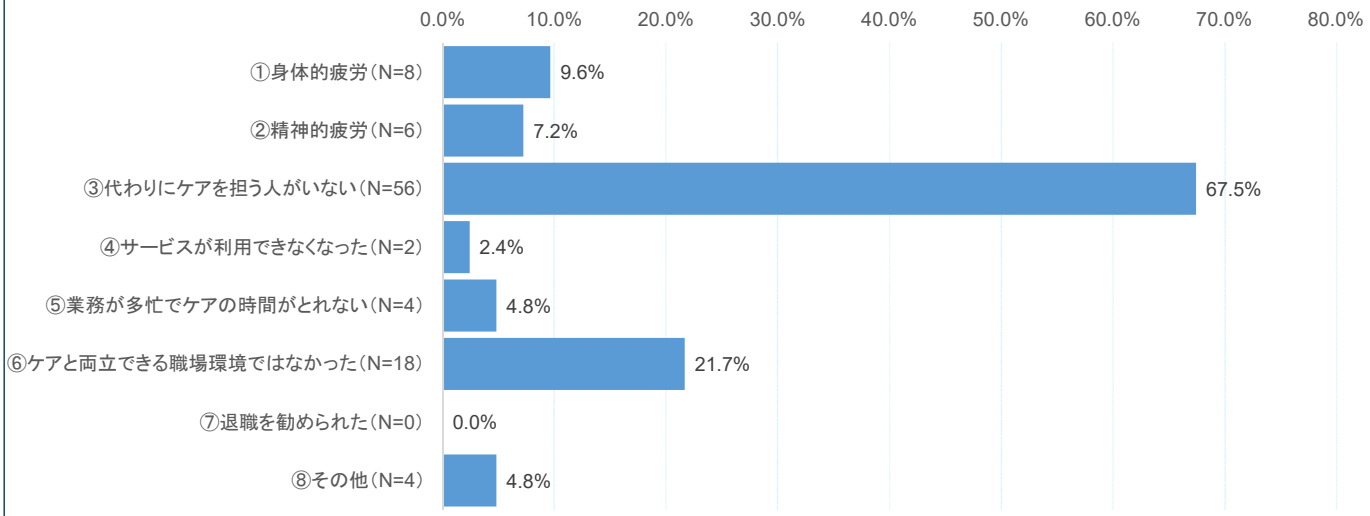
図表4-3　就労を続けられている理由（複数回答）



４－４　ケアのために退職・退学した理由

ケアのために退職・退学した理由（N=83）をみると、「代わりにケアを担う人がいない」（N=56）が67.5%で最も高く、次いで、「ケアと両立できる職場環境ではなかった」（N=18）が21.7%　、「身体的疲労」（N=8）が9.6%の順であった。

図表4-4　ケアのために退職・退学した理由（複数回答）

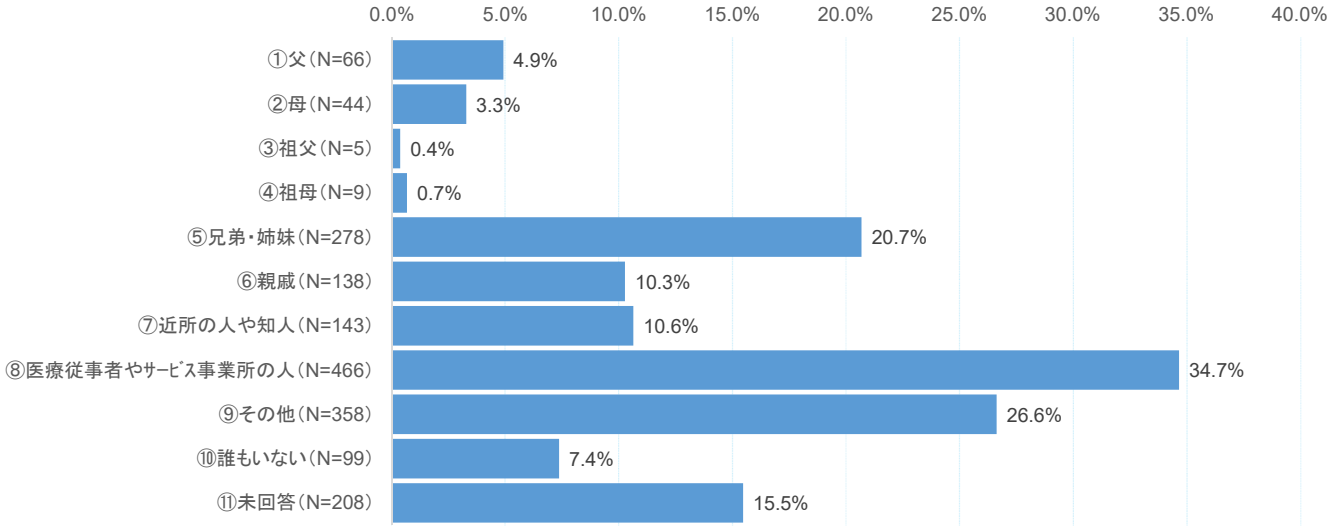


５．ケアに関する相談

５－１　ケアに協力してくれる人

ケアに協力してくれる人（N=1,344）をみると、「医療従事者やサービス事業所の人」（N=466）が34.7%で最も高く、次いで、「その他（夫、妻、息子など）」（N=358）が26.6%、「兄弟姉妹」（N=278）が20.7%の順であった。

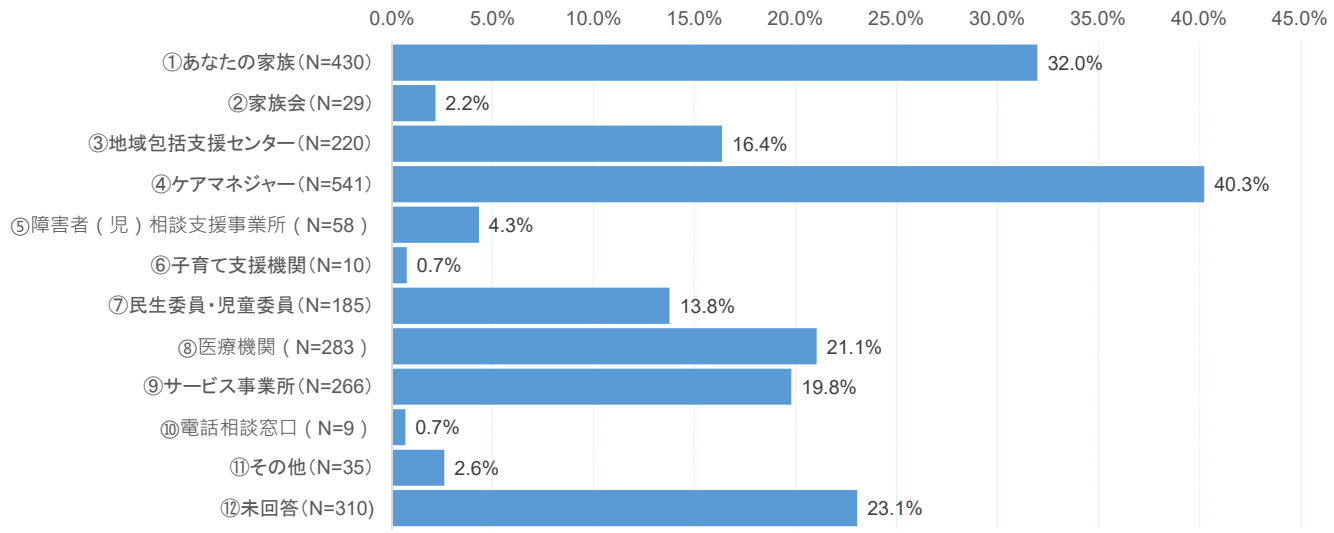
図表5-1　ケアに協力してくれる人（複数回答）



５－２　相談している窓口・機関

信頼して相談している窓口・機関（N=1,344）をみると、「ケアマネジャー」（N=541）が40.3%で最も高く、次いで、「家族」（N=430）が32.0%、「医療機関」（N=283）が21.1%の順であった。

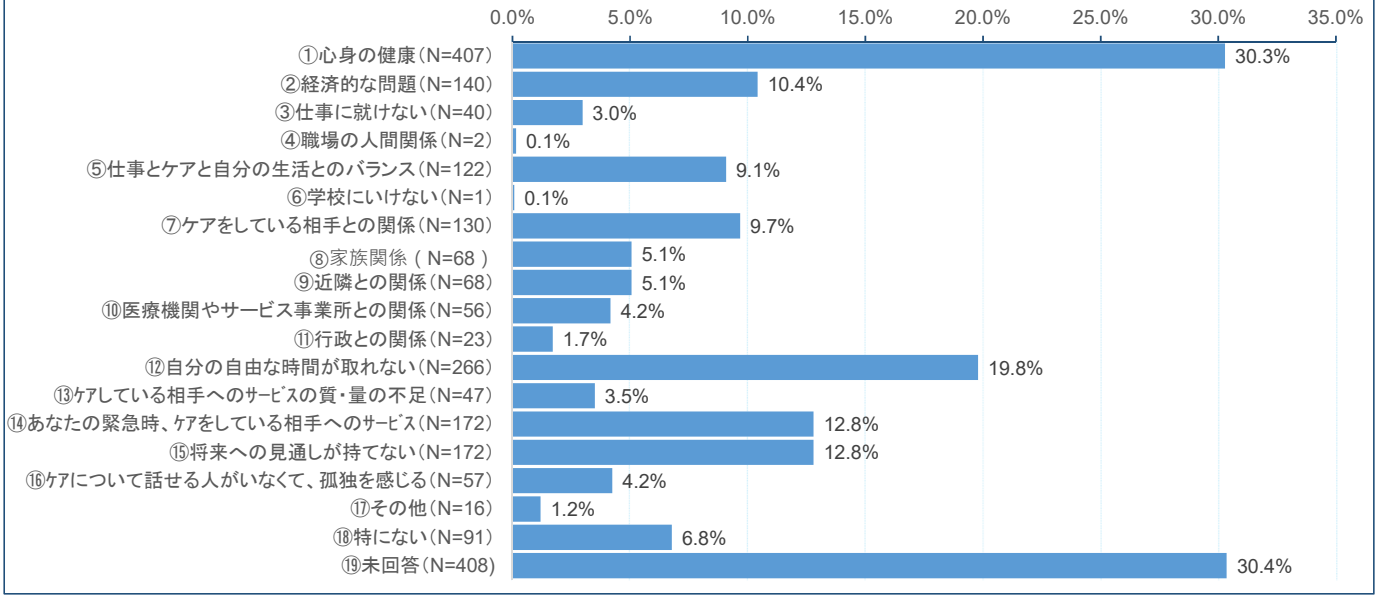
図表5-2　相談している窓口・機関（複数回答）



５－３　ケアラーの悩み

ケアラー本人の悩み（N=1,344）をみると、「心身の健康」（N=407）が30.3%で最も高く、次いで、「自分の自由な時間が取れない」（N=266）が19.8%、「緊急時のケアをしている相手へのサービス」「将来への見通しが持てない」がともに（N=172）が12.8%の順であった。

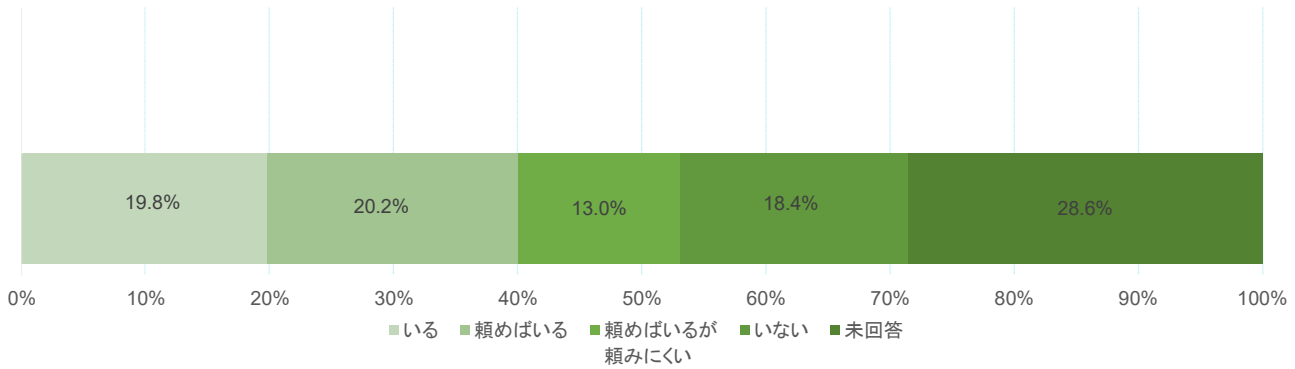
図表5-3　ケアラーの悩み（複数回答）



５－４　代わりにケアを担ってくれる人の有無

代わりにケアを担ってくれる人の有無（N=1,344）の構成割合をみると、「頼めばいる」（N=272）が20.2%で最も高く、次いで、「いる」（N=266）が19.8%、「いない」（N=247）が18.4%の順であった。

図表5-4　代わりにケアを担ってくれる人の有無の割合



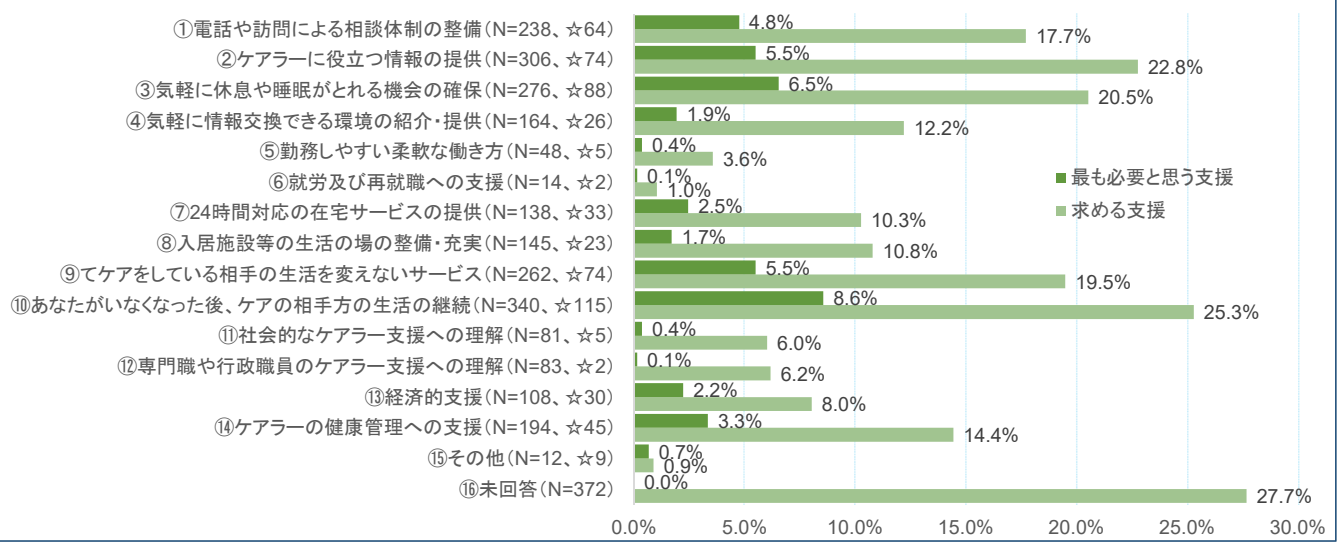
	いる	頼めばいる	頼めばいるが頼みにくい	いない	未回答
ケアラー総数（N=1,344）	266	272	175	247	384
割合（%）	19.8%	20.2%	13.0%	18.4%	28.6%

６．求める支援

６－１　必要と考える支援

必要と考える支援（N=1,344）をみると、「ケアの相手方の生活の継続」（N=340）が25.3%で最も高く、次いで、「役立つ情報の提供」（N=306）が22.8% の順であった。そのうち、最も必要と思われる支援も、「ケアの相手方の生活の継続」（N=115）が8.6%で最も高く、次いで、「休息や睡眠がとれる機会の確保」（N=88）が6.5%の順であった。

図6-1　必要と考える支援の割合

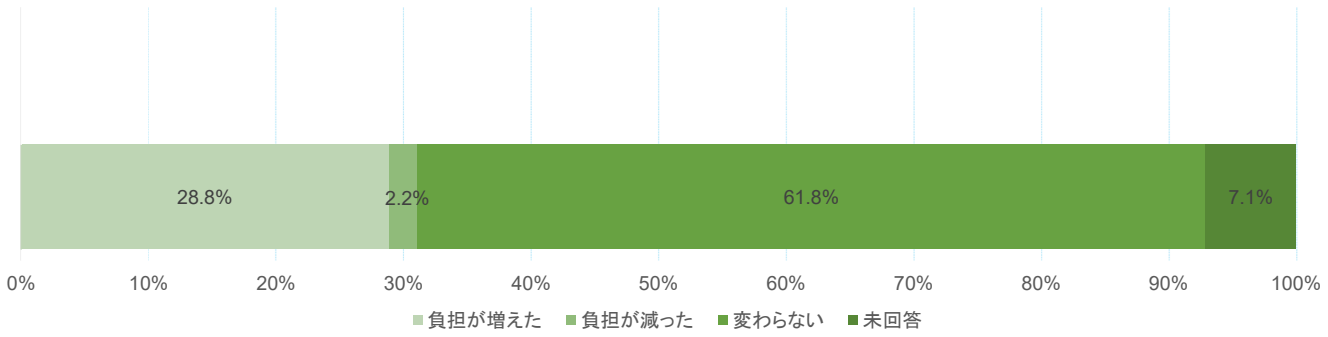


７．その他

７－１　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策前後でのケアの状況

新型コロナウイルス感染症対策前後でのケアの状況（N=1,344）の割合を見ると「負担が増えた」（N=226）16.8%、「負担が減った」（N=10）0.7%、「変わらない」（N=574）42.7%であった。

図表7-1　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策の前後での
ケアの状況の変化の割合



	負担が増えた	負担が減った	変わらない	未回答
ｹｱﾗｰ総数（N=1,344）	226	10	574	534
割合（%）	16.8%	0.7%	42.7%	39.7%

７－２　行政、関係機関等への要望

〇ケアラー本人が入院したり、健康を害した時の手厚い対応。

〇老老介護の為、不安が尽きない。ケアラーがいなくなった時の残された夫の今後についても常に思い悩まれている。

〇ケアラー同士が情報交換できる場所作り

〇家庭の問題となり、支援に結びつけるには根気強く支援を継続できる体制や高齢化するケアラーへの支援が必要。

〇電話や訪問による相談体制の整備

〇行政職員全体がケアラーについて理解していないので、基礎知識を教育して欲しい。

〇ケアラーに役立つ情報不足

〇ケアラーへのきっちりとした支援体制の確立

〇ケアラーが孤立しがちなので、気軽に相談できる行政窓口の整備が早急に必要であると思う。

〇介護を家庭の問題として捉える風潮が強く、問題が十分認識されてこなかったと思う。公助からも考えてもらいたい。
〇ケアマネ通じての状況把握が大事。

７－２　行政、関係機関等への要望

〇経済的に苦しいので、ケアラーより若いケア者の就労支援

〇相談する場所がわからない。

〇ケアラーがいなくなった後の事を心配している。（既にケアラーが高齢になっている為）

〇"担当地域にケアラーがどれ位いるのか把握できておらず、近所の噂や救急車が来て初めて実態が分かる。行政機関、事業所等がタイアップし、民生委員にも情報を共有すべき。"

〇個人情報管理からケアラーの把握は大変難しい。行政、医療、サービス機関等と、民生委員が情報を共有すべき。

〇特養等の受け入れを早くして欲しい。

〇24時間ケアを助けてくれる人が欲しい。

〇認知症で目が離せないと思う。行政等の２４H支援体制（安価）があればケアラーも少しは余裕が出来るのでは。

〇社会から孤立することのない様、総合支援センターへ見守り訪問をお願いしたい。

〇ケアラーに対しての理解を深めて欲しい。

７－３　新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと

〇訪問をして良いのだろうかと考えさせられる毎日である。
〇今までのように気軽に自宅訪問しにくくなった。
〇室内にいることが多くストレスがたまる。人との関わりも少なくなり、抱え込むことも多い。
〇外に出る機会が減った。今までよく歩いていたが、出てもすぐ帰ってくるようになった。人との関わりが少なくなった。
〇マスクを着用はしているが、訪問回数が減った。
〇様子を見に行きたいが、コロナ感染の心配があるので電話で済ませている。今は話を聞くことぐらいしかできない。
〇施設の利用に制限がかかったこと。
〇家族が家に来られない。
〇緊急事態宣言が続くので短期の帰省になっている。
〇どこまで手助けしてよいのかわからなかった。
〇認知症の進行で、マスク、手洗いがしっかりできない。ディ、ショートスティ利用時の感染リスクが心配。
〇デイサービス、ショートステイ等、コロナが発生した事業所の使用が出来なくなり、ケアラーの在宅介護が増えた。
〇事業所の職員にコロナが発生した為、事業所からのサービスを受けられずケアラーの負担が増大した。
〇認知症のため、コロナと言っても本人は分かっていない。

兵庫県ヤングケアラーの実態に係る
福祉機関調査
（要保護児童対策地域協議会）

調査の目的・内容及び分析方法

調査目的及び主な調査内容

【調査目的】
・ケアの状況、ヤングケアラーへの影響、支援ニーズ等を把握し、支援方策の策定に役立てる。
【主な調査項目】
・ヤングケアラー自身について　・ケアの状況について　・ケアの影響について
・ケアに関する相談について　・必要な支援について　など
【調査区域】
・兵庫県内（神戸市を除く）
【調査対象】
・市町要保護児童対策地域協議会
【回答者数】
・１８４人

分析方法

調査票各設問の単純集計を行い、調査結果に関する詳細な分析を行った。

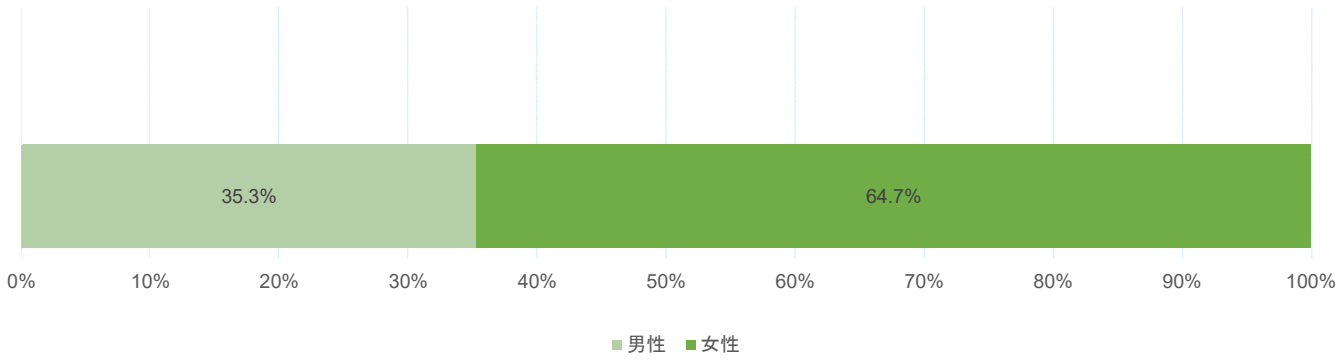
設問の内、ヤングケアラーがケアする被介護者に関する事項に関する設問を集計する際は、被介護者（241人）毎に集計を行った。

１．ヤングケアラーの属性

１－１　ヤングケアラーの性別

ヤングケアラー本人（N=184）の性別の構成割合をみると、「男性」35.3%、「女性」64.7%であった。

図表1-1　ヤングケアラーの性別の割合

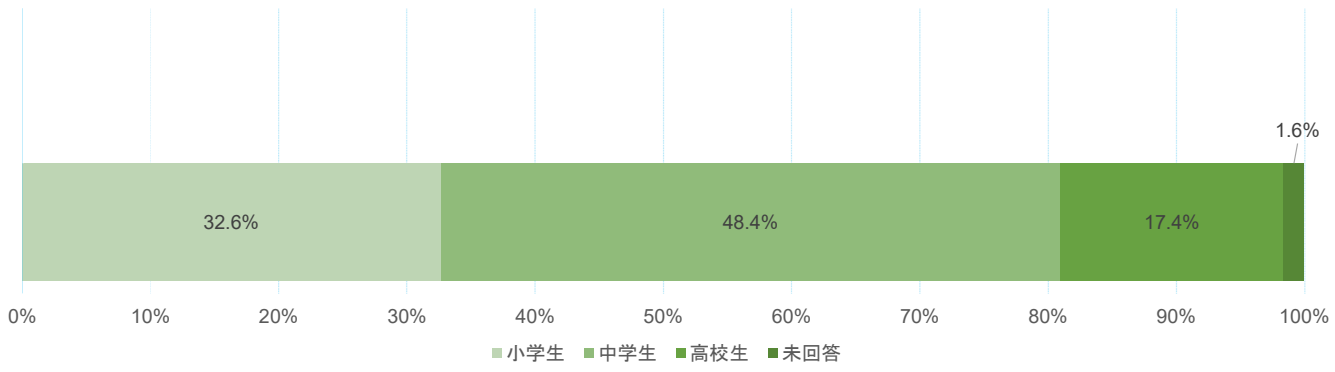


	男性	女性
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N=184）	65	119
割合（%）	35.3%	64.7%

１－２　就学の状況

ヤングケアラー本人（N=184）の就学状況の構成割合をみると、「小学生」（N=60）32.6%、「中学生」（N=89）48.4%、「高校生」（N=32）17.4%であった。

図表1-2　ヤングケアラーの就学状況の割合

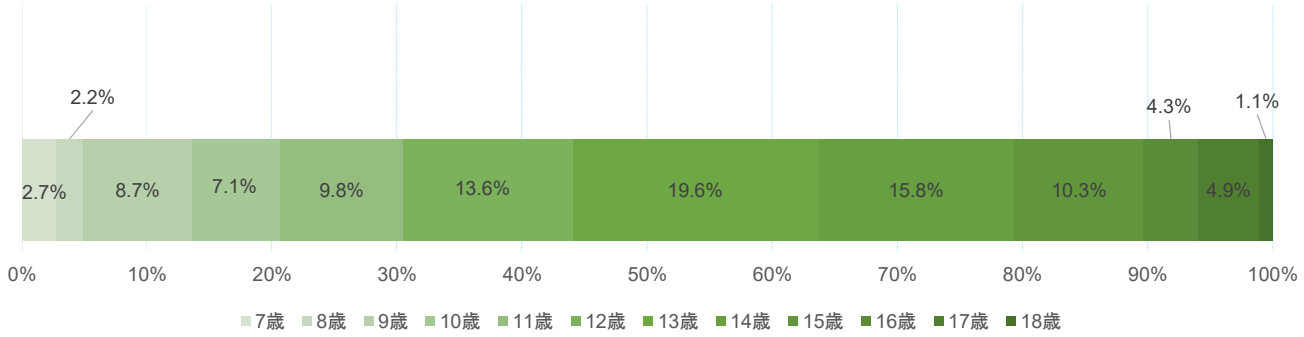


	小学生	中学生	高校生	未回答
ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ総数（N=184）	60	89	32	3
割合（%）	32.6%	48.4%	17.4%	1.6%

１－３　ヤングケアラーの年齢

ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ本人（N=184）の年齢割合については、「13歳」（N=36）が19.6%で最も高く、次いで、「14歳」（N=29）が15.8%、「12歳」（N=25）が13.6%、「15歳」（N=19）が10.3%の順であった。（平均：12.6歳）

図表1-3　ヤングケアラーの年齢

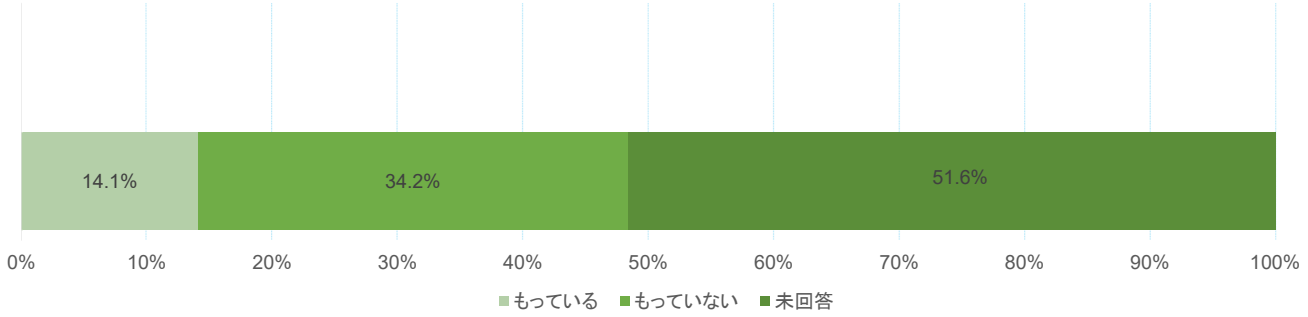


	7歳以下	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳
ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ総数（N=184）	5	4	16	13	18	25	36	29	19	8	9	2
割合（%）	2.7%	2.2%	8.7%	7.1%	9.8%	13.6%	19.6%	15.8%	10.3%	4.3%	4.9%	1.1%

１－４　ヤングケアラーの認識

ヤングケアラー本人（N=184）が「ヤングケアラーである」との認識をもっている割合、「いる」（N=26）14.1%、「いない」（N=63）34.2%であった。

図表1-4　ヤングケアラーの認識



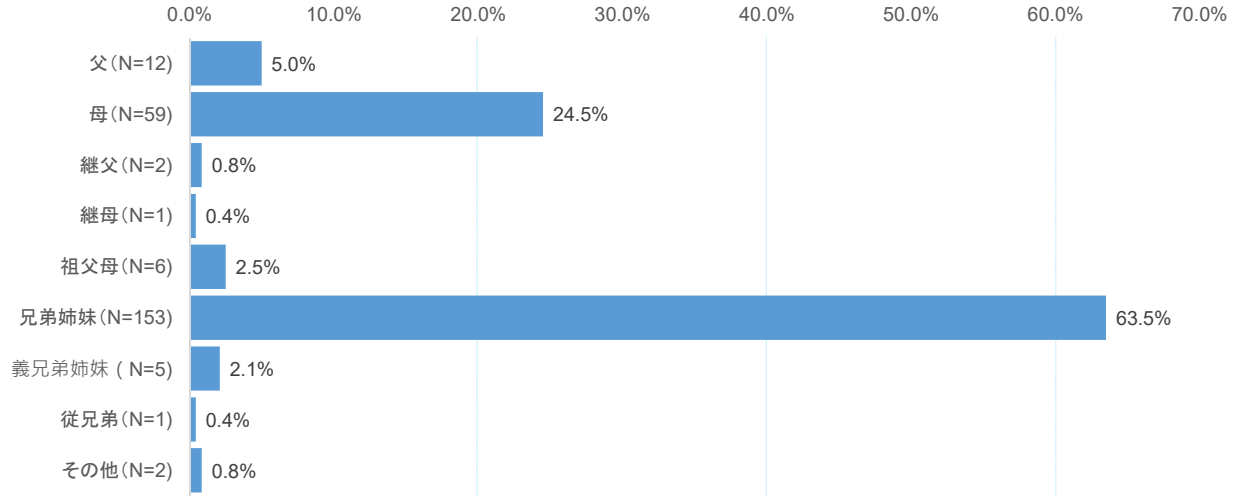
	いる	いない	未回答
ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ総数（N=184）	26	63	95
割合（%）	14.1%	34.2%	51.6%

２．被介護者の属性

２－１　被介護者の属性

被介護者（N=241）のヤングケアラーとの続柄の構成割合をみると、「兄弟姉妹」（N=153）が63.5%で最も高く、次いで、「母」（N=59）が24.5%、「父」（N=12）が5.0%の順であった。

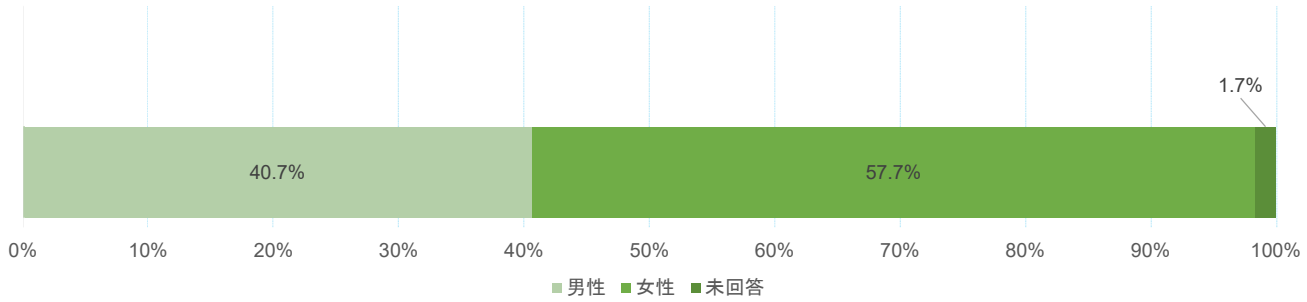
図表2-1被介護者の属性（複数回答）



２－２　被介護者の性別

被介護者（N=241）の性別の構成割合をみると、「男性」40.7%、「女性」57.7%であった。

図表2-2　被介護者の性別の割合

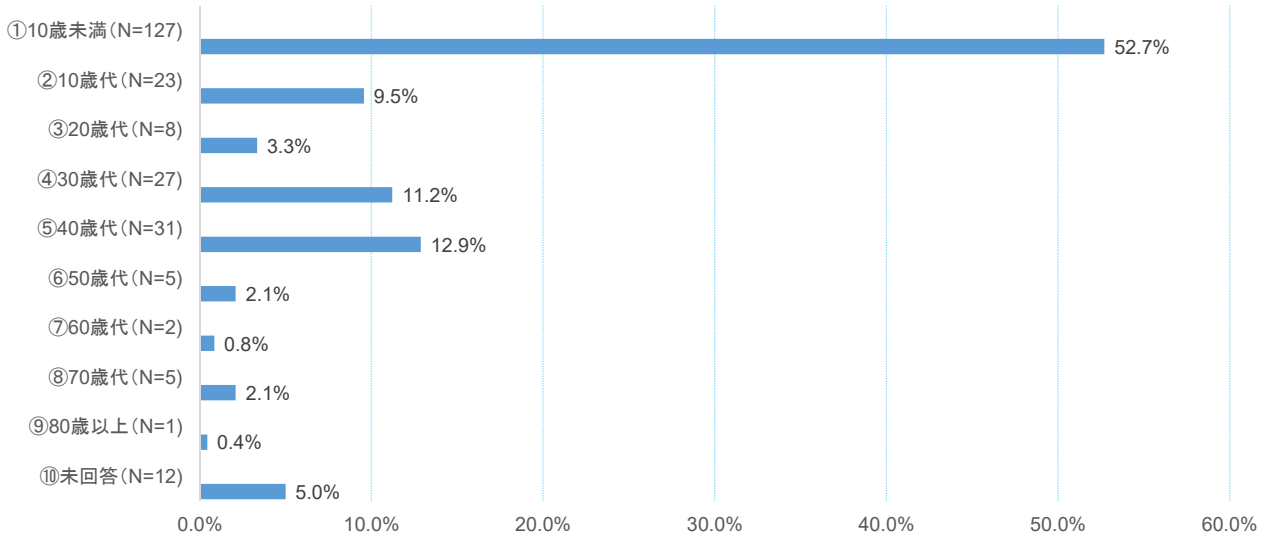


	男性	女性	未回答
被介護者数（N＝241）	98	139	4
割合（%）	40.7%	57.7%	1.7%

２－３　被介護者の年齢

被介護者（N=241）の年齢の構成割合をみると、「10歳未満」（N=127）が52.7%で最も高く、次いで、「40代」（N=31）が12.9%、「30代」（N=27）が11.2%の順であった。

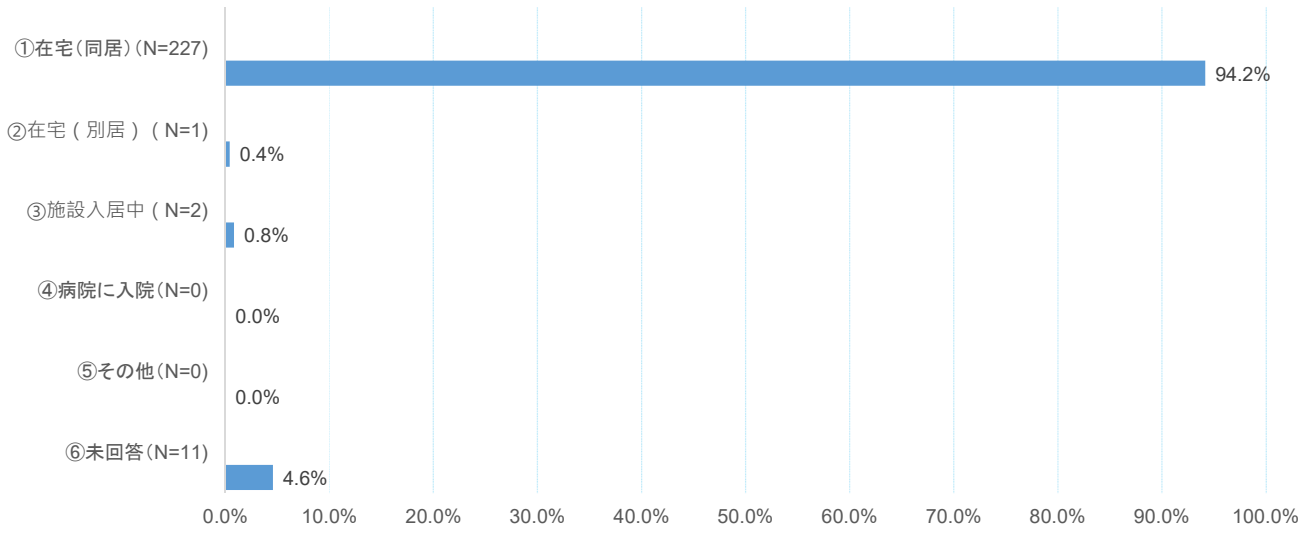
図表2-3　被介護者の年齢の割合



２－４　被介護者の生活場所

被介護者（N=241）の生活場所の構成割合をみると、「在宅（同居）」（N=227）が94.2%で最も高く、次いで、「施設入居中」（N=2）が0.8% の順であった。

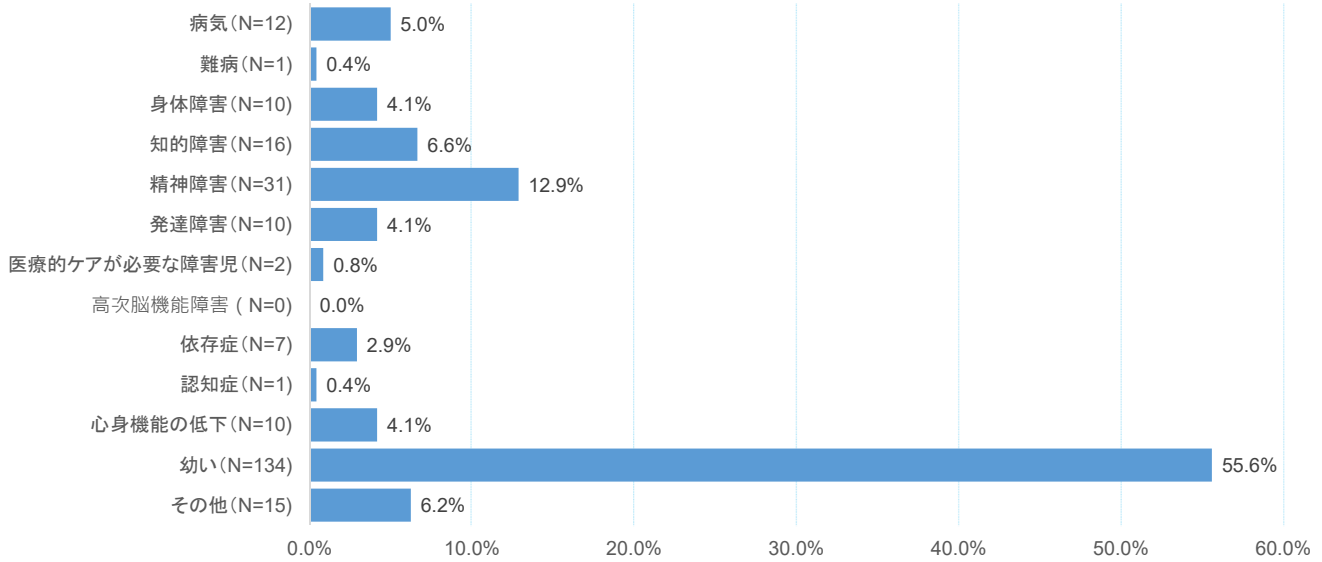
図表2-4　被介護者の生活場所の割合



２－５　被介護者の状況

被介護者の状況（N=241）をみると、「幼い」（N=134）が55.6%で最も高く、次いで、「精神障害」（N=31）が12.9%、「知的障害」（N=16）が6.6%の順であった。

図表2-5　被介護者の状況

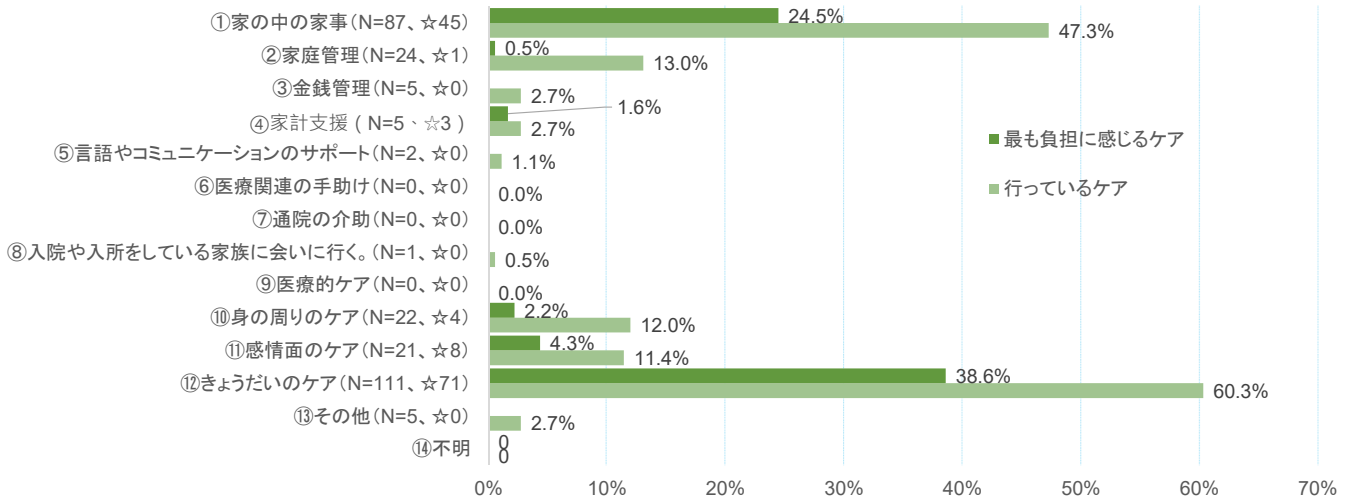


３．ケアの状況

３－１　ケアの内容

ヤングケアラーの行っているケアの内容（N=184）をみると、「きょうだいのケア」（N=111）が60.3%で最も高く、次いで、「家の中の家事」（N=87）が47.3%　、「家庭管理（買い物など）」（N=24）が13.0%の順であった。
そのうち、最も負担を感じるケア内容は、「きょうだいのケア」（N=71）が38.6%で最も高く、次いで、「家の中の家事」（N=45）が24.5%の順であった。

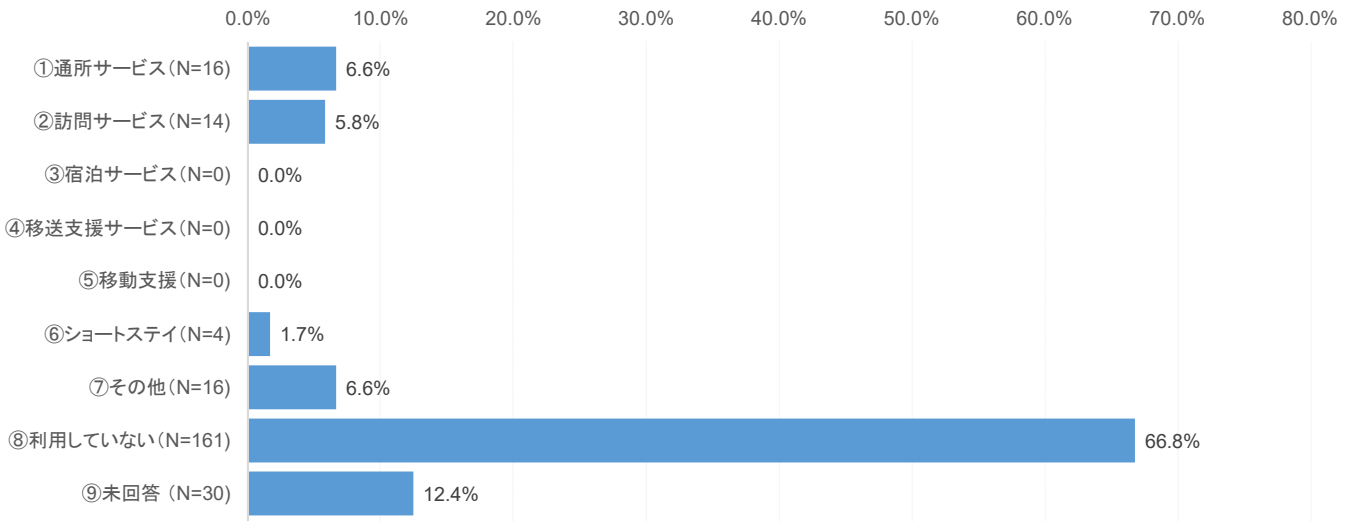
図表3-1　ヤングケアラーにおけるケアの内容（複数回答）



３－２　利用している（していた）サービス

利用している（していた）サービス（N=241）をみると、「利用していない」（N=161）が66.8%で最も高く、次いで、「通所サービス」「その他（保育所等）」がともに（N=16）が6.6%の順であった。

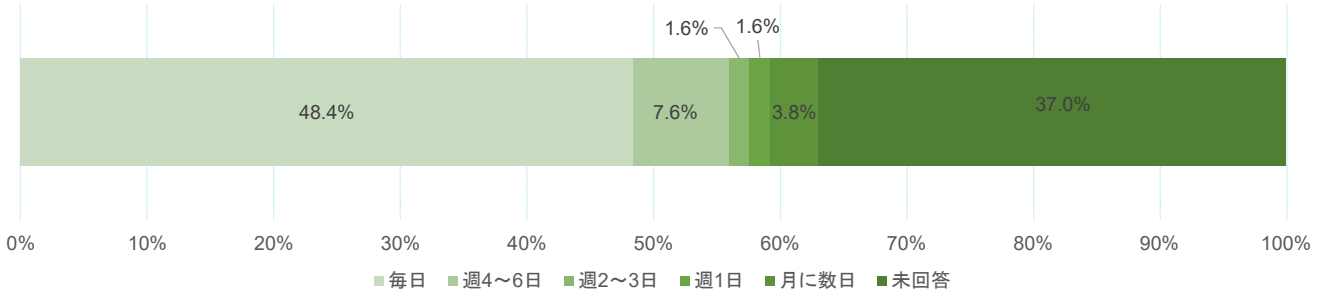
図表3-2　利用している（していた）サービス（複数回答）



３－３　ヤングケアラーのケアの頻度

ヤングケアラ(N=184)のケアの頻度をみると、「毎日」(N=89)が48.4%で最も高く、次いで、「週4～6日」(N=14)が7.6%、「月に数日」(N=7)が3.8%の順であった。

図表3-3　ケアの頻度の割合

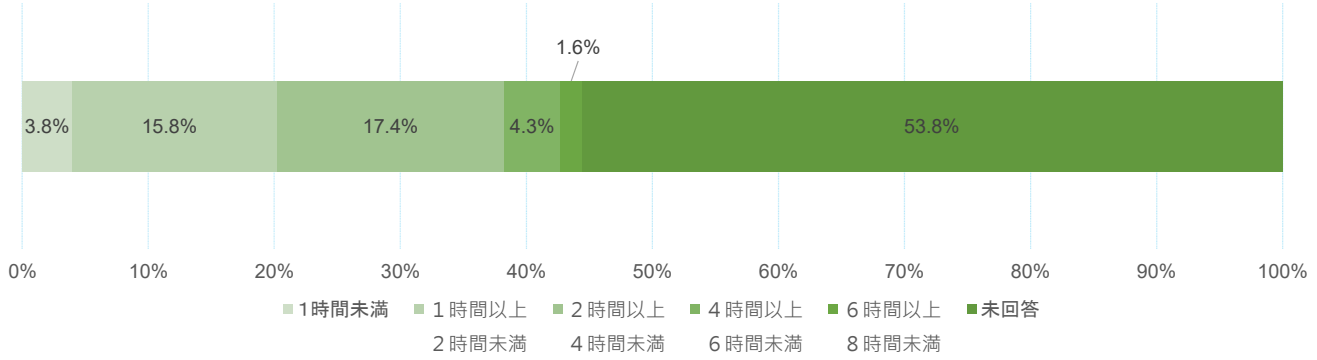


	毎日	週4～6日	週2～3日	週1日	月に数日	未回答
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N＝184）	89	14	3	3	7	68
割合（%）	48.4%	7.6%	1.6%	1.6%	3.8%	37.0%

３－４　ケアにかける時間

ケアにかける時間(N=184)の構成割合をみると、「2時間以上4時間未満」(N=32)が17.4%で最も高く、次いで、「1時間以上2時間未満」(N=29)が15.8% 、「4時間以上6時間未満」(N=8)が4.3%の順であった。

図表3-4　ケアにかける時間の割合

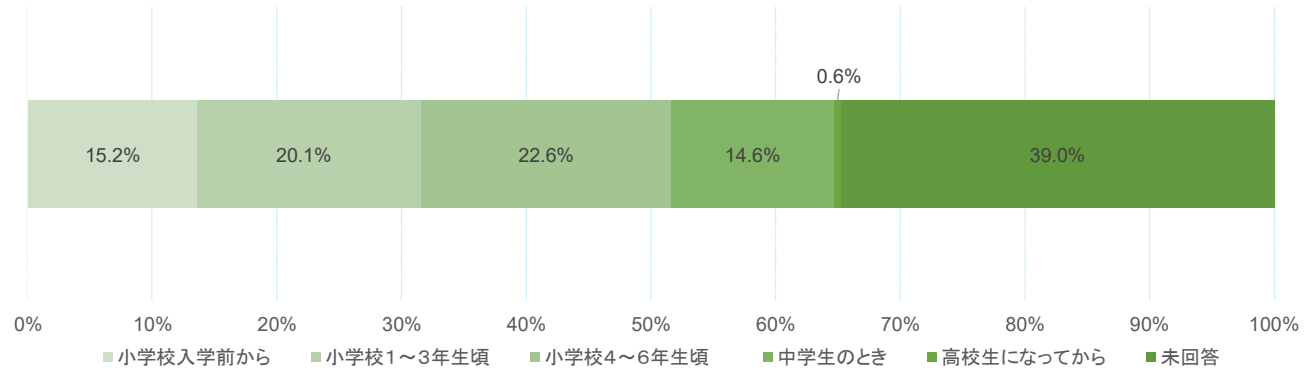


	1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上	未回答
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N=184）	7	29	32	8	3	6	99
割合（%）	3.8%	15.8%	17.4%	4.3%	1.6%	3.3%	53.8%

３－５　ケアの期間

ケアの期間（N=184）の構成割合をみると、「小学校4～6年生頃から」（N=37）が22.6%で最も高く、次いで、「小学校1～3年生頃から」（N=33）が20.1%、「小学校入学前から」（N=25）が15.2%の順であった。

図表3-5　ケアの期間の割合

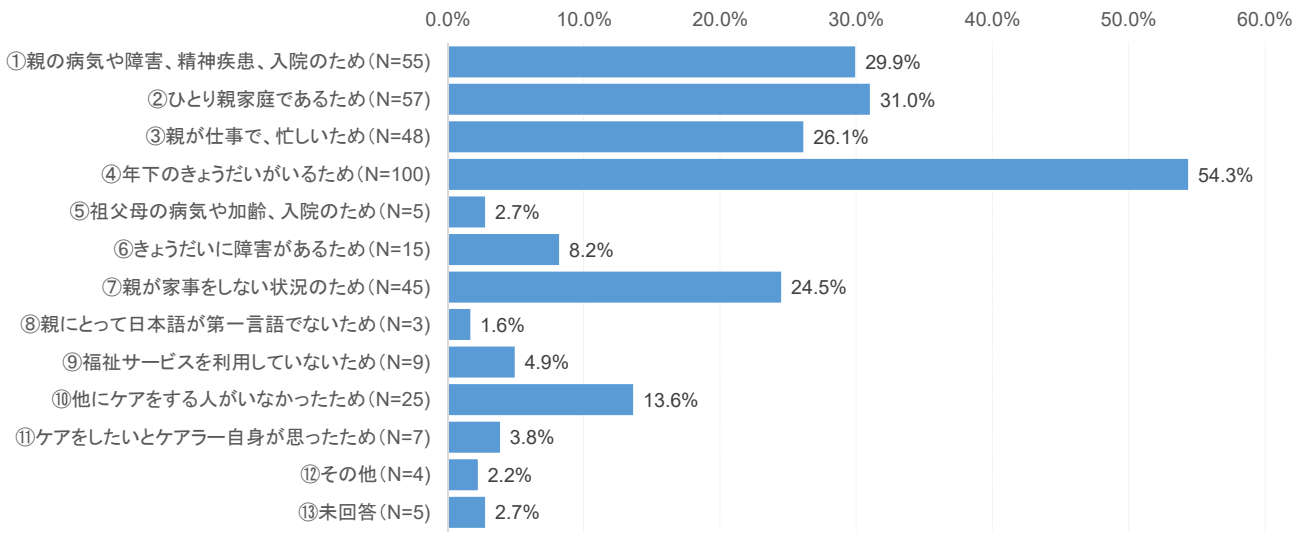


	小学校入学前から	小学校1～3年生頃	小学校4～6年生頃	中学生のとき	高校生になってから	未回答
ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ総数（N=184）	25	33	37	24	1	64
割合（%）	15.2%	20.1%	22.6%	14.6%	0.6%	39.0%

３－６　ケアをしている理由

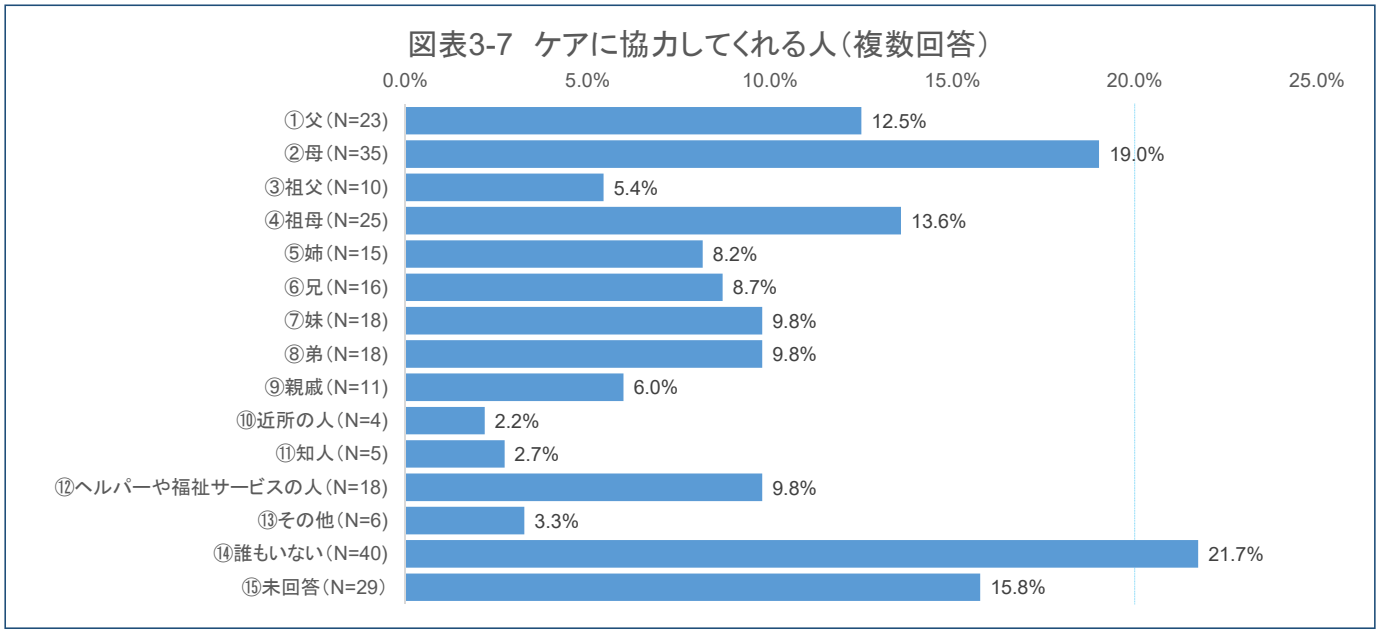
ケアをしている理由（N=184）の構成割合をみると、「年下のきょうだいがいるため」（N=100）が54.3%で最も高く、次いで、「ひとり親家庭であるため」（N=57）が31.0%、「親の病気や障害、精神疾患、入院のため」（N=55）が29.9%の順であった。

図表3-6ケアをしている理由の割合（複数回答）



３－７　ケアに協力してくれる人

ケアに協力してくれる人（N=184）をみると、「誰もいない」（N=40）が21.7%で最も高く、次いで、「母」（N=35）が19.0%、「祖母」（N=25）が13.6%の順であった。

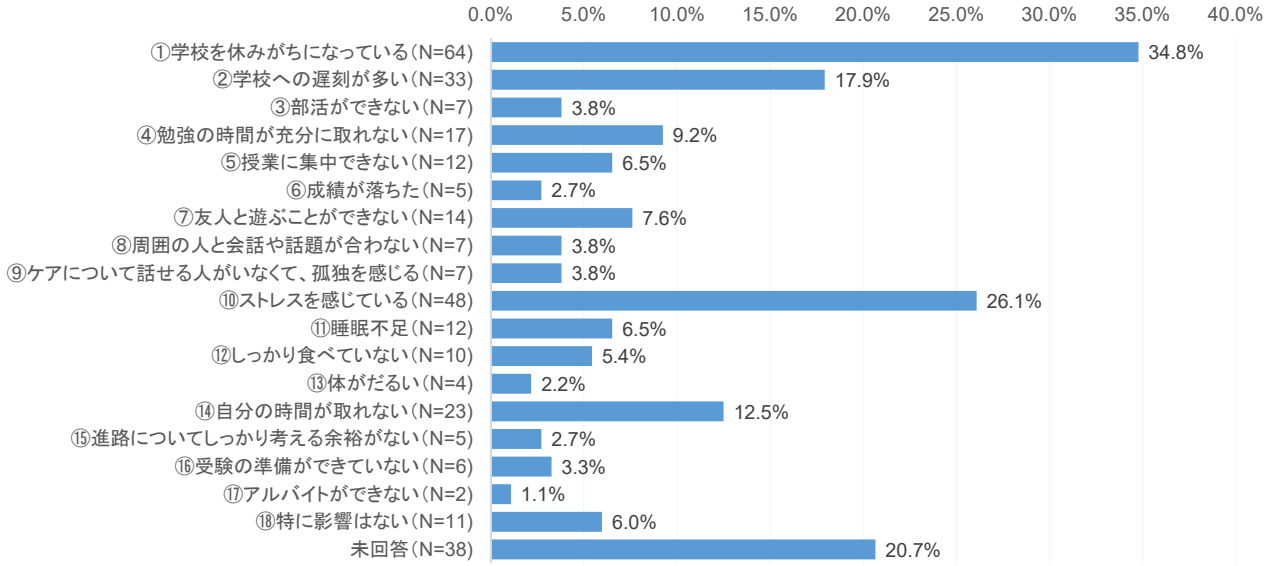


４．ケアの影響

４－１　ヤングケアラーの生活への影響について

生活への状況（N=184）をみると、「学校を休みがちになっている」（N=64）が34.8%で最も高く、次いで、「ストレスを感じている」（N=48）が26.1%、「学校への遅刻が多い」（N=33）が17.9%の順であった。

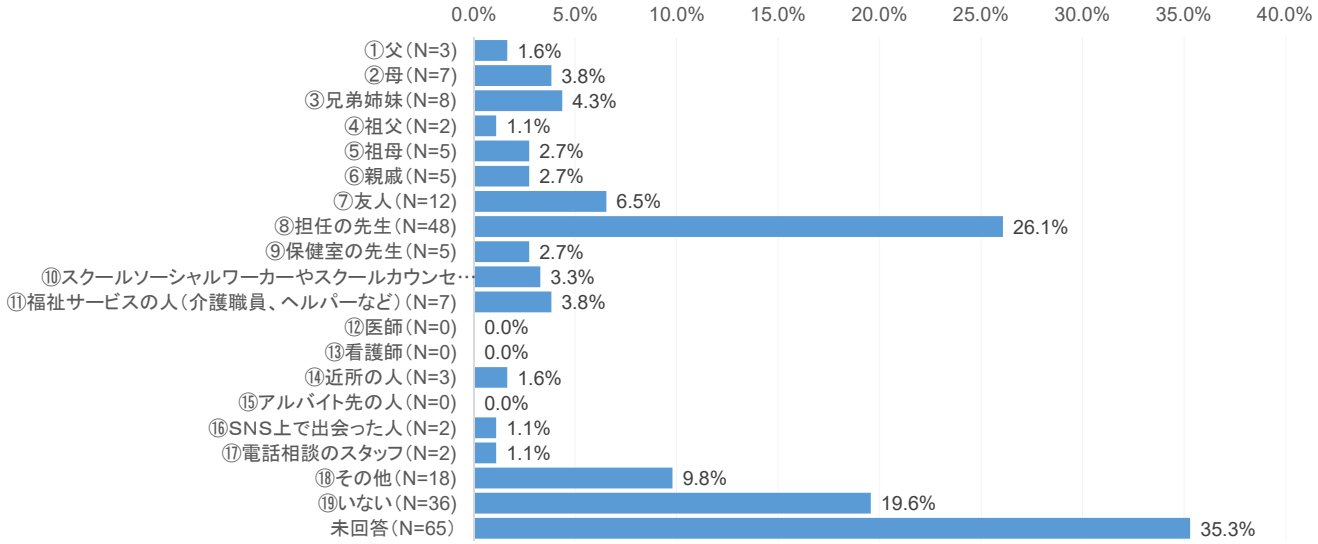
図表4-1　ヤングケアラーの生活への影響（複数回答）



４－２　ケアに関する悩みや不安、愚痴を話せる人

ケアに関する悩みや不安等を話せる人（N=184）をみると、「担任の先生」（N=48）が26.1%で最も高く、次いで、「いない」（N=36）が19.6%、「友人」（N=12）が6.5% の順であった。

図表4-2　悩みや不安、愚痴を話せる人の割合

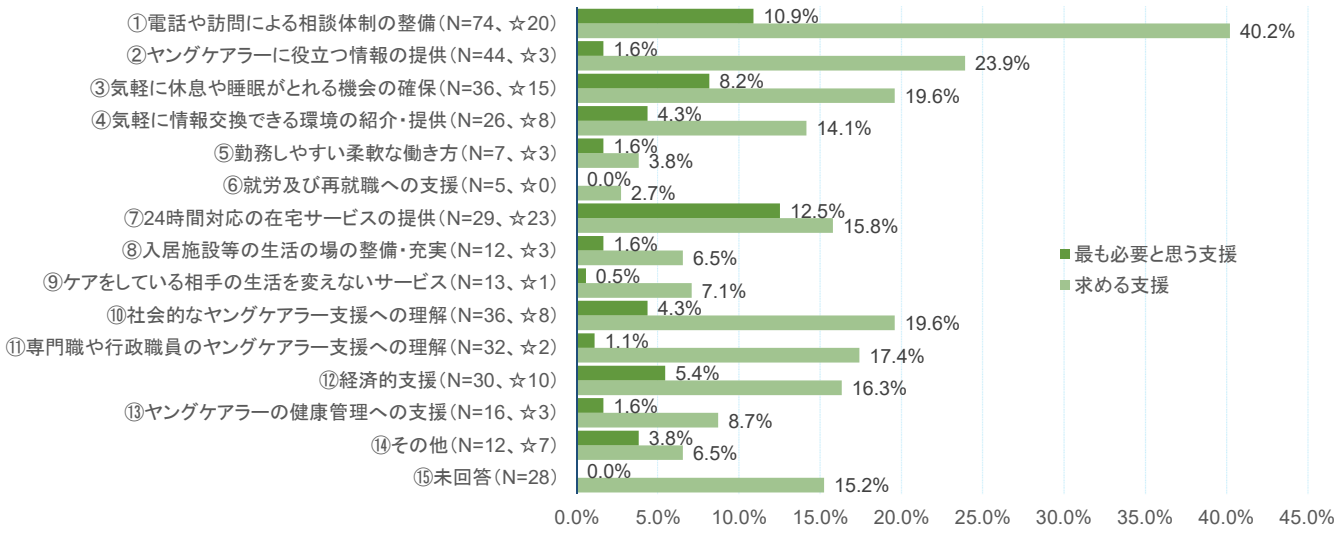


５．必要な支援

５－１　必要と思われる支援

ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰに必要と思われる支援（N=184）をみると、「相談体制の整備」（N=74）が40.2%で最も高く、次いで、「役立つ情報の提供」（N=44）が23.9% の順であった。そのうち、最も必要と思われる支援は、「24時間対応の在宅サービスの提供」（N=23）が12.5%で最も高く、次いで、「相談体制の整備」（N=20）が10.9%の順であった。

図5-1　必要と思われる支援の割合

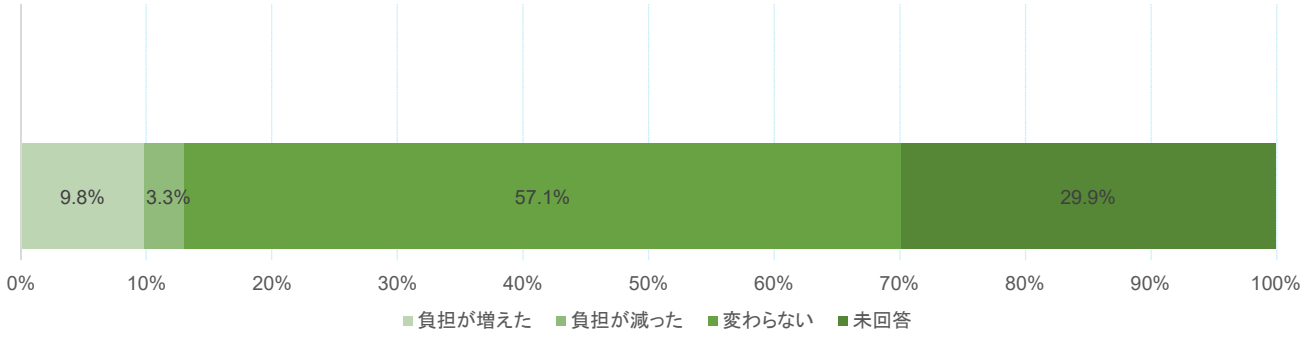


６．その他

６－１　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策前後でのケアの状況

新型コロナウイルス感染症対策前後でのケアの状況（N=184）の割合を見ると「負担が増えた」9.8%、「負担が減った」3.3%、「変わらない」57.1%であった。

図表6-1　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策の前後での
ケアの状況の変化の割合



	負担が増えた	負担が減った	変わらない	未回答
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N=184）	18	6	105	55
割合（%）	9.8%	3.3%	57.1%	29.9%

６－２　行政、関係機関等への要望

・このケースは母の外出の際子守として学校を休むという状況であるので、在籍がない子の一時保育や一時預かりが増えれば、母も外出しやすいと思う。
・ケアラ一側が安心できる、親への在宅支援の充実
・ヤングケアラーに対する包括的で、持続可能な支援システムの構築（相談窓口、ケースマネジメント担当）
・社会的理解を深める活動
・生活保護世帯のため、担当CWが父自身に使えるサービスを親身になって提案、また手続きの支援を一緒に行ってもらいたい。結果、ヤングケアラーの負担軽減にもつながると思われる
・ヤングケアラーについて、県と市での対応に温度差があり、支援や指導に差がある。
・社会的にヤングケアラーについての認知が低いため、学校等関係機関の中でも対応や危機感に温度差がある。
・支援に入る定義が曖昧なため、対応マニュアルを作成してほしい。
・怪我や痣のように見える形では発見されにくいが、ケースに対応する市・関係機関に対し、専門的な助言・指導を求めたい。
・家事支援の充実
・同じ境遇等のこどもの居場所づくり、心のケア等への継続的人的支援

６－３　新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと

・世帯員の発熱(微熱)を理由に関係機関の介入を遠ざけるなど、拒否の理由に使われてしまう。
・家庭でのケアと、コロナ予防で欠席することが家庭の判断で可になり、欠席が続いた。
・コロナ不安を理由にした欠席が増えていること
・保育所が休みだったときは負担が増えたと思うが、保育所が開いているので、よかったと思う。
・外出して親子が離れられる機会が減り困っておられる家族が増えました。そこでショートステイを希望される家族も増えましたが、受け入れ先も定員を減らされる等から利用しにくくなっており支援が難しくなっています。
・訪問で接触することについて配慮が必要
・障害サービスがコロナで止まると児童の負担が大きくなる。
・きょうだい等をケアするための欠席について、コロナを理由に欠席をすると実態把握が出来ない
・母親の収入が減ったこと

兵庫県ヤングケアラーの実態に係る
福祉機関調査

（民生委員・児童委員、子ども食堂、介護支援専門員、
地域包括支援ｾﾝﾀｰ、障害者（児）相談支援事業所）

調査の目的・内容及び分析方法

調査目的及び主な調査内容

【調査目的】
・ケアの状況、ヤングケアラーへの影響、支援ニーズ等を把握し、支援方策の策定に役立てる。
【主な調査項目】
・ヤングケアラー自身について　　・ケアの状況について　　・ケアの影響について
・ケアに関する相談について　・必要な支援について　など
【調査区域】
・兵庫県内（神戸市を除く）
【調査対象】
・こども食堂、地域包括支援ｾﾝﾀｰ及び介護支援専門員、障害者(児)相談事業所、民生委員・児童委員【7/32現在】
【回答者数】
・７０人

分析方法

調査票各設問の単純集計を行い、調査結果に関する詳細な分析を行った。

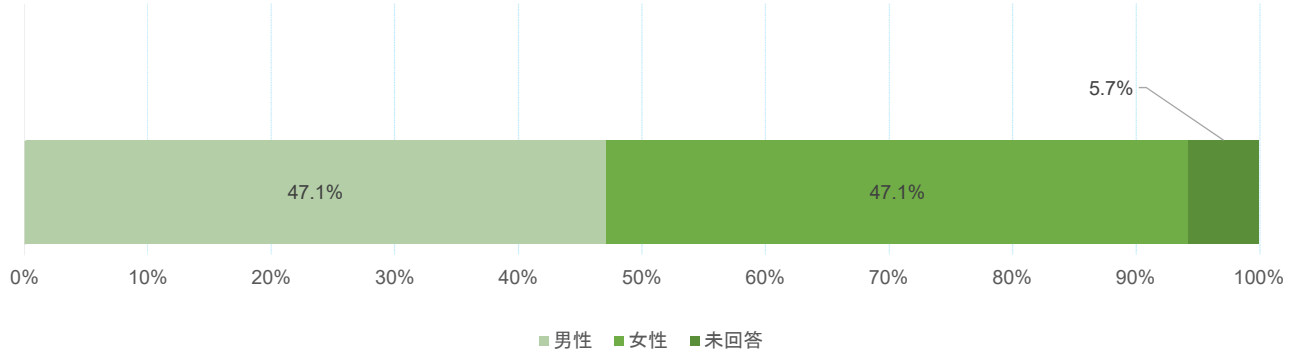
設問の内、ヤングケアラーがケアする被介護者に関する事項に関する設問を集計する際は、被介護者（８０人）毎に集計を行った。

１．ヤングケアラーの属性

１－１　ヤングケアラーの性別

ヤングケアラー本人（N=70）の性別の構成割合をみると、「男性」47.1%、「女性」47.1%であった。

図表1-1　ヤングケアラーの性別の割合

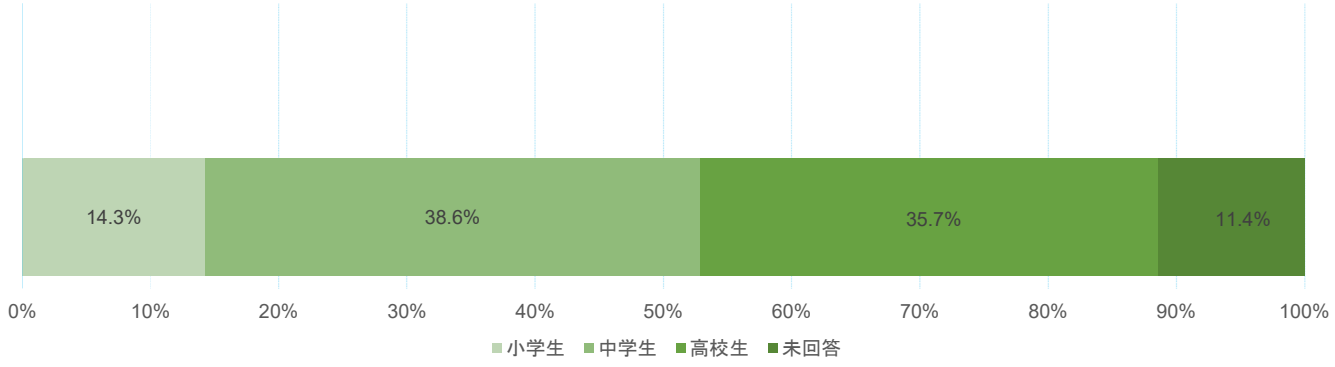


	男性	女性	未回答
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N=70）	33	33	4
割合（%）	47.1%	47.1%	5.7%

１－２　就学の状況

ヤングケアラー本人（N=70）の就学状況の構成割合をみると、「小学生」14.3%、「中学生」38.6% 、「高校生」35.7%であった。

図表1-2　ヤングケアラーの就学状況の割合

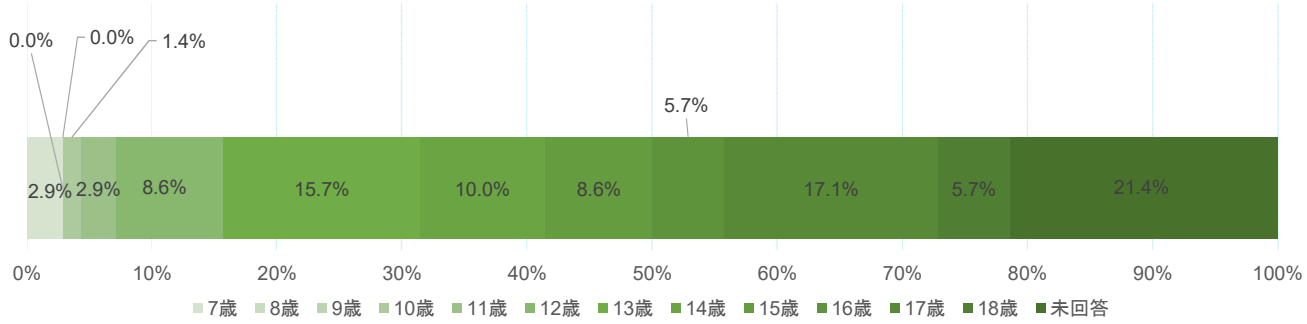


	小学生	中学生	高校生	未回答
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N=70）	10	27	25	8
割合（%）	14.3%	38.6%	35.7%	11.4%

１－３　ヤングケアラーの年齢

ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ本人（N=70）の年齢割合については、「17歳」（N=12）が17.1%で最も高く、次いで、「13歳」（N=11）が15.7%、「14歳」（N=7）が10.0%の順であった。（平均：14.3歳）

図表1-3　ヤングケアラーの年齢

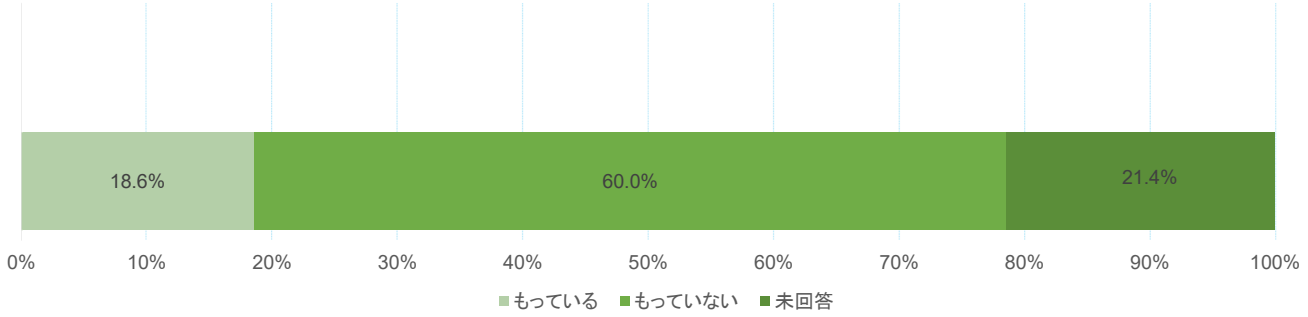


	7歳以下	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	未回答
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N=70）	2	0	0	1	2	6	11	7	6	4	12	4	15
割合（%）	2.9%	0.0%	0.0%	1.4%	2.9%	8.6%	15.7%	10.0%	8.6%	5.7%	17.1%	5.7%	21.4%

１－４　ヤングケアラーの認識

ヤングケアラー本人（N=70）が「ヤングケアラーである」との認識をもっている割合、「いる」18.6%、「いない」60.0%であった。

図表1-4　ヤングケアラーの認識



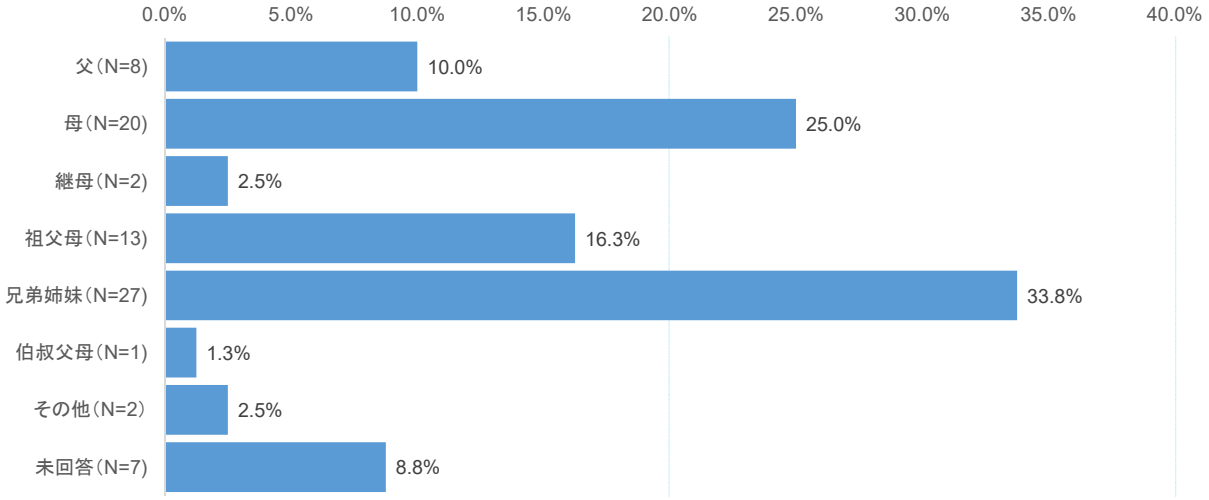
	いる	いない	未回答
ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ総数（N=70）	13	42	15
割合（%）	18.6%	60.0%	21.4%

２．被介護者の属性

２－１　被介護者の属性

被介護者（N=80）のヤングケアラーとの続柄の構成割合をみると、「兄弟姉妹」（N=27）が33.8%で最も高く、次いで、「母」（N=20）が25.0%、「祖父母」（N=13）が16.3%の順であった。

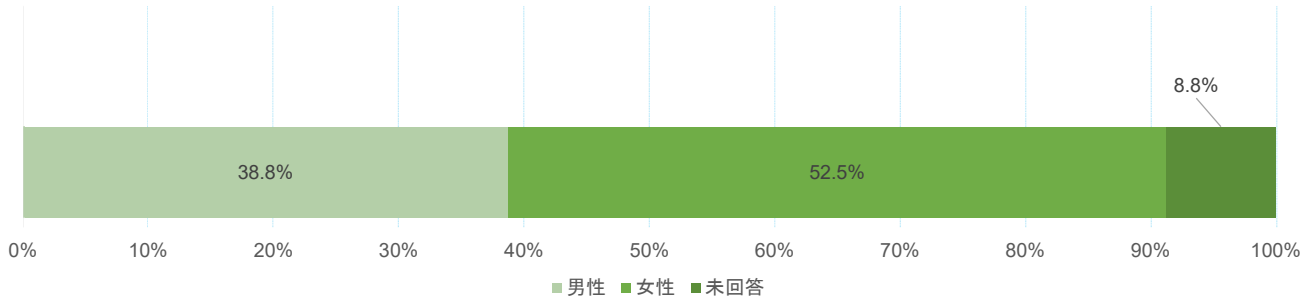
図表2-1被介護者の属性（複数回答）



２－２　被介護者の性別

被介護者（N=80）の性別の構成割合をみると、「男性」38.8%、「女性」52.5%であった。

図表2-2　被介護者の性別の割合

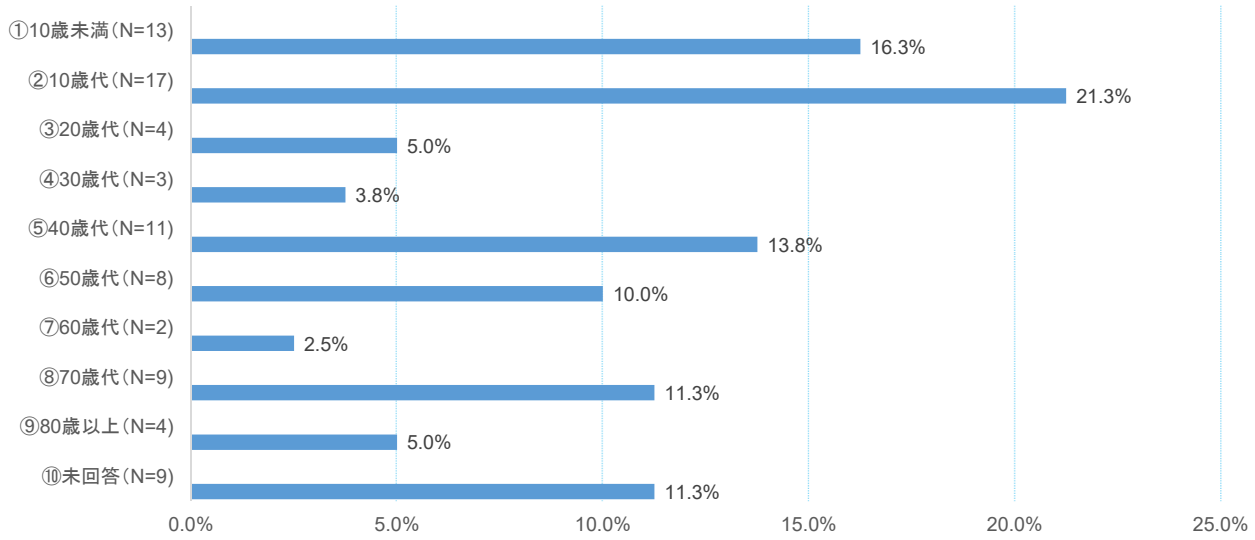


	男性	女性	未回答
被介護者数（N＝80）	31	42	7
割合（%）	38.8%	52.5%	8.8%

２－３　被介護者の年齢

被介護者（N=80）の年齢の構成割合をみると、「10代」（N=17）が21.3%で最も高く、次いで、「10代未満」（N=13）が16.3%、「40代」（N=11）が13.8%の順であった。

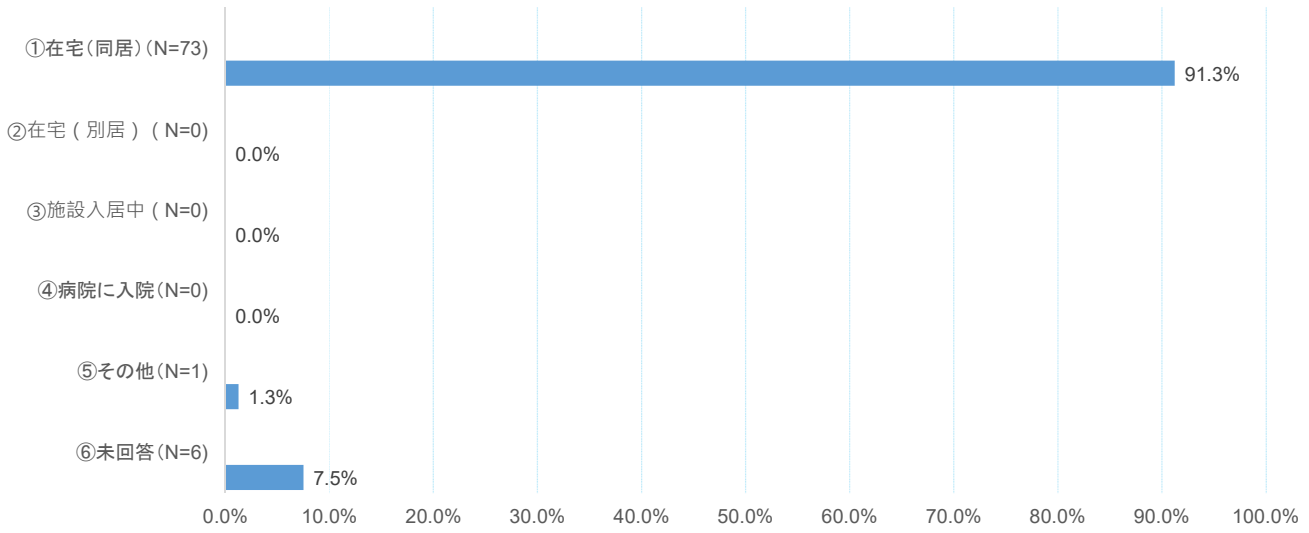
図表2-3　被介護者の年齢の割合



２－４　被介護者の生活場所

被介護者（N=80）の生活場所の構成割合をみると、「在宅（同居）」（N=73）が91.3%で最も高かった。

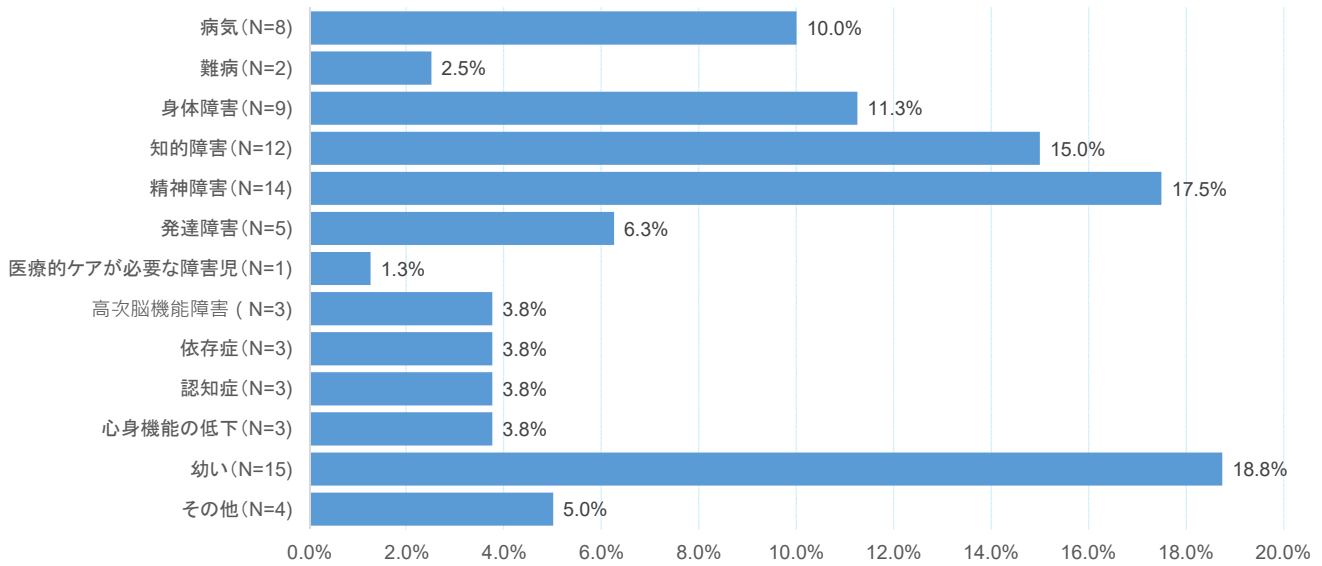
図表2-4　被介護者の生活場所の割合



２－５　被介護者の状況

被介護者の状況（N=80）をみると、「幼い」（N=15）が18.8%で最も高く、次いで、「精神障害」（N=14）が17.5%、「知的障害」（N=12）が15.0%の順であった。

図表2-5　被介護者の状況

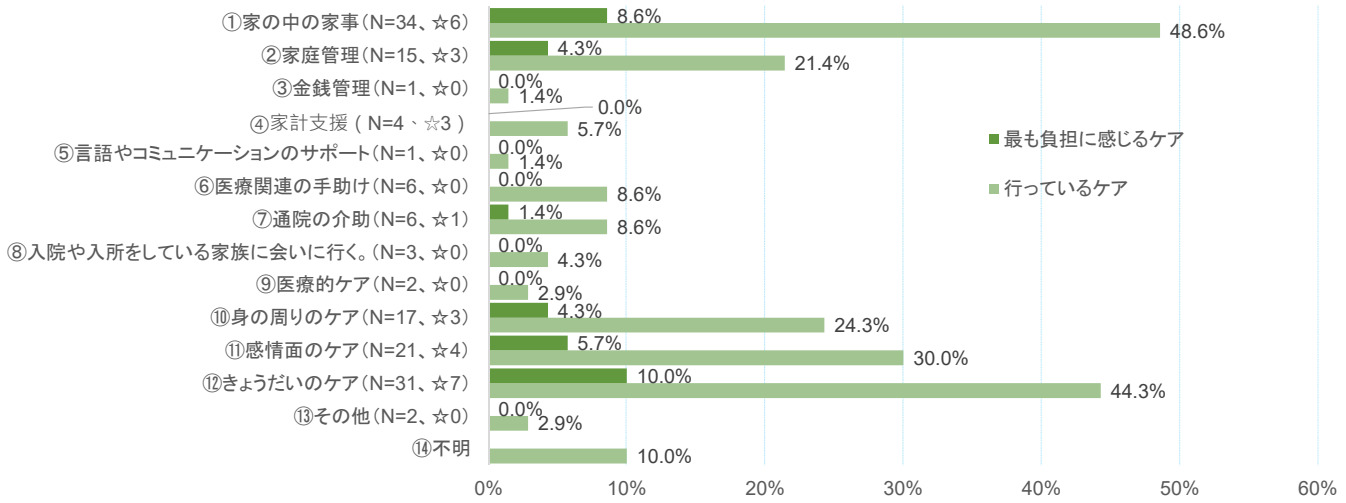


３．ケアの状況

３－１　ケアの内容

ヤングケアラーの行っているケアの内容（N=70）をみると、「家の中の家事」（N=34）が48.6%で最も高く、次いで、「きょうだいのケア」（N=31）が44.3%　、「感情面のケア」（N=21）が30.0%の順であった。
そのうち、最も負担を感じるケア内容は、「きょうだいのケア」（N=7）が10.0%で最も高く、次いで、「家の中の家事」（N=6）が8.6%の順であった。

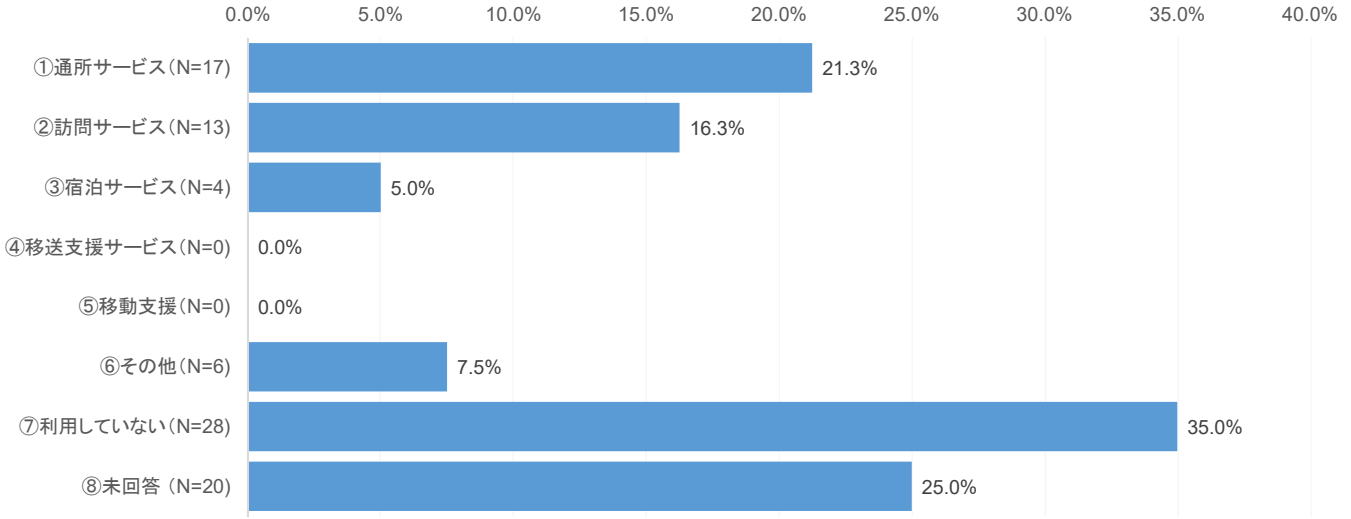
図表3-1　ヤングケアラーにおけるケアの内容（複数回答）



３－２　利用している（していた）サービス

利用している（していた）サービス（N=80）をみると、「利用していない」（N=28）が35.0%で最も高く、次いで、「通所サービス」（N=17）が21.3%　、「訪問サービス」（N=13）が16.3% の順であった。

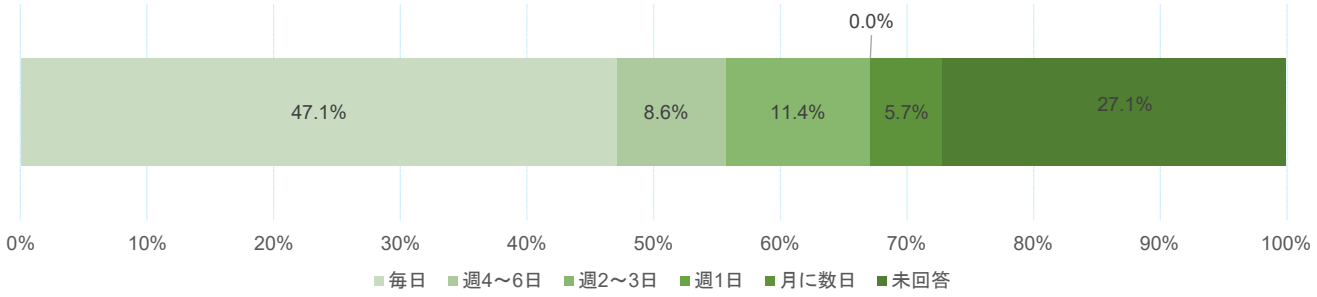
図表3-2　利用している（していた）サービス（複数回答）



３－３　ヤングケアラーのケアの頻度

ヤングケアラ(N=70)のケアの頻度をみると、「毎日」(N=33)が47.1%で最も高く、次いで、「週2～3日」(N=8)が11.4%、「週4～6日」(N=6)が8.6%の順であった。

図表3-3　ケアの頻度の割合

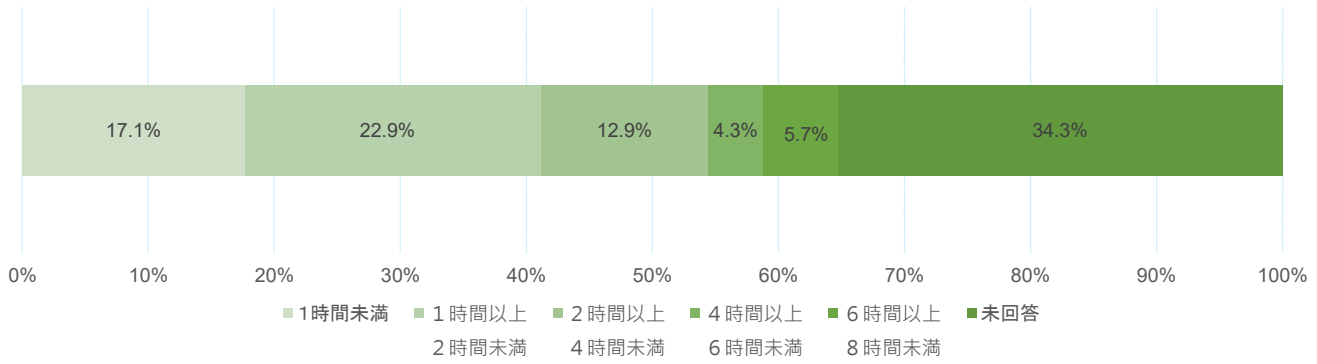


	毎日	週4～6日	週2～3日	週1日	月に数日	未回答
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N=70）	33	6	8	0	4	19
割合（%）	47.1%	8.6%	11.4%	0.0%	5.7%	27.1%

３－４　ケアにかける時間

ケアにかける時間(N=70)の構成割合をみると、「1時間以上2時間未満」(N=16)が22.9%で最も高く、次いで、「1時間未満」(N=12)が17.1% 、「2時間以上4時間未満」(N=9)が12.9%の順であった。

図表3-4　ケアにかける時間の割合

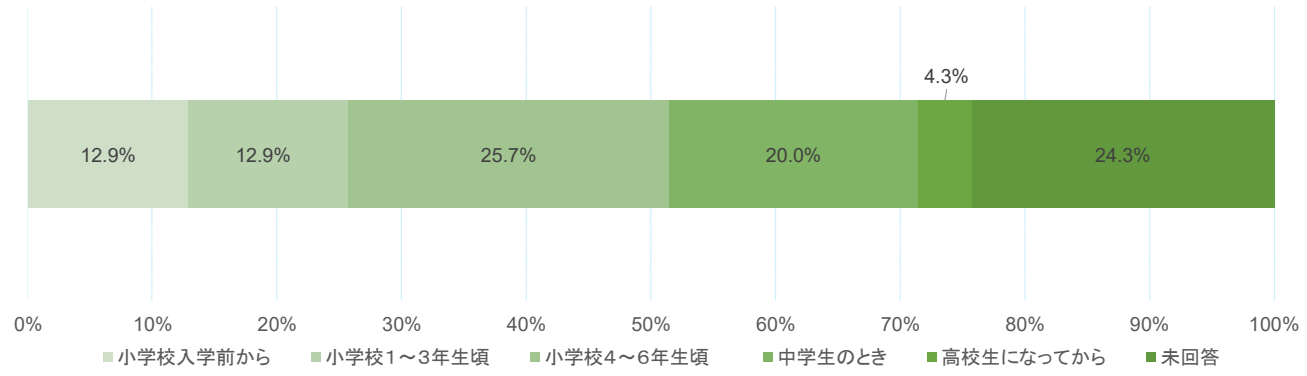


	1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上	未回答
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N=70）	12	16	9	3	4	2	24
割合（%）	17.1%	22.9%	12.9%	4.3%	5.7%	2.9%	34.3%

３－５　ケアの期間

ケアの期間（N=70）の構成割合をみると、「小学校4～6年生頃から」（N=18）が25.7%で最も高く、次いで、「中学生のとき」（N=14）が20.0%の順であった。

図表3-5　ケアの期間の割合

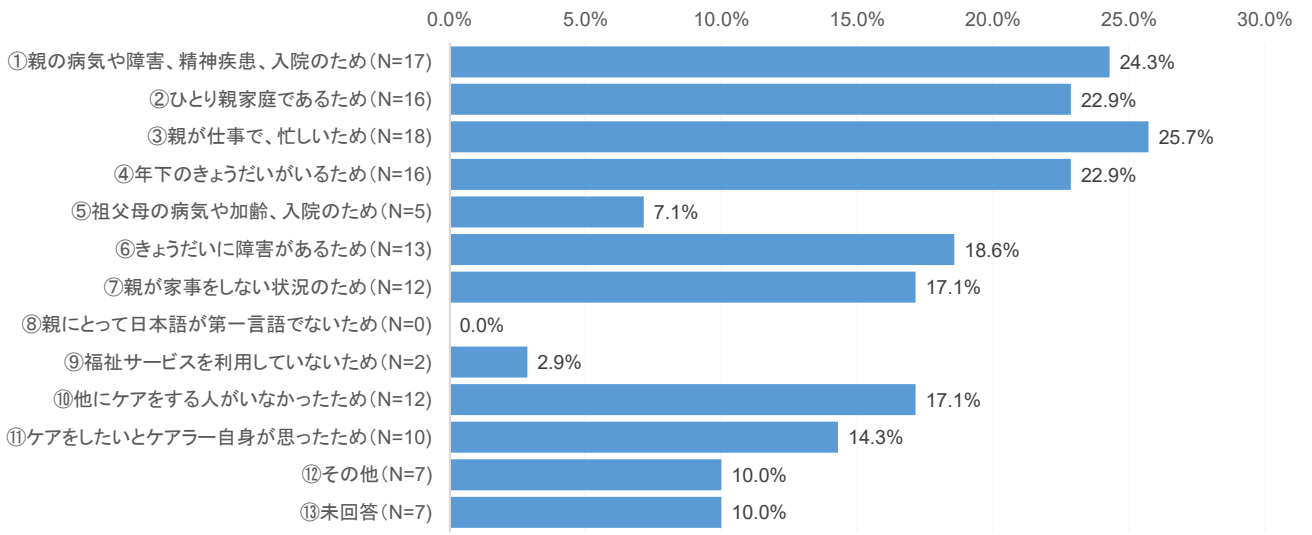


	小学校入学前から	小学校1～3年生頃	小学校4～6年生頃	中学生のとき	高校生になってから	未回答
ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ総数（N=70）	9	9	18	14	3	17
割合（%）	12.9%	12.9%	25.7%	20.0%	4.3%	24.3%

３－６　ケアをしている理由

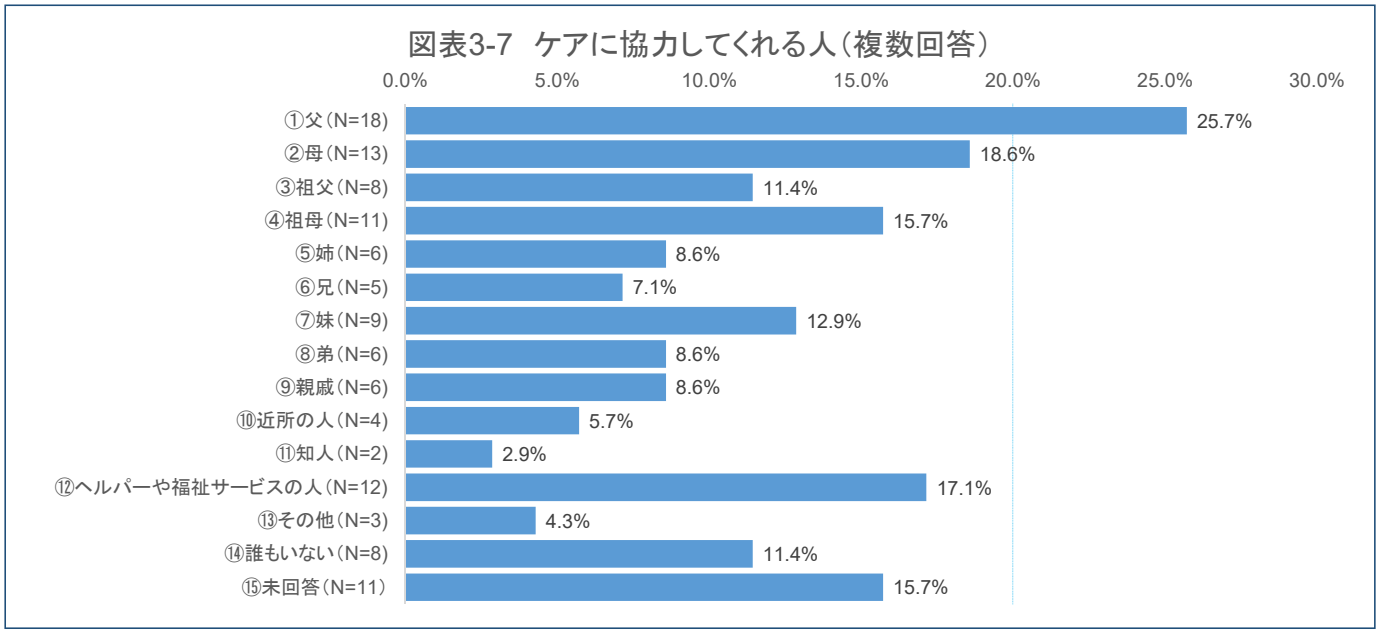
ケアをしている理由（N=70）の構成割合をみると、「親が仕事で忙しいため」（N=18）が25.7%で最も高く、次いで、「親の病気や障害、精神疾患、入院のため」（N=17）が24.3%、「ひとり親家庭であるため」「年下のきょうだいがいるため」がともに（N=16）が22.9%の順であった。

図表3-6ケアをしている理由の割合（複数回答）



３－７　ケアに協力してくれる人

ケアに協力してくれる人（N=70）をみると、「父」（N=18）が25.7%で最も高く、次いで、「母」（N=13）が18.6%、「ヘルパーや福祉サービスの人」（N=12）が17.1%の順であった。

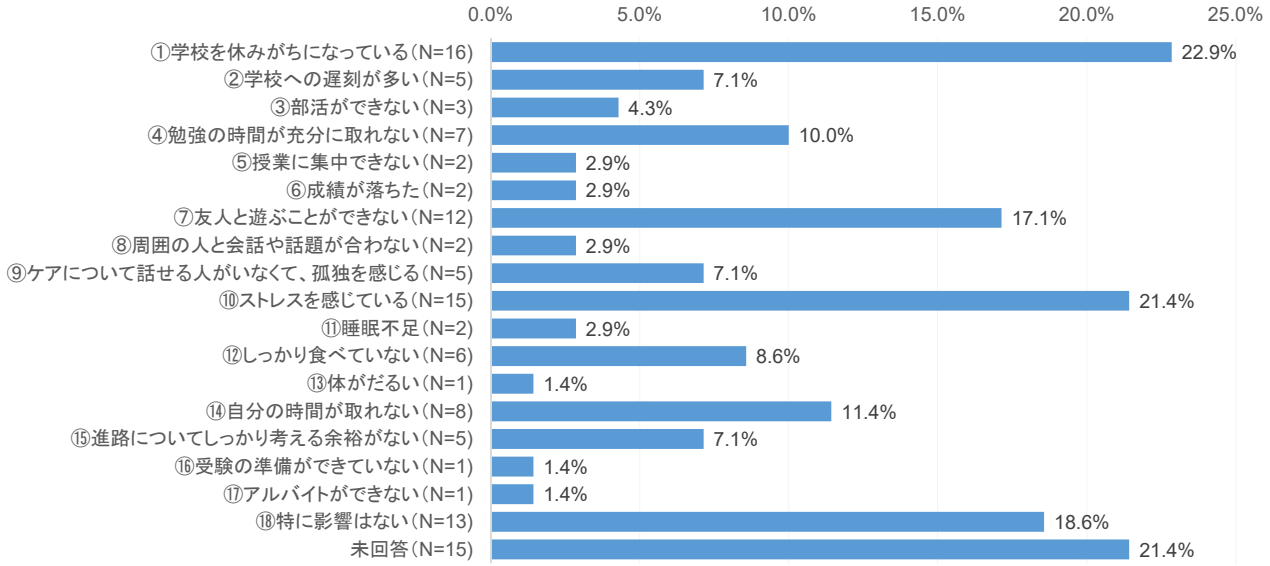


４．ケアの影響

４－１　ヤングケアラーの生活への影響について

生活への影響（N=70）をみると、「学校を休みがちになっている」（N=16）が22.9%で最も高く、次いで、「ストレスを感じている」（N=15）が21.4%、「特に影響はない」（N=13）が18.6%の順であった。

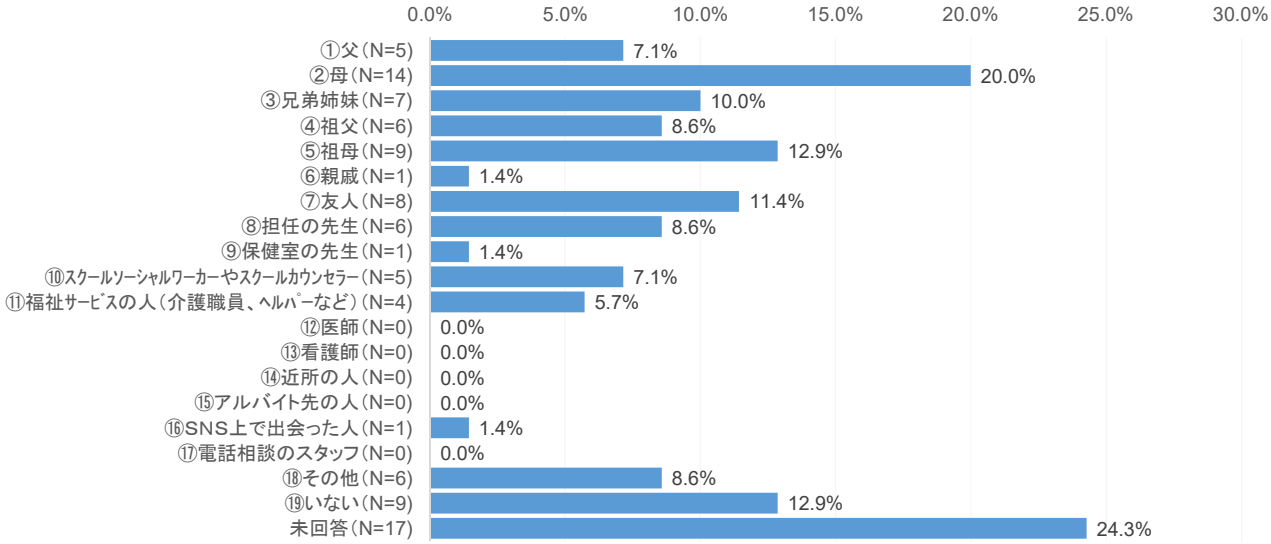
図表4-1　ヤングケアラーの生活への影響（複数回答）



４－２　ケアに関する悩みや不安、愚痴を話せる人

ケアに関する悩みや不安等を話せる人（N=70）をみると、「母」（N=14）が20.0%で最も高く、次いで、「いない」「祖母」がともに（N=9）が12.9%、「友人」（N=8）が11.4% の順であった。

図表4-2　悩みや不安、愚痴を話せる人の割合

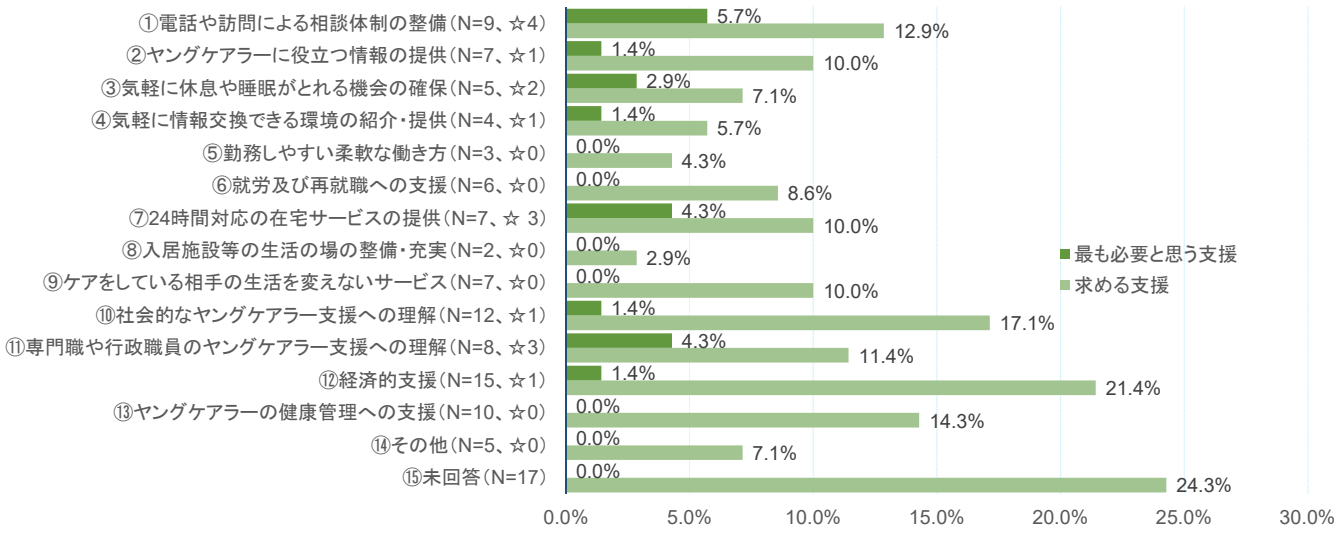


５．必要な支援

５－１　必要と思われる支援

ﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰに必要と思われる支援（N=70）をみると、「経済的支援」（N=15）が21.4%で最も高く、次いで、「社会的なﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ支援への理解」（N=12）が17.1% の順であった。そのうち、最も必要と思われる支援は、「相談体制の整備」（N=4）が5.7%で最も高く、次いで、「24時間対応の在宅サービスの提供」「専門職や行政職員のﾔﾝｸﾞｹｱﾗｰ支援への理解」がともに（N=3）が4.3%の順であった。

図5-1　必要と思われる支援の割合

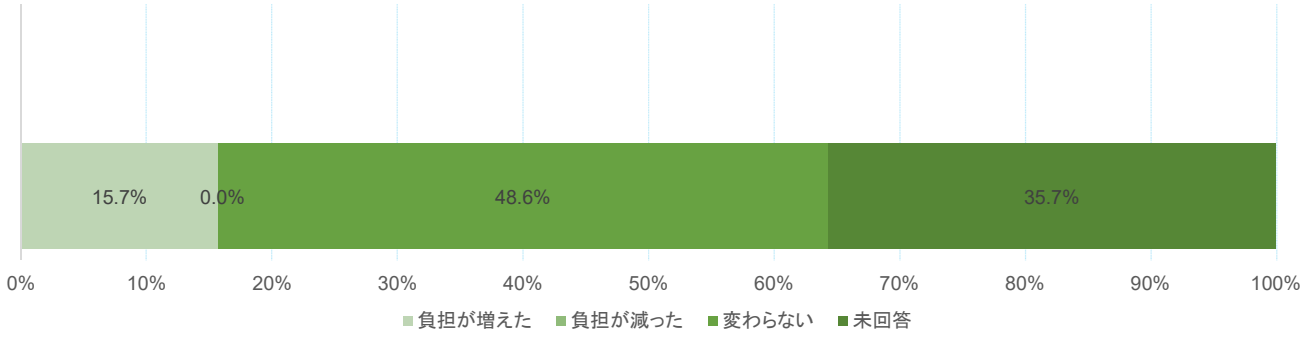


６．その他

６－１　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策前後でのケアの状況

新型コロナウイルス感染症対策前後でのケアの状況（N=70）の割合を見ると「負担が増えた」15.7%、「負担が減った」0.0%、「変わらない」48.6%であった。

図表6-1　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症対策の前後での
ケアの状況の変化の割合



	負担が増えた	負担が減った	変わらない	未回答
ﾔﾝｸﾞ ｹｱﾗｰ総数（N=184）	11	0	34	25
割合（%）	15.7%	0.0%	48.6%	35.7%

６－２　行政、関係機関等への要望

〇学童保育等で休日に利用できるようにしてほしい。平日の退所時間を延長してほしい。〈地域包括〉
〇多感な年頃なので、親切心が仇になる傾向も。学校では正直な気持ちを話せるようなので、学校との連携で情報を共有して欲しい。＜民生委員＞
〇本人の自覚がないまま頑張っていることが多い。学校の担任が子供の背景を見ていく必要がある。＜民生委員＞
〇ネグレクト等で幼い頃から家事や兄弟の世話をしていて、自分がヤングケアラーだという認識がない。又、ヤングケアラーだとわかっても、どこに相談に行けば良いのか分らないので、ヤングケアラーの認知度を上げる活動をお願いします。＜子ども食堂＞＞
〇家事支援など子どもの負担が減るサービスの実施、ひとり親に対する経済的支援の充実＜子ども食堂＞
〇家族の一員としての役割や責任を感じながら成長できるいい機会としながら、本人のみの負担となり抱え込まずにすむ体制を検討していただきたいです。＜障害＞
〇ケアラー本人がのびのびと自分らしく自己肯定感を育めるような社会とのつながりと機会が必要。家庭の状況を教育の現場でもしっかりと把握し、福祉や親任せではなく教育の中でもできることがもっとあると思う。＜障害＞
〇自分の家族はできるだけ自分達で介護したいと思っている。行政や機関に頼るとお金がいる。状況を伝えたり話を聞いてもらうだけで安心する＜介護支援専門員＞

６－３　新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと

＜地域包括＞
〇公園等に外出することが難しくなった
＜民生委員＞
〇元々訪問は拒否、ますます家の様子が分からず不安。
＜子ども食堂＞
〇子ども食堂が閉設のため、月2回の子ども食堂での食事ができない。
〇母の仕事が減り、転職。その結果、労働の時間が増えて子どものケアの時間が増えた
＜障害＞
〇ケアをする時間が長くなり、生活のみだれが出かけている。
〇家庭内でコロナ濃厚接触疑い、濃厚接触者、陽性者が出た場合、長女への支援が滞り本人世帯全体が厳しい状況になる。
＜介護支援専門員＞
〇新型コロナの影響で父親の仕事がなくなった。父親がイライラしお酒の量が増えたことで妹に対する言葉の暴力が増えた。祖母の介護が必要なため、祖母との行動を共にする妹が父親と顔を合わすことで十分な介護ができなくなった